

平成 2 7 年度 東海林ゼミ活動報告書

平成 2 7 年 1 月

東洋大学国際地域学部国際観光学科

目次

第Ⅰ章. はじめに	2
第Ⅱ章. 1年間の歩み	3
第Ⅲ章. 情報発信事業	5
1. 白山まつり発信事業	6
2. 根津・千駄木下町まつり発信事業	8
3. ブログ	9
第Ⅳ章. 出店事業報告	11
1. 白山まつり出店事業	12
(1) 総務班報告	12
(2) 広報班報告	18
(3) 調査班報告	21
(4) 会計班報告	55
2. 下町まつり出店事業	56
(1) 総務班報告	56
(2) 広報班報告	60
(3) 調査班報告	60
(4) 会計班報告	90
3. 各出店事業報告	91
(1) Tシャツ作成	91
(2) 材料類の発注及び価格	93
(3) もち・カルメ焼き作成マニュアル	95
第Ⅴ章. 10期生対象ゼミ説明会報告	116
第Ⅵ章. 谷根千調査隊プロジェクト報告	119
第Ⅶ章. 阿寒湖畔温泉マリモに関する調査報告	124
第Ⅷ章. 1年を振り返って	153
1. 3年生	
2. 2年生	
第Ⅸ章. ゼミ活動会計報告	165
第Ⅹ章. 編集後記	166

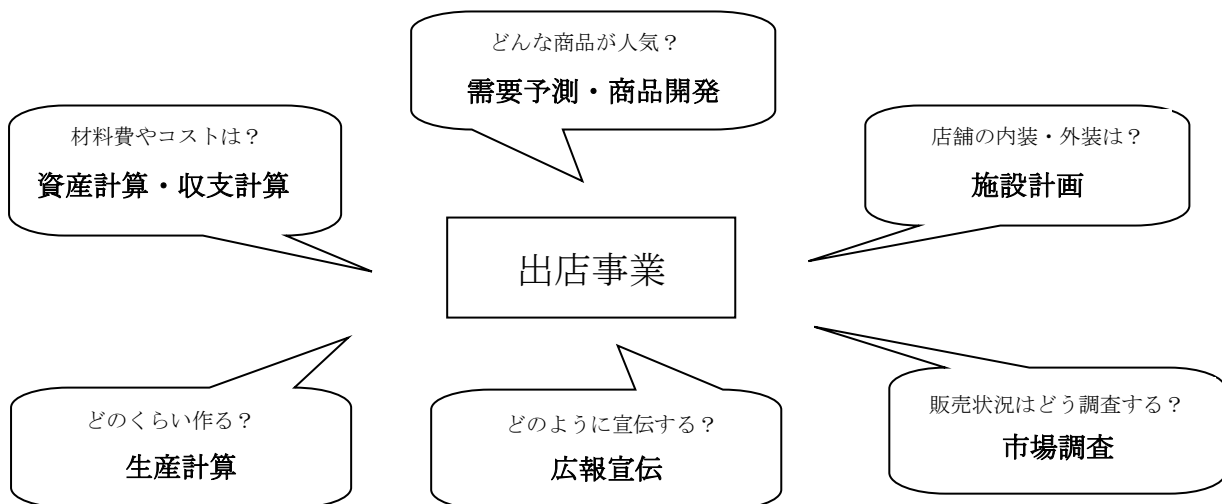
第Ⅰ章. はじめに

私たち東海林ゼミでは、観光資源を活用した地域づくりや地域振興の在り方について研究しています。OJTによる体験型学習事業の一環として、根津・千駄木下町祭りに参加し、「実物に触れ」「実践し」「論理的に思考する」ことを通じて実践的な観光学を学んでいます。身近なものに対して常に疑問や関心を抱き、答えを追及しています。祭りの出店事業が観光産業の何に関係があるのか疑問に思われるかもしれません。しかし、出店事業は「生きた観光学」凝縮された宝庫です。

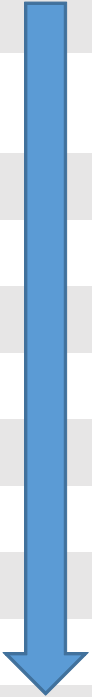
例えば、根津・千駄木祭り利用実態調査は、利用者の消費行動や意識把握市場調査手法の演習となります。また、お餅の需要予測は、利用者数の時間変動に応じた販売量の予測演習にもなります。他にも収支計画や工程管理などの出店事業から学ぶことがたくさんありました。

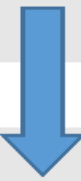
また、阿寒湖畔温泉の観光客が減少していることを課題と考え、ゼミ合宿を利用してマリモの実態調査を行い、学生目線で観光振興の方策を考えました。

このように、座学で学んだ観光学の理論を実体験から学ぶことができました。



第Ⅱ章. 1年間の歩み（第9期生）

	ゼミ活動	総務班	広報班	調査班	会計班
12/15(月)	9期生配属決定日				
1/13(火)	8. 9期生顔合わせ				
2/22(日)	8. 9期生鍋会				
4/14(火)	ゼミガイダンス				
4/21(火)	8期生から班の紹介				
4/24(金)～25(土)	代々木ゼミ合宿	年間スケジュール決め			
4/28(火)	ゼミ説明会準備			調査内容決め	阿寒湖畔調査のテーマ決 事前アンケートの作成・実施・集計
5/12(火)	ゼミ個別説明会		Tシャツの色 決め・発注		
5/19(火)	ecute 投票				
5/26(火)	白山まつり現状報告			根津地域活動センター所 長打ち合わせ	
6/2(火)	情報演習				
6/9(火)	情報演習				
6/16(火)	10期生顔合わせ		Tシャツのデ ザイン決定		
6/23(火)	白山まつり準備		Tシャツの型 紙作り		
6/30(火)	練習会(お餅)				
7/7(火)	白山まつり現状報告		サンプル作成 開始		
7/14(火)	白山まつり準備	白山まつり準備	HP作り	アンケート作成	
7/21(火)	卒論テーマ発表	練習会段取り			
7/28(火)	練習会(お餅)	練習会指示 出し・反省			

8/4(火)	練習会(お餅)	練習会指示 出し・反省	Tシャツ作り開 始		現地アンケー ト作成
8/25(火)	練習会(お餅)	白山まつりス ケジュール・	垂れ幕・看板 作成	下町まつり調 査マニュアル	
9/4(金)	白山まつり前日準 備				
9/5(土)	白山まつり				
9/7(月)~ 11(金)	北海道ゼミ合宿				現地アンケー ト実施
9/22(火)	オリエンテーション				アンケート集 計・分析
9/29(火)	バーチャル観光 マップ演習	下町まつり準 備		根津地域活 動センター所	
10/2(金) ~3(土)	八王子ゼミ合宿				
10/6(火)	白山まつり調査報 告				
10/13(火)	下町まつりの説明			下町まつり調 査マニュアル	
10/16(金)	下町まつり前日準 備				
10/17(土) ~18(日)	下町まつり				
10/20(火)	就活ガイダンス	報告書作成	報告書作成	下町まつり まとめ	
10/27(火)	ゼミ長副ゼミ長選 考			下町まつり 調査報告	
11/10(火)	下町まつり調査報 告				
11/17(火)	阿寒湖畔調査報告			報告書作成	報告書作成
11/24(火)	景観フォトモンタ ージュ演習				
12/1(火)	卒論発表				

情報発信事業

第Ⅲ章．情報発信事業

1．白山まつりHP

第52回白山まつりのホームページを作成した。

(1) 事業目的

日本中どこからでも閲覧可能であるホームページを利用して白山まつりの情報、魅力を発信し多くの人にお祭りに参加してもらいたいという考えからホームページの作成を行った。

(2) 発信方法

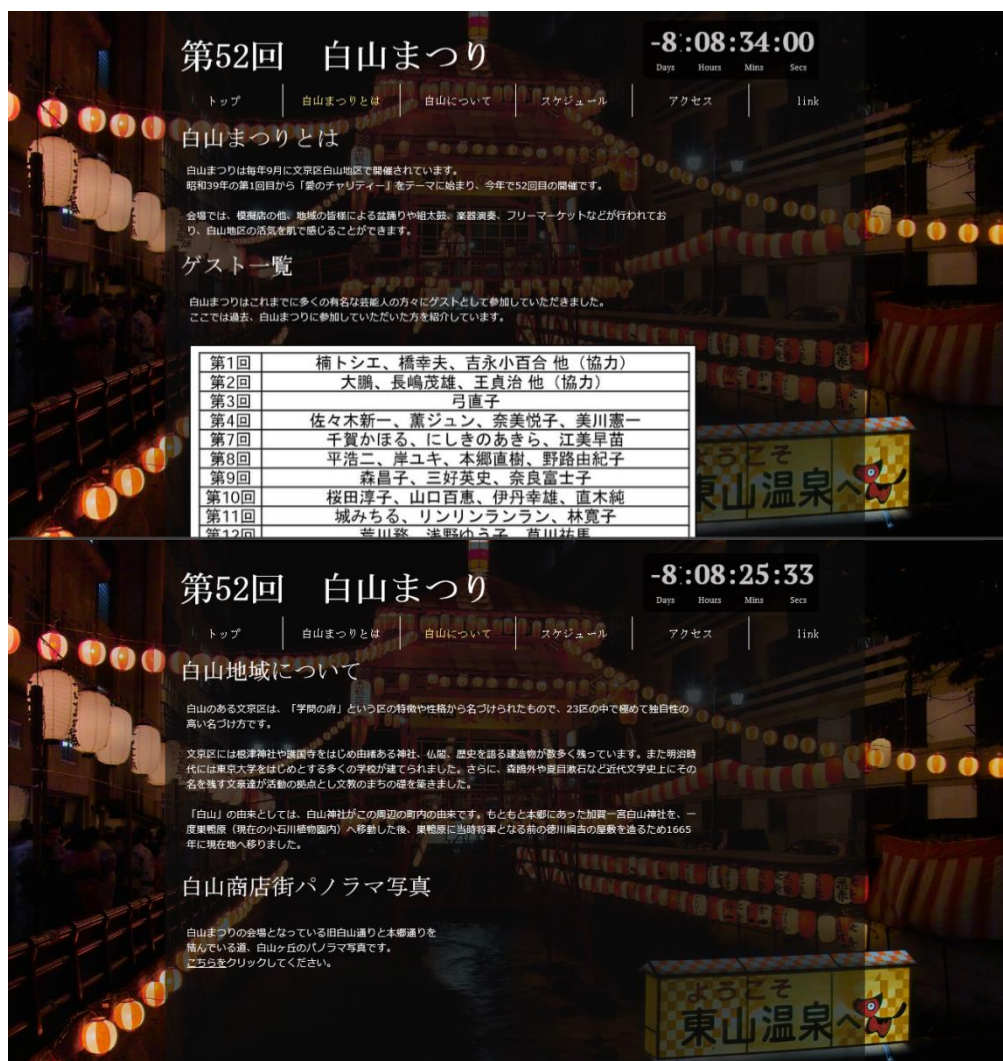
Wix というウェブサイトビルダーを利用し、シンプルで必要な情報に簡単にたどり着くことのできるホームページになるよう心掛けた。

(3) 事業内容

トップページにおまつりのチラシを掲載することで、基本的な情報はこのページだけで伝えることが可能になったのではないかと思います。



白山まつりとは、白山地域についてというページを作り白山まつりをどのような目的で開催しているのか、いつから開催されているのかといった情報や白山という地域はどのような地域なのかということをホームページの利用者に伝え、白山まつりに興味を持ち参加する人が増えることを期待した。



アクセスのページに google map を埋め込むことで白山駅、本駒込駅からのルートやお祭り開催地の周辺の様子が把握しやすくなると考えた。

（４）感想、反省

予想以上に作成に時間がかかり目安としていた 7 月中の公開に間に合わせることが出来なかった。また、シンプルに必要な情報を伝えることのできるホームページにはなったが、本当に必要最低限の情報を伝えているだけなので、おまつりの魅力を十分に伝えこのホームページを見ておまつりに参加したいと思わせる力を持つホームページになったのかという点には疑問が残る。

来年以降は、必要な情報を確実に発信すると同時に白山まつりの魅力も発信できるホームページというものを目指したいと思う。

2. 下町まつりHP

今回作成にあたり、4年の広報グループの準備不足により、期日までに完成させることができなかった。この反省点を踏まえ、今後も改良を加え、より良いホームページ作成に努める。

<http://shoji.art.coocan.jp/festival/index.html>

下町情緒がたっぷり。地元の人達による手作りのおまつりです。

根津・千駄木下町まつり

●トップページ TOP PAGE ●下町まつり CONCEPT ●イベント内容 MENU ●交通案内 ACCESS ●リンク LINK

開催予定
schedule

おまつりのブログ
blog

開催結果
result

根津・千駄木の紹介
nezu*sendagi

おまつり新聞
news



毎年10月に開催される「根津・千駄木下町まつり」は、平成11年から始まった地元の人達によるおまつりです。根津・千駄木地区は、江戸時代や昭和の町の風情を残した町です。台東区の谷中から文京区の根津・千駄木地区は「谷根千（やねせん）」と呼ばれ、古き良き下町情緒があふれた地域として人々に親しまれています。

※天候に左右されるフリーマーケットや各種イベントの実施の有無については、おまつり当日の朝に、このホームページにてお知らせします！

☆今日（17日（土））のおまつりのイベントやフリーマーケットは、予定どおり開催いたします。皆さま、どうぞお越し下さいませよう願っています。



根津・千駄木下町まつり
（東京都文京区）

下町情緒がたっぷり。地元の人達による手作りのおまつりです。

「下町まつり」とは

●トップページ TOP PAGE ●下町まつり CONCEPT ●イベント内容 MENU ●交通案内 ACCESS ●リンク LINK

開催予定
schedule

おまつりのブログ
blog

開催結果
result

根津・千駄木の紹介
nezu*sendagi

おまつり新聞
news

● 下町まつりの紹介 introduction

概要

根津・千駄木下町まつりは、毎年10月に根津・千駄木地区で開催されています。このおまつりは、地域の観光振興等を目的として平成10年に始まりました。会場はメイン会場の根津神社境内と、根津神社の周辺にある7か所のサブ会場に分かれています。メイン会場の根津神社境内では、模擬店、大道芸、踊りや楽器演奏、フリーマーケットで毎年賑わっています。それぞれのサブ会場では、地域住民による出し物などが行われており、町の活気を肌で感じることが出来ます。また、ガイドが下町の名所・旧跡を案内する下町めぐり、スタンプラリー、地元商店街一斉売り出しも行われています。

根津・千駄木の町 <谷根千（やねせん）>

根津・千駄木は江戸時代や昭和の町の風情を残した町です。台東区の谷中から文京区の根津・千駄木は「谷根千（やねせん）」と呼ばれ、古き良き下町情緒があふれた地域として人々に親しまれています。

<谷根千地区全体の概要については、こちらをご覧ください>

★エキキュート日経里「谷根千MAP」のHP
<http://www.ecute.jp/nippon/yanesenmap/index.html>



根津・千駄木下町まつり
（東京都文京区）



3. ブログ

2015 年 2 月以降ブログの更新が滞っていたため 9 月からブログの更新を再開した。

(1) 事業目的

白山地域、谷根千地域の魅力を多くの人が見ることが出来るブログという手段を利用して発信することを目的として実施している。また東海林ゼミが普段どのような活動をしているのか紹介することで地域の人たちにとってより身近な存在になることができればと考え普段のゼミ活動の様子も紹介している。

(2) 発信方法

無料ブログサービス FC2 ブログを利用。毎週火曜日を更新日として谷根千調査隊の班ごとに週替わりでブログの更新を行った。

(3) 更新内容

ゼミ合宿やお祭りへの出店等ゼミ活動で行ったことを基本的なテーマとして各班それぞれの内容で更新を行った。

表 1 ブログ更新内容

日付	タイトル
2015/09/24	白山まつり 2015
2015/09/29	9 期生 北海道ゼミ合宿
2015/10/06	八王子合宿
2015/10/13	谷根千調査隊 & 根津・千駄木下町まつり
2015/10/20	第 17 回 根津・千駄木下町まつり
2015/10/23	班ごとの仕事
2015/11/10	谷根千調査隊～谷根千グルメ～
2015/11/17	谷根千調査隊～ネツシフォン～
2015/11/24	谷根千調査隊～谷中銀座商店街～

(4) アクセス分析

年/月	ユニークアクセス	トータルアクセス	グラフ
2015/01			0.0%
2015/02			0.0%
2015/03			0.0%
2015/04			0.0%
2015/05			0.0%
2015/06			0.0%
2015/07	16	50	 32.0%
2015/08	32	78	 41.0%
2015/09	68	220	 30.9%
2015/10	229	748	 30.6%
2015/11	48	269	 17.8%
2015/12			0.0%
合計	393	1,365	

図1. 月別アクセス数

白山まつりの開催される9月と下町まつりの開催される10月にアクセス数が増加していることが分かった。多くの閲覧者が白山まつり、下町まつりに興味を持っていると言える。

(5) 感想

図1を見てわかるようにお祭りの開催される月のブログの閲覧者数とそれ以外の月の閲覧者数の差が大きい。この差を埋めるためには大きなイベントがないときでも閲覧者の興味を引くような情報を発信する必要があると考える。

また、全体的な閲覧者数が少ないのではないかと感じた。これはこのブログの存在を知っている人自体が少ないことが原因だと思われるため、TwitterやFacebookなどのソーシャルネットワーキングサービスを上手く利用してブログの認知度を高める必要があるだろう。

出店事業報告

第Ⅳ章. 出店事業報告

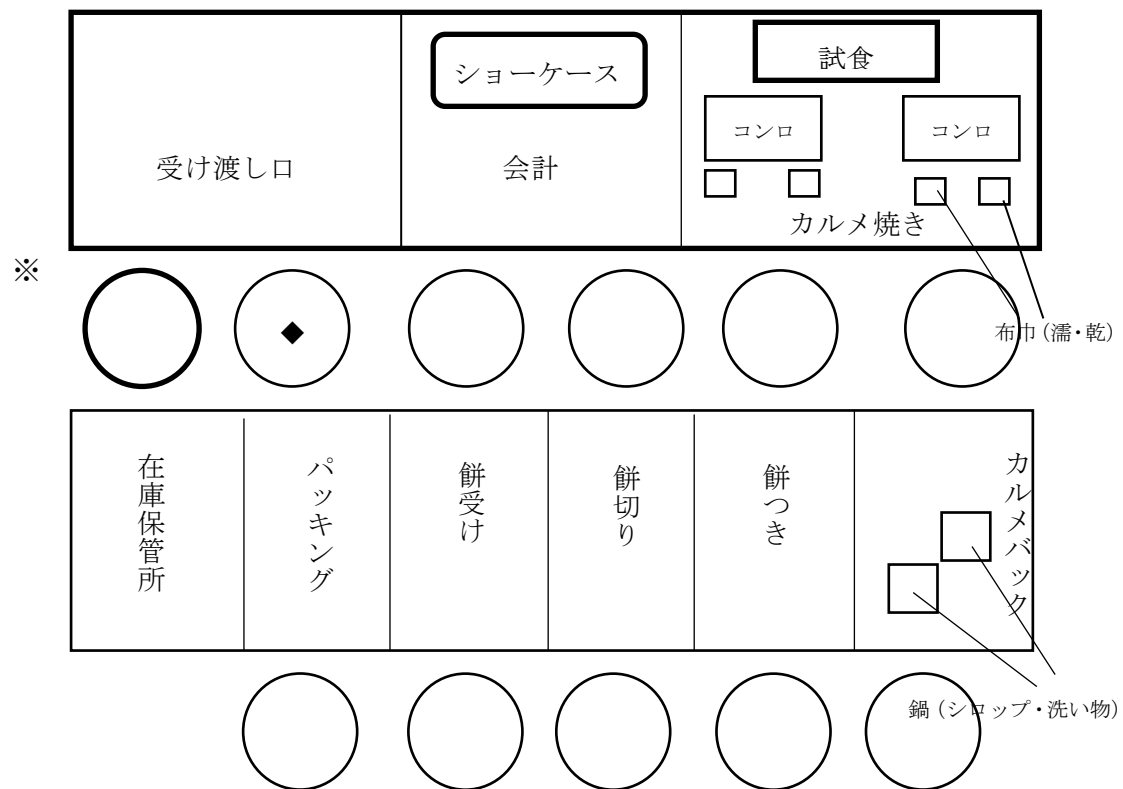
1. 白山まつり

(1) 総務班報告

① 店舗レイアウト

9期生総務班で作業しやすいレイアウトを実際に試行してみて決定した。

白山まつり レイアウト



* 机下に工具箱

※ セイロ場所

◆ 輪ゴムかけ

・カルメ焼き 2人・カルメバック 1人 会計 2人・商品渡し 1人・セイロ 2人
餅つき・餅切り・餅受け・パッキング・輪ゴムかけ各1人

② 持ち物リスト

I お餅

①大根おろしの準備

- ☐ピーラー×2
- ☐ザル
- ☐包丁
- ☐まな板
- ☐電動大根おろし
- ☐ボール×2
- ☐ジップロック（大根おろし保管用）
- ☐木ベラ
- ☐計量カップ
- ☐おたま
- ☐ポリバケツ（白）
- ☐アルコールスプレー
- ☐ゴム手袋
- ☐保冷バック（☐保冷剤）

材料類

- ☐大根
- ☐味の素
- ☐しょう油

②あんこの準備

- ☐ボール
- ☐ポリバケツ（白）
- ☐木ベラ
- ☐計量カップ
- ☐割箸
- ☐おたま
- ☐ジップロック
- ☐ゴム手袋
- ☐アルコールスプレー
- ☐保冷バック（☐保冷剤）

材料

- ☐あんこ
- ☐お湯

③蒸し関係

- ☐コンロ
- ☐空の段ボール
- ☐羽釜
- ☐セイロ×2
- ☐プロパンガス
- ☐蒸し布×3
- ☐やかん
- ☐ポリバケツ 中×2
- ☐チャッカマン
- ☐レンガ×4
- ☐割箸
- ☐軍手×2 セット

④餅つき関係

- ☐餅つき機
- ☐手水用のボール？

（つきあがった餅を餅きり機に移す時に使用）

- ☐しゃもじ
- ☐竹串
- ☐ゴム手袋
- ☐キッチンペーパー
- （☐時計）

⑤餅きり・パッキング関係

- ☐餅切り機
- ☐ポリパック ☐小パック
- ☐バット（切った餅を入れる容器）
- ☐輪ゴム
- ☐箸
- ☐レジ袋
- ☐トング×2
- ☐ジップロック（味付け補充用）
- ☐アルミ板
- ☐クランプ×2
- ☐秤
- ☐ウェットティッシュ
- ☐ゴム手袋

Ⅱ カルメ焼き

- ☐ガスコンロ
 - ☐ガス
 - ☐キャンプ用コンロ ×2
 - ☐温度計 ×2
 - ☐濡れふきん ×2
 - ☐乾いたふきん ×2
 - ☐かき混ぜ棒 ×8
 - ☐温度計を入れる容器 ×2
 - ☐重曹卵入れ ×2
 - ☐シロップすくうスプーン
 - ☐おたま ×8
 - ☐おたま置き ×6
 - ☐鍋 ×2（洗い物用、シロップ用）
 - ☐割箸
 - ☐タッパー
 - ☐袋
 - ☐キッチンペーパー
 - ☐洗い物用ふきん（あれば）
- 材料
- ☐ザラメシロップ

Ⅲ 機材類のセッティング

- ☐テーブル ×7
- ☐ビニールシート白（床と机）
- ☐養生テープ
- ☐小ケース×3
- ☐アルコール
- ☐椅子 ×2
- ☐ごみ袋
- ☐コードリール
- ☐ウェットティッシュ
- ☐キッチンペーパー
- ☐ふきん
- ☐保温バック
- ☐消火器
- ☐テント
- ☐工具箱

Ⅳ 後片付け

- ☐洗剤
- ☐スポンジ
- ☐ふきん
- ☐雑巾

V 会計

- ☐電卓
- ☐紙

Ⅵ 店舗レイアウト

- ☐お餅旗
- ☐カルメ焼き旗
- ☐メニュー表
- ☐お餅看板
- お餅配布看板

③ 白山祭りシフト 13:00～17:00

役割	担当者		役割	担当者
セイロ 1	小又		*カルメ焼き 1	玉那覇 福原
セイロ 2	深尾		カルメ焼き 2	宮本 前田
餅つき	藤次		*カルメ焼き補佐	岩田
*餅切り 1	阪野		会計 1	梶間
餅切り 2	樽谷		会計 2	下山
餅受け	前島		*餅渡し	山本
パッキング	佐竹		列整理	大日方
輪ゴム	小林			

●片付け組 (16:30～) 深尾、藤次、阪野、樽谷

*餅切り：餅切りは基本1人で行う。もう1人は餅切り機の洗いに回る。交代制

*カルメ焼き

：カルメ焼き 1 → 13:00～15:00 カルメ焼き

15:00～17:00 餅の補佐 無料配布 (16:00～)

カルメ焼き 2 → 13:00～15:00 餅の補佐

15:00～17:00 カルメ焼き

*カルメ焼き補佐：ザラメシロップ作りやカルメ焼きの洗いものをする。

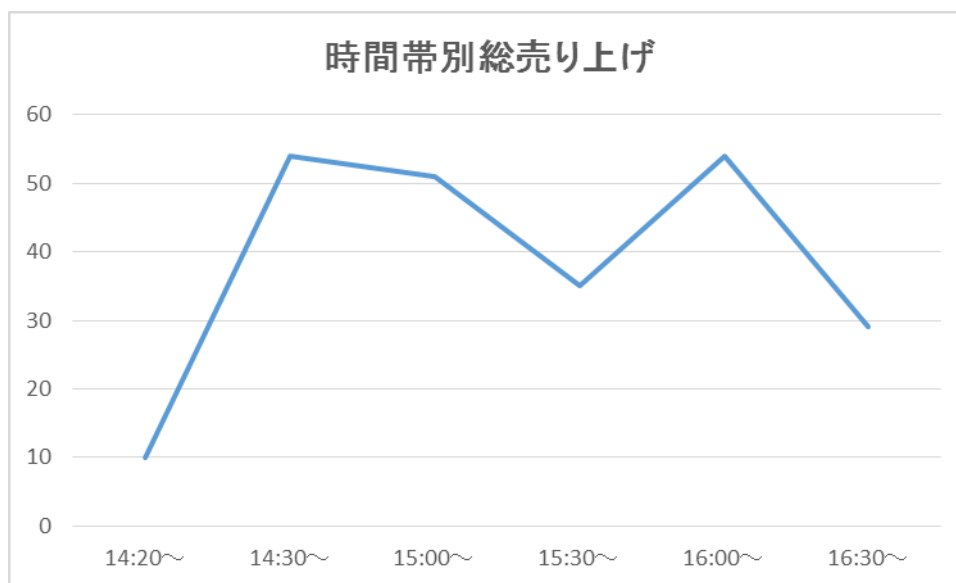
*餅渡し：お客様に餅を渡す。在庫管理を行う。

練習会でみんなの動きを見て、総務班でシフトを組んだ。出店時間が短かったため休憩は入れなかった。

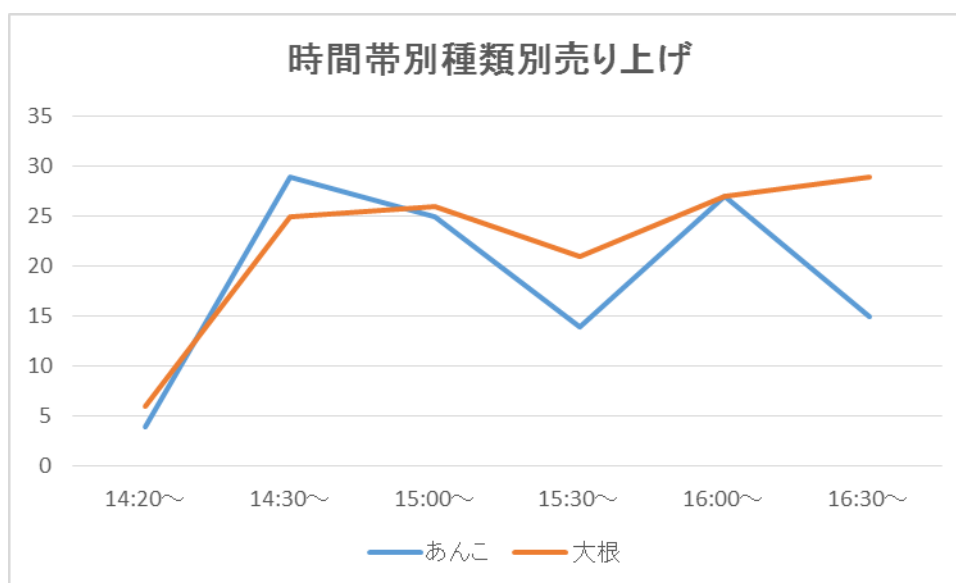
④ 売上数結果

以下のグラフは白山祭りでの出店事業での販売結果を示したものである。

① 時間帯別総売り上げ



② 時間帯別種類別売り上げ



全体で見ると、販売開始以降一度売り上げが下がった時間帯があった。これは、16時から子供向けに配る用の餅を準備していたため販売用の餅が不足していたことが考えられる。種類別では、どちらも売り上げ数の変動は似ているが大根の方が時間帯によっての差が少なかった。

⑤□白山まつり□反省点□

《全体》□

- ・最初の時間帯の声出しが小さかった。□
- ・バタバタしていた。□
- ・他の係との連携が出来なかった。□
- ・忘れ物があった。(ポリバケツなど) □
- ・休憩をとる時間があまりなかった。□
- ・時間配分が難しかった□

□ □

□

《おもち》□

- ・セイロともち担当の連携がとられておらず、無駄な時間が出来てしまった。□
- ・時間通りに売ることが出来なかった。□
- ・最初から最後まで同じペースで仕事を行えなかった。□
- ・その都度在庫管理を把握していれば、常にストックが出来た□
- ・セイロの準備に時間がかかってしまった。□
- ・もち米を台車で運んでいる時にもち米の袋が破けてしまった□
- ・予想以上の売れ行きでストックが出来なった□

□

□

《カルメ焼き》□□

- ・人が多く集まってきたときにカルメ焼きが焦げてしまい、うまく対応が出来なかった□
- ・カルメ焼きを配る袋がビニールだったため、出来たばかりのカルメ焼きを入れるとビニールが溶けてしまう□

→下町まつりは紙袋に変更□

□

□

《会計》□

- ・混雑時、注文票をうまく活用することが出来なった□
- ・何を売っているのかお客さんから分かりづらい□

□→完成品を店頭に置く□

- ・バタバタしてしまった□

(2) 広報班報告

① サイン

販売商品及び、会計の場所を示すために、A 3 サイズの表を作成。店舗の前垂れ部分と上の棒部分に取り付ける。なお、売り切れ表示(売り切れ商品のサインの上に貼りつける)は昨年作成したものを引き続き使用。

作成物：サイン(商品名、価格、味の種類) (図 1)

渡し口、会計案内 (図 2, 図 3)

カルメ焼き販促(試食販促) (図 4)

子供にお餅を配る際の呼び込みサイン (図 5)

作成：wordで作成したものを印刷しラミネートをした。サインはA 4 で分割印刷

してA 3 サイズになるように貼り付け、遠くから見やすいように大きく作りラミネートをした。サインはそれぞれ前垂れに貼る用と上に貼る用と余裕をもって8枚を用意する。上部にはパンチで穴をあけておく。

会計案内は当初一枚であったが、実際に祭りに参加しレジの二台体制がお客様に伝わらなかったため、矢印をつけてわかりやすいようにもう一枚作り、ショーケースに貼りつけた。



図 1



図 2



図 3

図 4

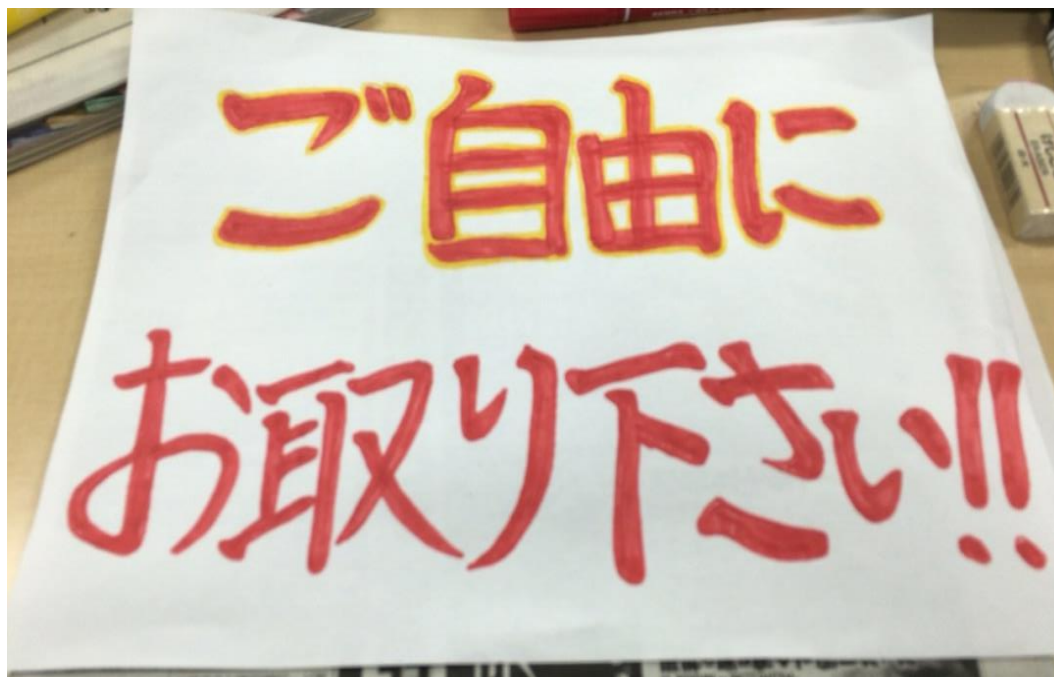


図 5

 **お子様専用**
限定 100 個
お餅 最後尾

反省点

サインに穴をあけたが安全ピンを使用せず、テープで貼りつけたため外観が少し汚くなってしまった。



② メニュー表

メニュー表を作成し、レジのショーケースの上に配置する。注文時にお客様に見て頂くことを想定して作成する。

作成物：アクリルケースに合わせたサイズのメニュー表(商品名、味の種類、価格)

作成方法：wordで作成したものをラミネートし、アクリルケースをはさむ。

MENU

おもち 250 円

- ・ あんこ
- ・ 大根おろし

(3) 調查班報告

第 52 回白山まつり 東海林ゼミアンケート

本調査は白山まつりの利用実態調査を目的として行っています。回答は、統計的に処理され、本目的以外には使用致しません。大変お手数をおかけしますが、本調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

調査主体：東洋大学東海林ゼミ

- [illegible]

1. アンケート調査

・目的

白山まつりをよりよいイベントにするため、白山まつりに関する地域住民の認知度を知ることが目的として実施したものである。

・日時

平成 27 年 9 月 5 日

・場所

白山まつり会場

・被験者

来場者 134 人

調査結果の偏りを少なくするために、調査担当者内で年代、性別毎の分担を均等に、あらかじめ決めておき、調査を行った。年代に関しては、それぞれの年代において均等な割合となるよう心がけていたが、2 点の理由により、均等な割合の調査結果とはいえなくなった。まず、来訪者の外見で当たりをつけて調査を実施した関係で、担当の年代ではなかったということが発生してしまったためである。そして、単純に来訪者全体の年代に偏りがあるため、被験者を発見することが困難であったためである。

・調査項目

＜項目＞	＜ねらい＞
被験者の属性(性別・年齢)	男女比、購入者の年齢層を把握する
居住地域	地元住民であるかどうかを知る
白山まつりを知ったきっかけ	有効な情報手段を知る
同伴者	白山まつりに誰と来ているかを把握する
来訪目的	白山まつりに来る目的を把握する
来訪回数	リピート率を把握する
良い点	評価されている点を把握する
要望	地元住民の意見の取り入れ

・アンケート方法

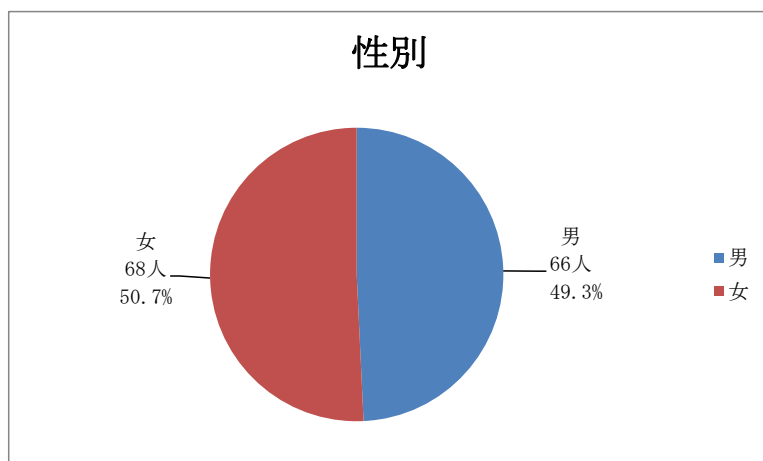
直接聞き取り方式により、実施した。

～白山まつりの概要～

白山まつりは、毎年9月に文京区・白山地区で開催されている。このお祭りは、地域の観光振興等を目的として昭和39年に始まった。会場では模擬店の他、地域の皆様による盆踊りや組太鼓、楽器演奏、フリーマーケットなどが行われており、白山地区の活気を肌で感じることができる。今年で52回目を迎える歴史の長いお祭りだ。

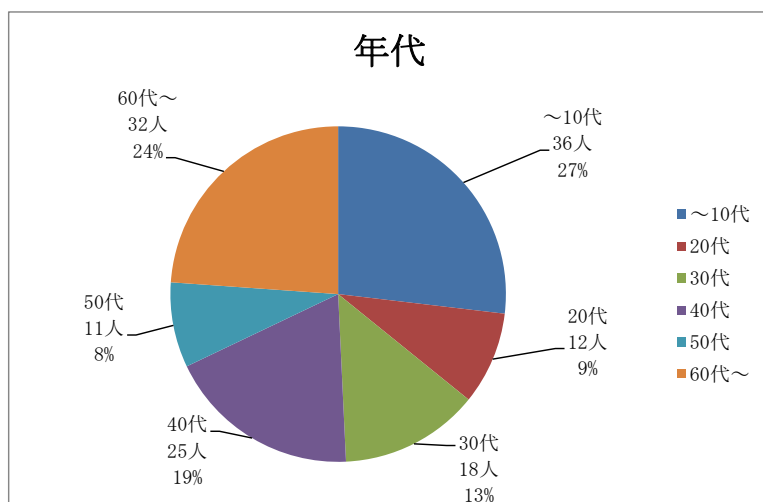
アンケート調査結果

・性別



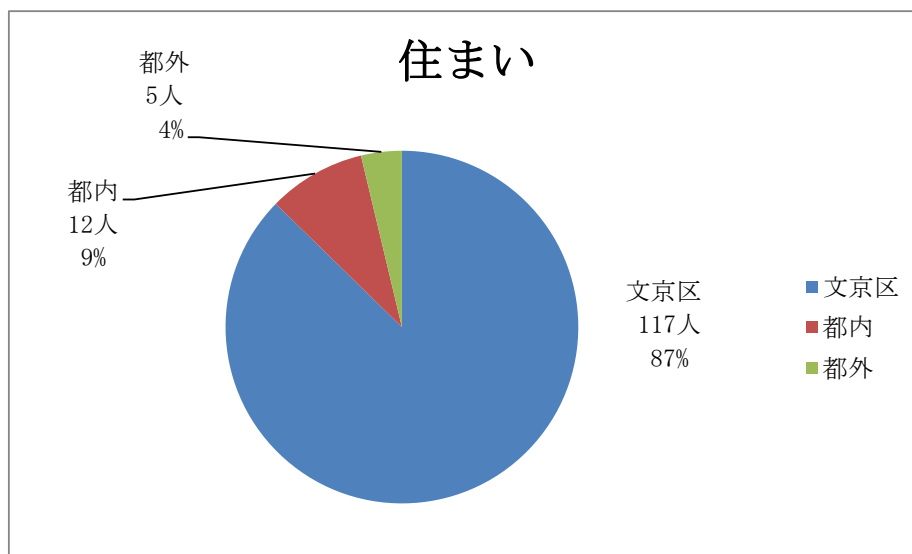
性別のグラフを見ると、女性が68人で50.7%、男性が66人で49.3%となった。男女による偏りがほとんど見られない結果となっている。

・年代



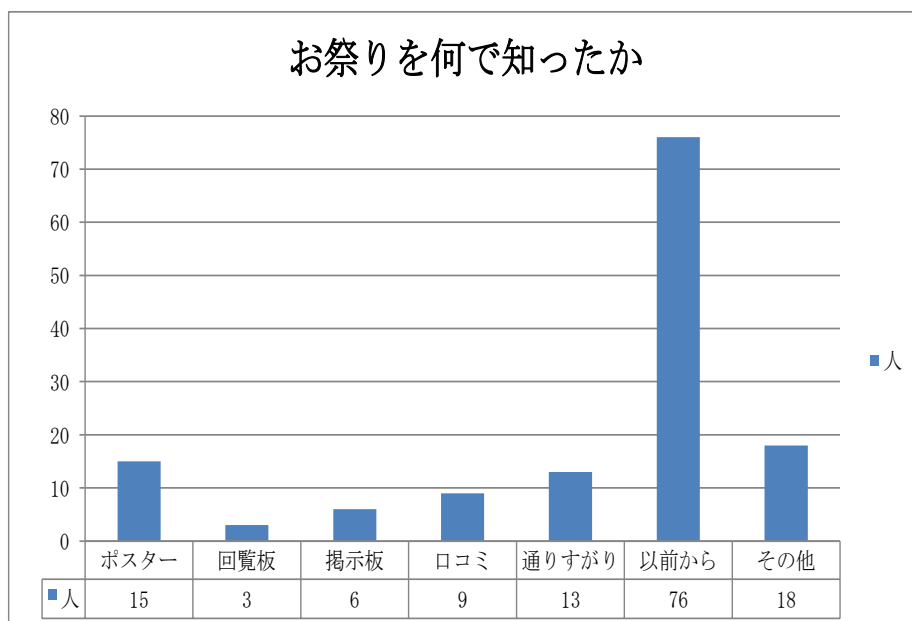
被験者の年代のグラフを見ると、10代以下と60代以上の方が最も多かった。したがって今回の調査結果は、子供とお年寄りのものが他の年代より反映されている。

・住まい



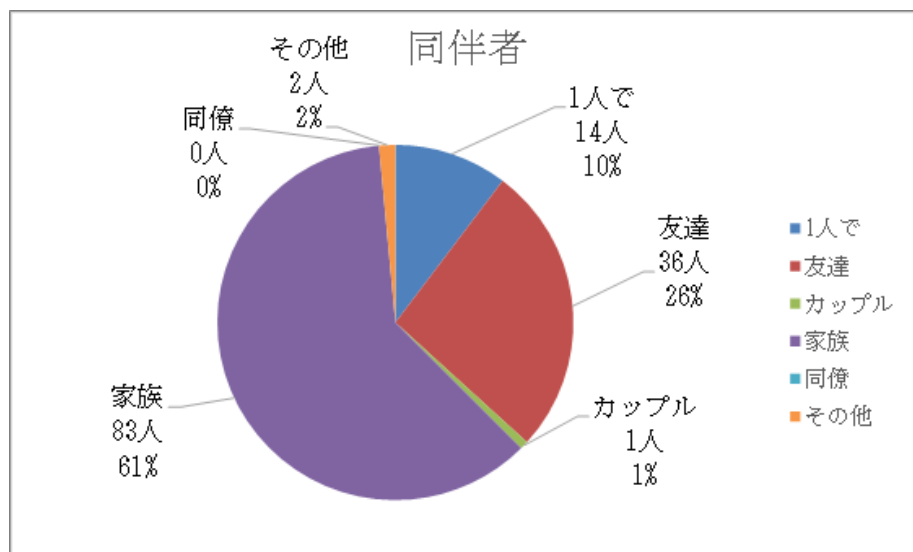
住まいのグラフを見てみると、文京区の方が 117 人で 87%と最も多かった。このことから、白山まつりが近隣地域の住民に親しまれているおまつりであることがわかる。

・お祭りを何で知ったか



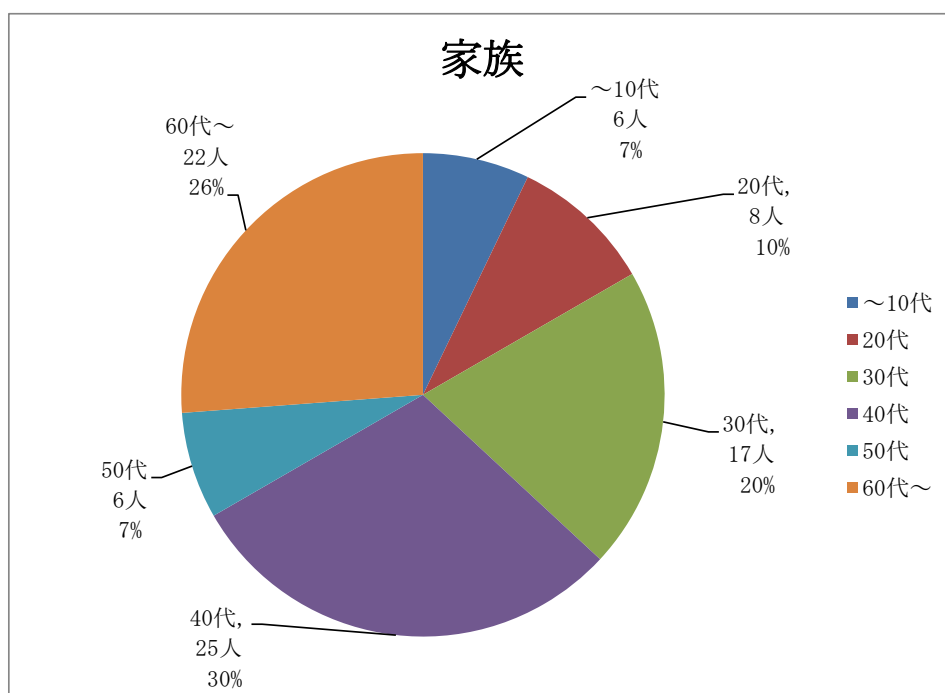
白山まつりを知るきっかけとなった媒体に関するグラフでは、以前から知っていると答えた人が 76 人と最も多いことがわかる。先ほどのグラフに示した通り、白山まつり来訪者の 87%が文京区に在住しているため、近隣地域の住民に親しまれているお祭りであることがわかる。

・ 同伴者



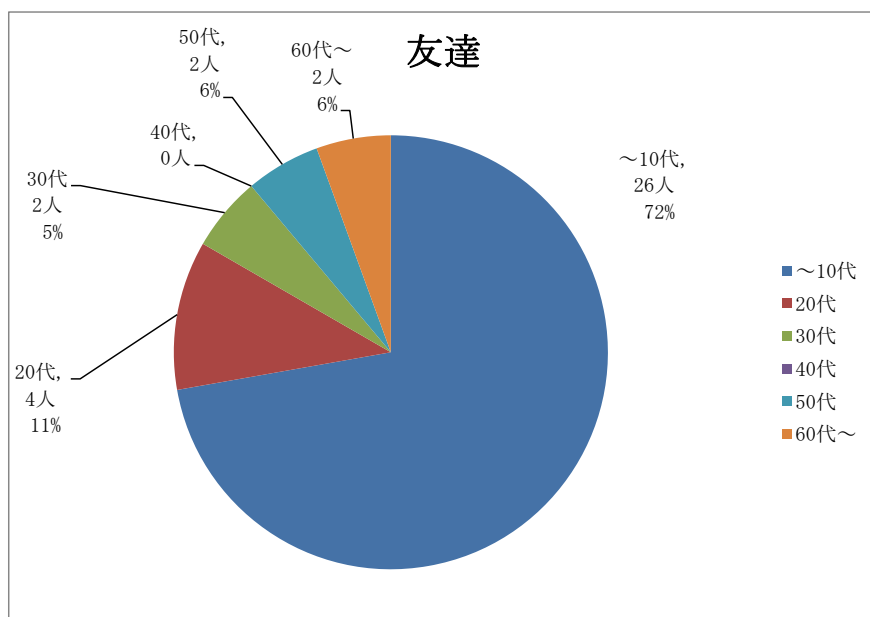
同伴者のグラフを見てみると、家族で訪れた来訪者が 83 人で 61%と最も多かった。このことから、白山まつりは家族で訪れて楽しまれているお祭りであることがわかる。

・ 同伴者の家族における年代別の割合



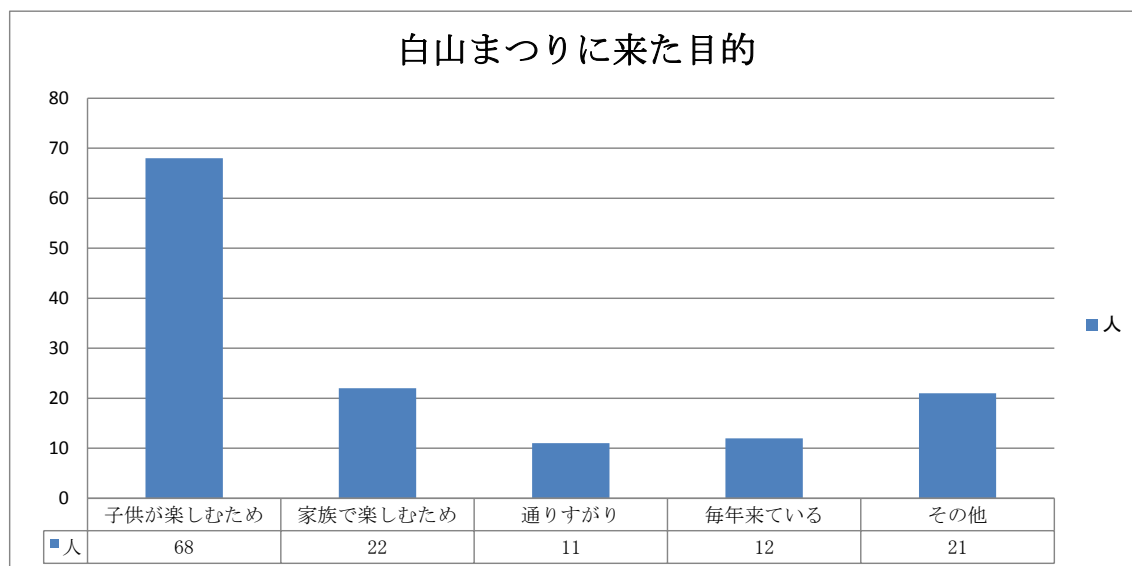
同伴者の家族における年代別の割合を見てみると、40代が 25 人で 30%と最も多かった。次いで 60 代以上が 22 人で 26%、30 代が 17 人で 20%となっている。

・ 同伴者の友達における年代別の割合



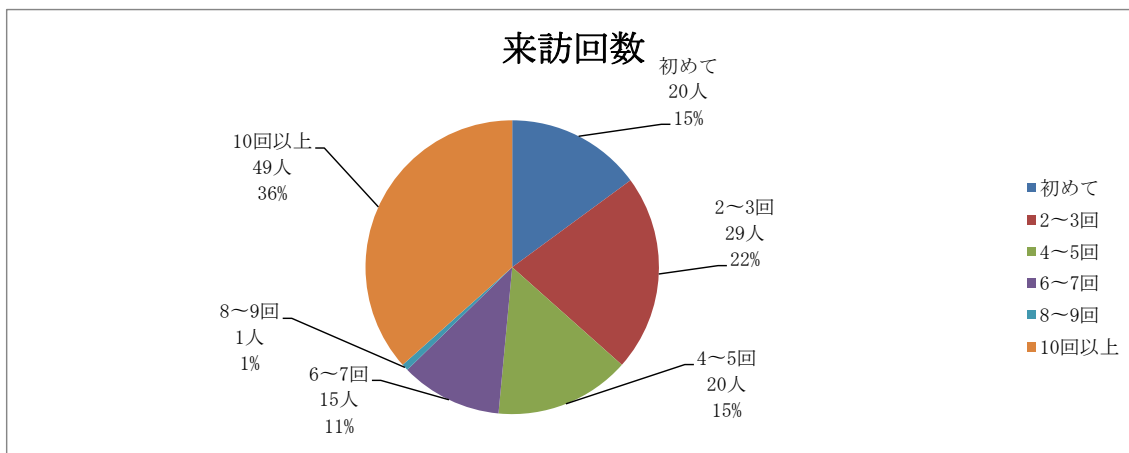
同伴者の友達における年代別の割合を見てみると、10代以下が26人で72%と最も多かった。このことから、友達と訪れているのは子供が多いということがわかる。

・ 白山まつりに来た目的



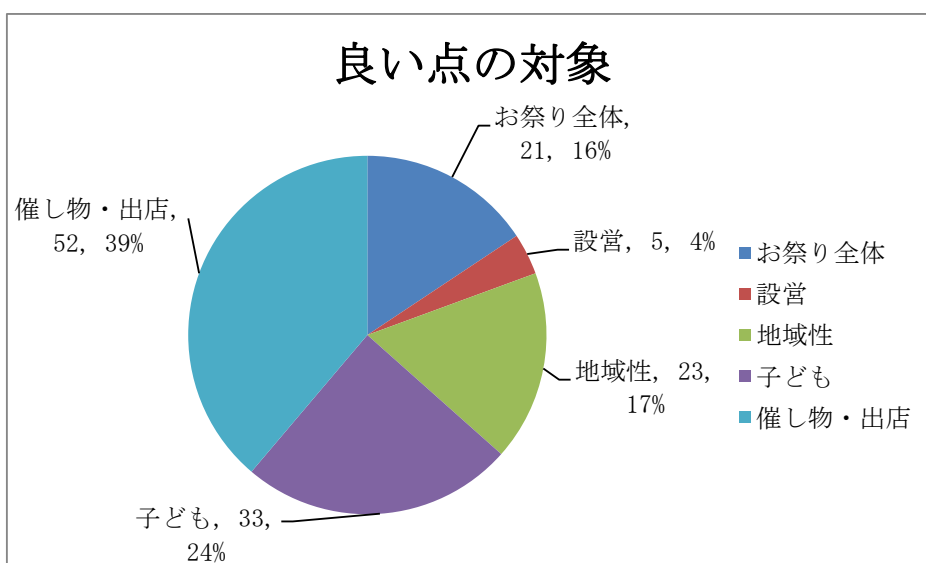
アンケートでは、白山まつりに来た目的を自由回答で答えてもらった。まとめる際に、「子供が楽しむため」、「家族で楽しむため」、「通りすがり」、「毎年来ている」、「その他」の5つの項目を設定し、分類した。最も多かったのが、子供が楽しむためといった内容の68人であった。次いで、家族で楽しむための22人であった。この結果から、子供や家族が楽しめるお祭りであるということが分かった。

・来訪回数



来訪回数のグラフを見ると、10回以上が49人で36%と最も多かった。次いで2～3回の29人と続く。このことから、白山まつりの来訪者にはリピーターが多いことがわかる。

・良い点



白山まつりの良い点における対象を見ると、催し物・出店が52件で39%と最も多かった。次いで子どもが33人で24%、地域性が23人で17%となっている。このことから、催し物や出店の満足度が高いだけでなく、子供が喜ぶことや地域性、つまり白山まつりの健全性に対する評価も高いことがわかる。

～意見の詳細～

催し物・出店に関する意見(39%)

催し物に関する意見

イベントが充実している

体験型のものがある

ごみ収集車、バンド、盆踊り, etc.

出店に関する意見

①食べ物に関する意見

屋台の種類が多い

美味しい

安い

物産展、焼きそば、焼き鳥、とうもろこし、ビール、おもち, etc.

②ゲームなどに関する意見

遊ぶところが多い

楽しい

安い

はずれがなく必ず何かもらえる

ゲーム、わなげ、金魚すくい、子供ネイル、魚とたいこのゲーム、ホッケーのゲーム, etc.

子供に関する意見(24%)

子供が多い

子供向けのものが多い

友達に会える

新しい友達と仲良くなれる

小学校で券をくれる

地域性に関する意見(17%)

地域性がある

手作り感

安心感・安定感がある

チームワークがある

的屋がない

近い

東洋大生が出店しているため来やすい

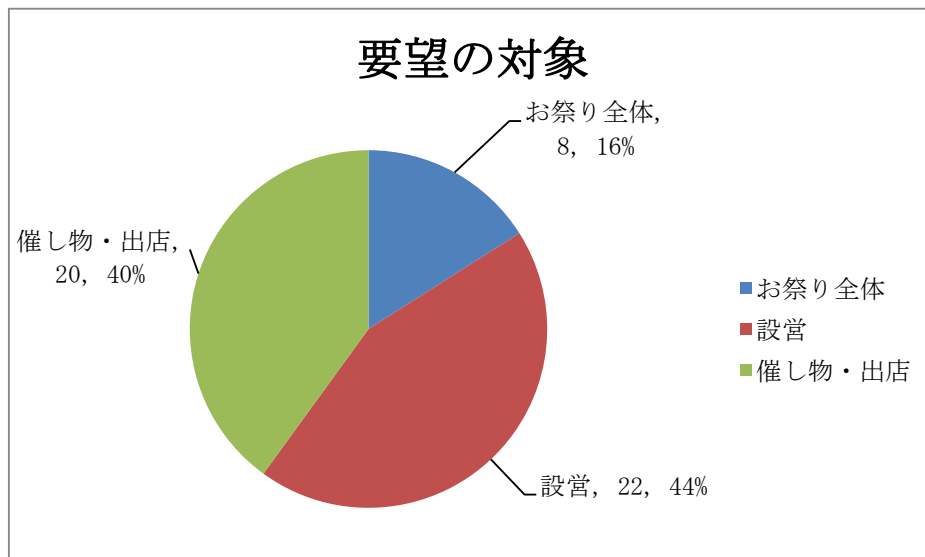
お祭り全体に対する意見(16%)

楽しい
皆が楽しめる
にぎやか、活気がある
雰囲気が良い
なつかしさがある
ゆったりしている
平和なイメージ
チャリティーの目的がある
様々なお店、珍しいお店がある
バランスの良さ

設営に関する意見(4%)

歩行者天国になる
駐輪場がある
ゴミ箱が多い
広い

・要望



要望の対象のグラフを見ると、設営が 22 件で 44%と最も多かった。次いで催し物・出店が 20 件で 40%、お祭り全体が 16%となっている。要望の詳細は、以下の通りである。

～意見の詳細～

設営に関する意見(44%)

- トイレがほしい(7 件)
- イスがほしい(7 件)
- 手洗い場がほしい
- 食べる場所を増やしてほしい
- 休憩所がほしい
- 大人も利用できる無料休憩所がほしい
- ゴミ捨て場を増やしてほしい
- ゴミ捨て場をわかりやすくしてほしい
- 雨対策の屋根がほしい

催し物・出店に関する意見(40%)

- お店を増やしてほしい(11 件)
- 出店数の多さとイベントスペースの大きさによる混雑を改善してほしい
- アナウンスを聞き取りやすくしてほしい
- 消防車の体験乗車がほしい
- 包丁を研ぐ人に 2 日間来てほしい
- 食べ物・ゲームに変化がほしい
- 中学生でも楽しめるゲームがほしい
- チョコバナナ、わたあめ, etc.

お祭り全体に対する意見(16%)

- 今のままでばっちり OK ! (6 件)
- 開催の日程が直前までわからないので HP がほしい
- 13 時からいたのになかなか始まらなかった
- 子供のお小遣いで遊べる範囲の価格設定をしてほしい
- 列の整理をきちんと行ってほしい
- 以前の、近辺で使える券をもらえる制度を復活して欲しい
- 文京区が栄えるよう今後も頑張してほしい
- 継続してほしい

アンケート調査のまとめ

白山まつりは、子供、そして家族連れが楽しめるお祭りである。理由は、来訪目的「子供が楽しむため」、「家族で楽しむため」といった回答が多く見受けられたからである。

これからも子供、そして家族連れが楽しめるお祭り作りを意識することで、地域に長く愛される祭りになるのではないだろうか。

2. 来訪者カウンター調査

1. 調査目的

白山まつりの来訪者数を調査し、来訪者の現状を把握するためである。

2. 日時

平成 27 年 9 月 5 日

3. 場所及び被験者

白山まつりの白山交差点と向丘交差点の二箇所において、来訪者を対象に実施した。

4. 方法

白山交差点と向丘交差点の二箇所において、カウンターをバインダーに取り付け配置し、来訪者をカウントした。

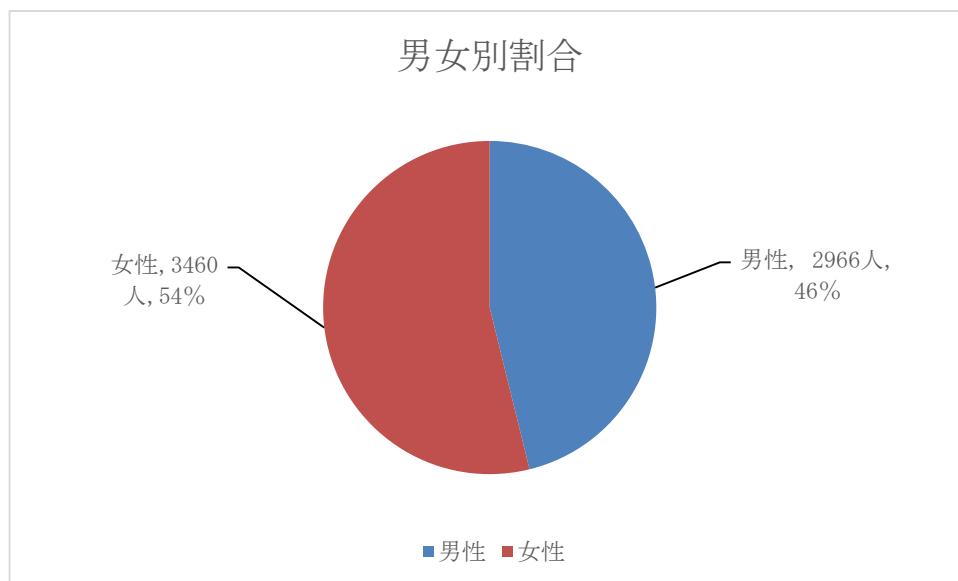
5. 記録項目

今回、我々は被験者に対して、男女別、年代別（～19 歳、20～39 歳、40～59 歳、60 歳～）グループ別（ひとり、家族、男女ペア、友達）に分類し、カウントした。

6. 調査結果

総来訪者数は 6426 人であった。

男女別の比率は以下のようになった。



今回のカウンター調査で 6426 人カウントし、そのうち男性は 2966 人で全体の 57%である。女性は 3460 人で全体の 54%になり、男女の比率は女性の人数が 494 人多い結果になった。

(1)30 分ごとの来訪者数

①向丘

向丘 男性

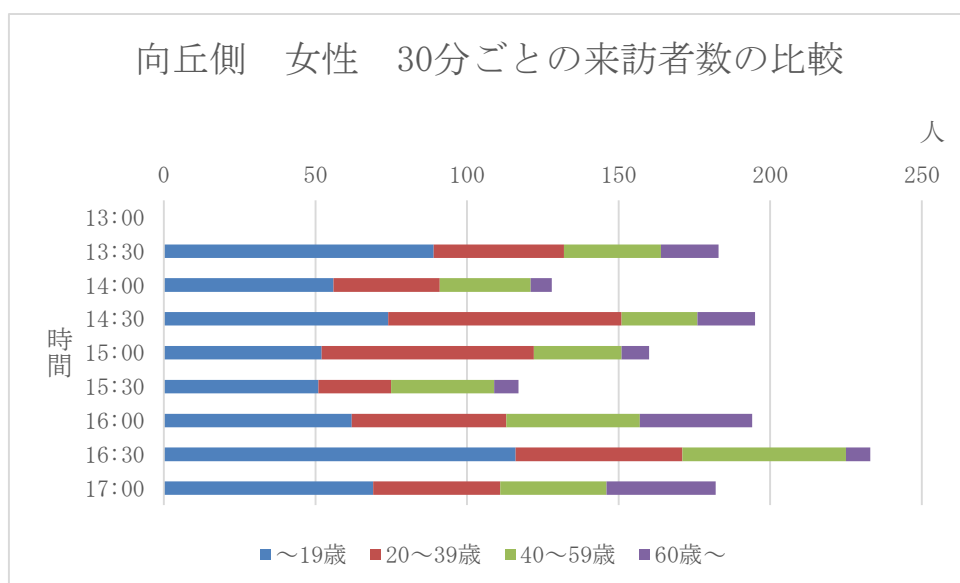
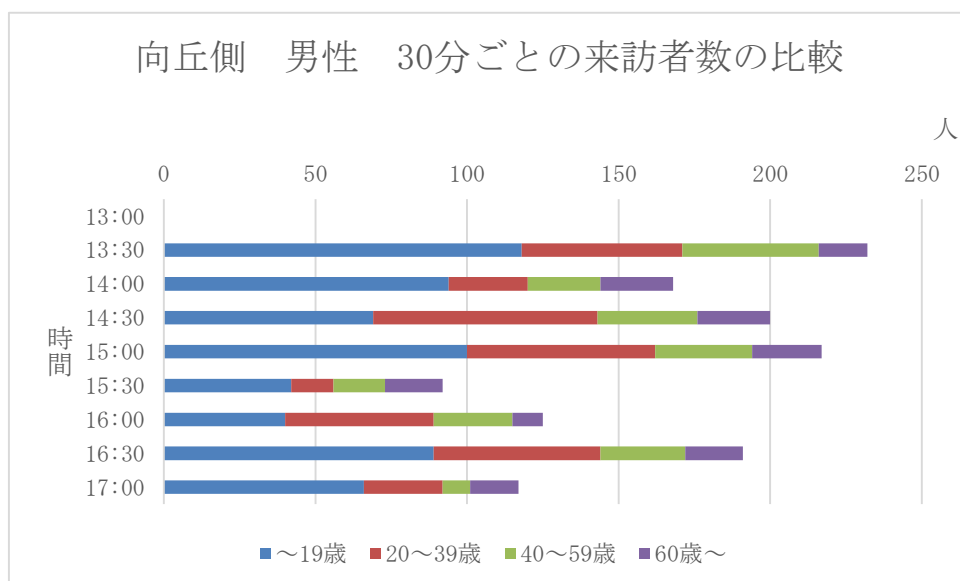
	～19歳	20～39歳	40～59歳	60歳～	時間合計
13:00	0	0	0	0	0
13:30	118	53	45	16	232
14:00	94	26	24	24	168
14:30	69	74	33	24	200
15:00	100	62	32	23	217
15:30	42	14	17	19	92
16:00	40	49	26	10	125
16:30	89	55	28	19	191
17:00	66	26	9	16	117
年代合計	618	359	214	151	1342

向丘 女性

	～19歳	20～39歳	40～59歳	60歳～	時間合計
13:00	0	0	0	0	0
13:30	89	43	32	19	183
14:00	56	35	30	7	128
14:30	74	77	25	19	195
15:00	52	70	29	9	160
15:30	51	24	34	8	117
16:00	62	51	44	37	194
16:30	116	55	54	8	233
17:00	69	42	35	36	182
年代合計	569	397	283	143	1392

集計結果は上記のようになった。この表をもとにグラフを作り、考察していくことにする。

①ー 1、向丘 男女別 来訪者数の比較

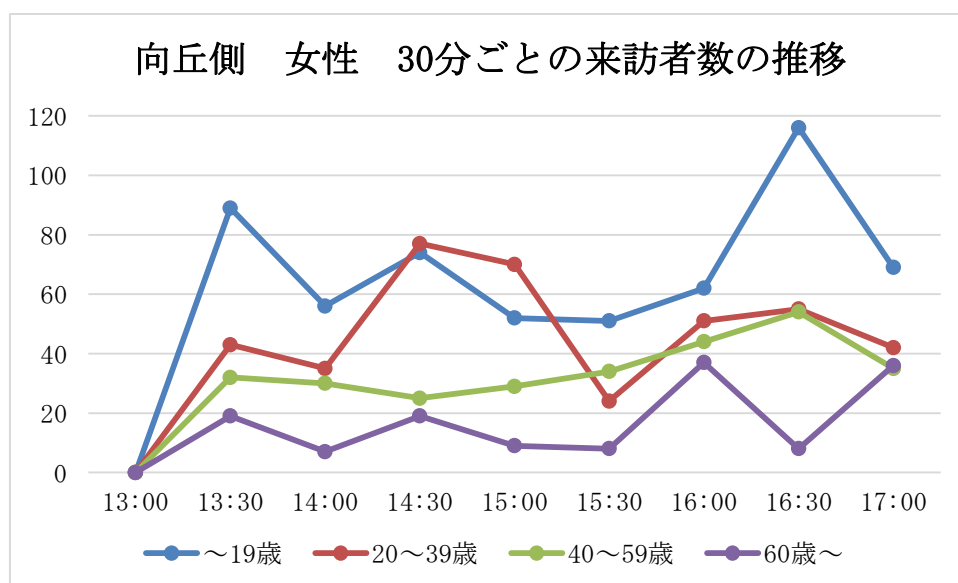
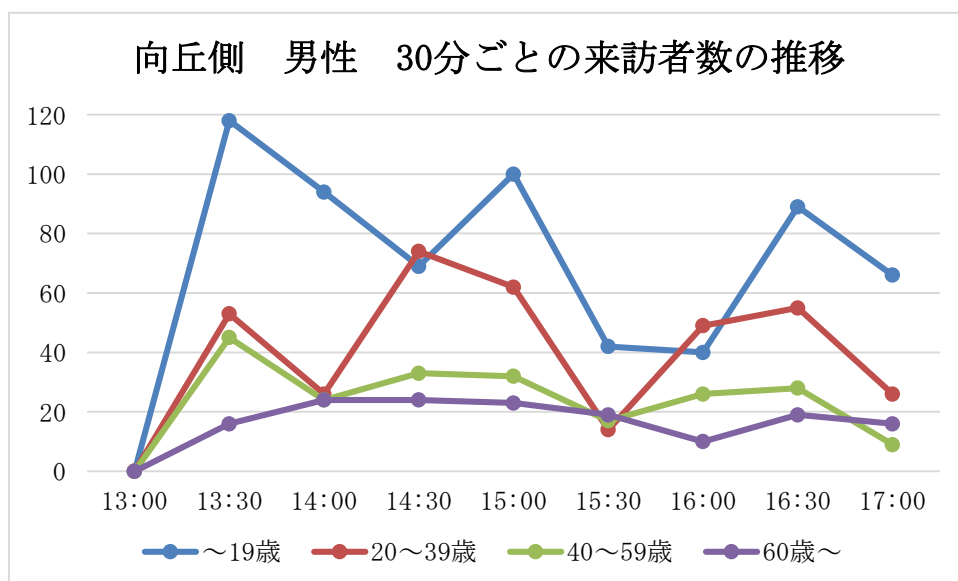


このグラフは向丘側の来訪者数を男女別に年代ごとに積み上げたグラフである。

年代別では男女ともにほとんどの時間帯で～19 歳が最も多く来訪していることが分かった。人数で見ると男性は 13:00～13:30、女性は 16:00～16:30 の来訪客数が多い。この 2 つの時間帯に関しては、他の時間帯よりも～19 歳と 40～59 歳の人数が増加している傾向にあるので、恐らく家族連れが多く訪れたことで、こういった来訪客数の変動に結びついたと思われる。

逆に 15:00～15:30 は、来訪客数が男女ともに最も減少した。特に～19 歳と 20～39 歳の減少が著しいことが分かった。

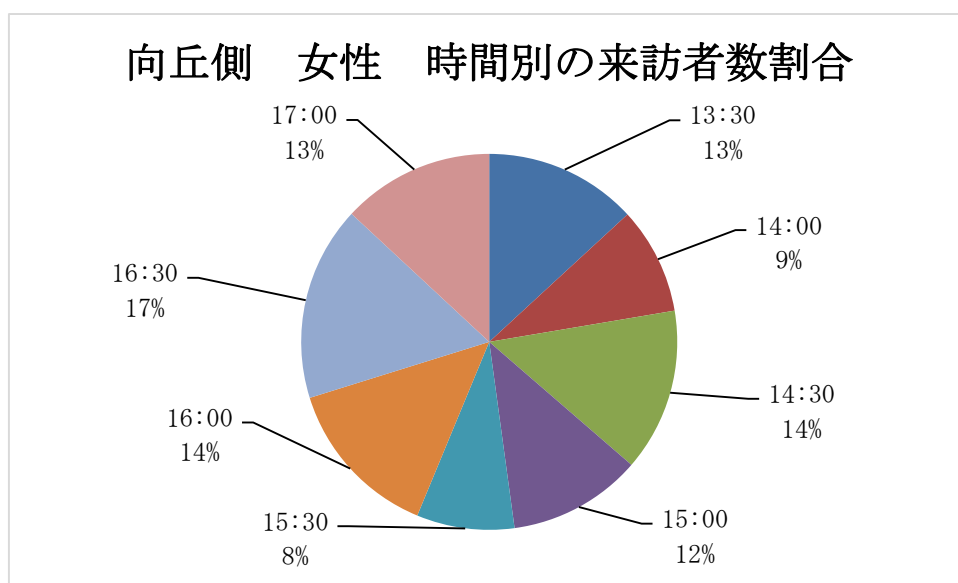
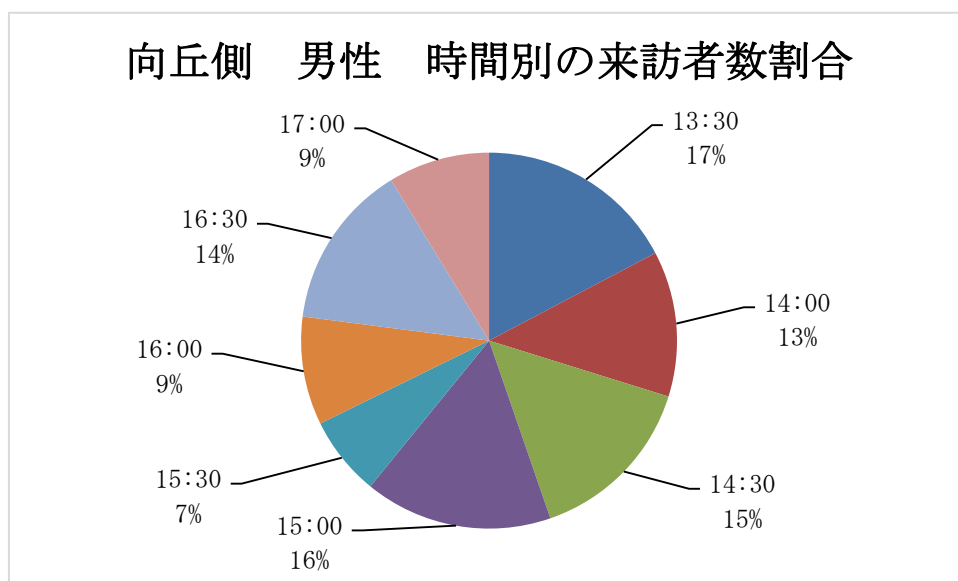
①—2、向丘 男女別 来訪者数の推移



このグラフは、向丘の来訪者数の推移を表している。

特徴的なのは男女別 10 代の来訪者数の推移であり、10 代の男性は 13:00～13:30 にかけて最も多く来客しているのに対して、10 代の女性は 16:00～16:30 にかけて来訪者数のピークになっている。また、40～59 歳の男女もピークも 10 代の男女と同じような動きをしていることが分かる。

①－３、向丘 男女別 時間別訪者割合



このグラフは、男女別の合計来訪者数を 100%とした時に、時間帯ごとに何%ずつ訪れているのかを表したグラフである。

男女ともに 15:00～15:30 の割合が最も低いという結果が分かる。次いで 16:30～17:00 の割合も低いという共通の特徴が見えた。

②白山

白山 男性

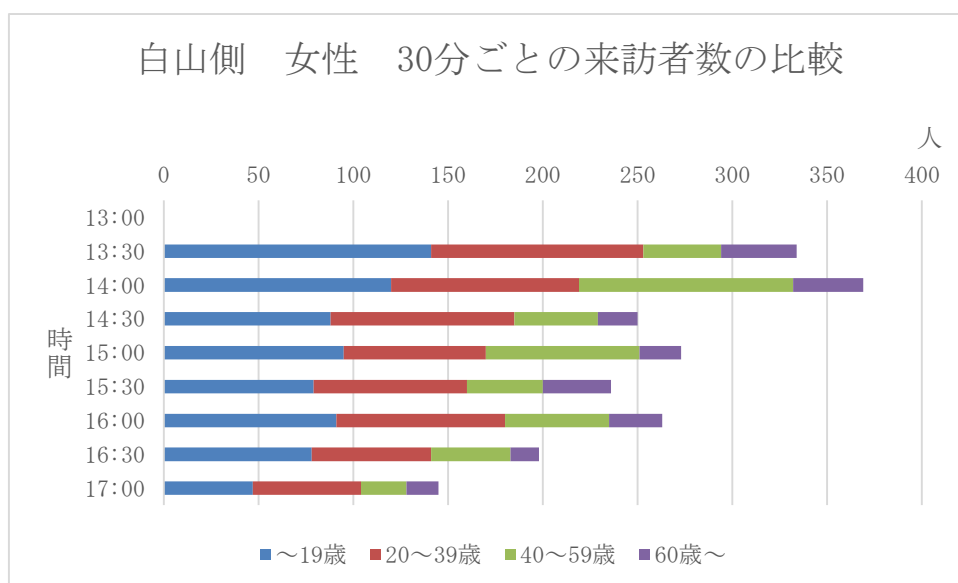
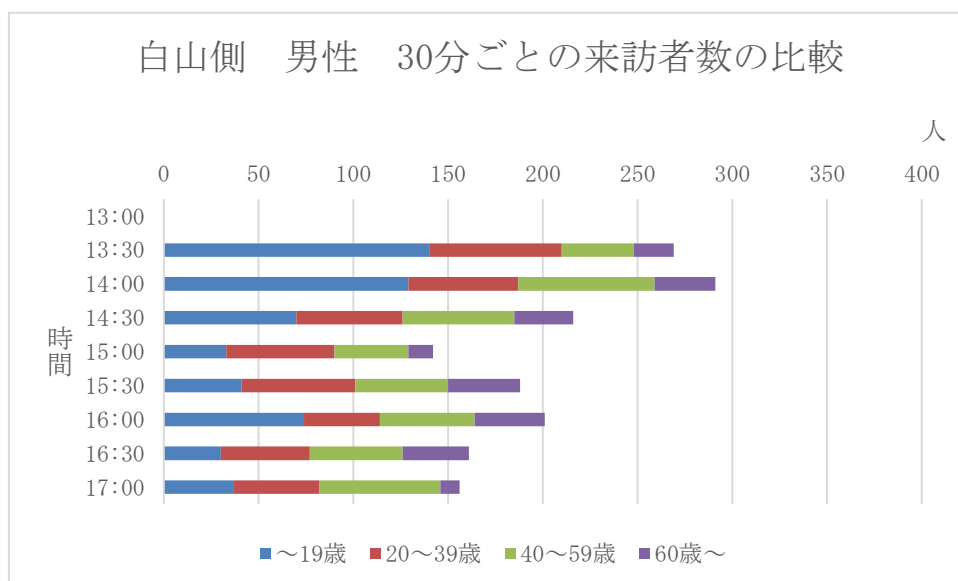
	～19歳	20～39歳	40～59歳	60歳～	時間合計
13:00	0	0	0	0	0
13:30	140	70	38	21	269
14:00	129	58	72	32	291
14:30	70	56	59	31	216
15:00	33	57	39	13	142
15:30	41	60	49	38	188
16:00	74	40	50	37	201
16:30	30	47	49	35	161
17:00	37	45	64	10	156
年代合計	554	433	420	217	1624

白山 女性

	～19歳	20～39歳	40～59歳	60歳～	時間合計
13:00	0	0	0	0	0
13:30	141	112	41	40	334
14:00	120	99	113	37	369
14:30	88	97	44	21	250
15:00	95	75	81	22	273
15:30	79	81	40	36	236
16:00	91	89	55	28	263
16:30	78	63	42	15	198
17:00	47	57	24	17	145
年代合計	739	673	440	216	2068

白山側の集計結果は上記のとおりである。こちらも向丘側と同じようにグラフを作成し考察していく。

③ - 1、白山 男女別 来訪者数の比較



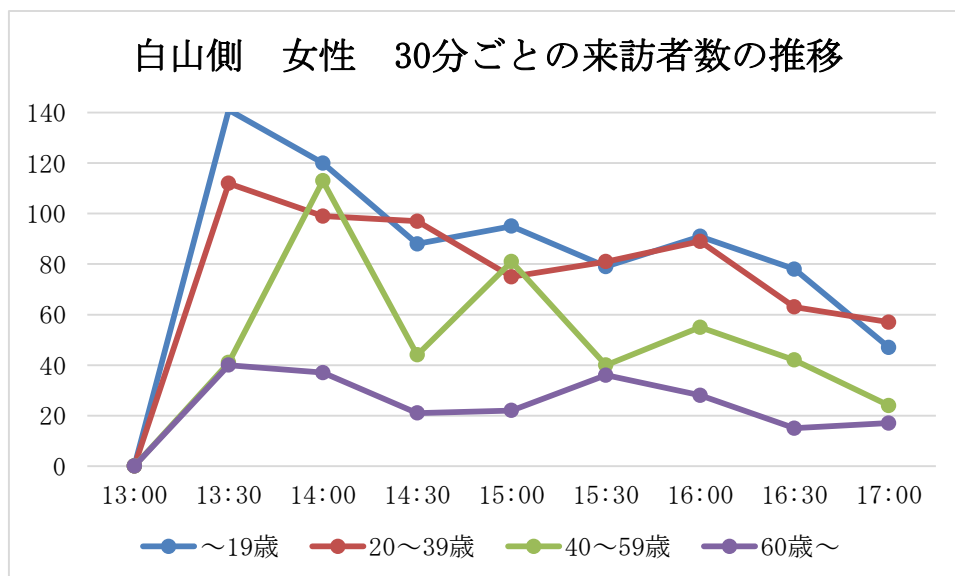
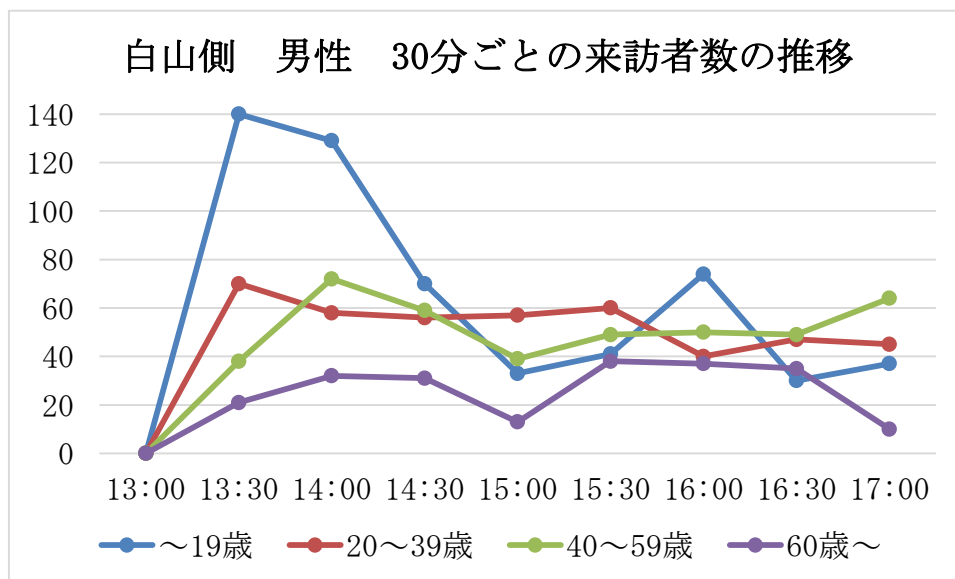
このグラフは白山側の来訪者数を男女別に年代ごとに積み上げたグラフである。

年代別で男性は13:30～14:00の間では～19歳の年代が多い。しかし14:30以降は20～39歳、40～59歳の年代の来訪者数が増えてくる。女性は～19歳、20～39歳の来訪者数がどの時間帯にも多く見られた。人数で見ると男性は13:30～14:00、女性も13:00の来訪客数が多い。この時間帯に関しては、他の時間帯よりも～19歳と20～39歳、40～59歳の人数が増加している傾向にあるので、向ヶ丘側と同じように恐らく家族連れが多く訪れたことで、このような来訪客数の変動と思われる。

時間帯でみると男性は15:00に来訪者数が減少しているのに対し、女性の来訪者数は増加している。特に男性の～19歳の年代が著しく減少している。

②ー2、白山 男女別 来訪者数の推移

このグラフは向丘側の来訪者数を男女別に年代ごとに積み上げたグラフである。

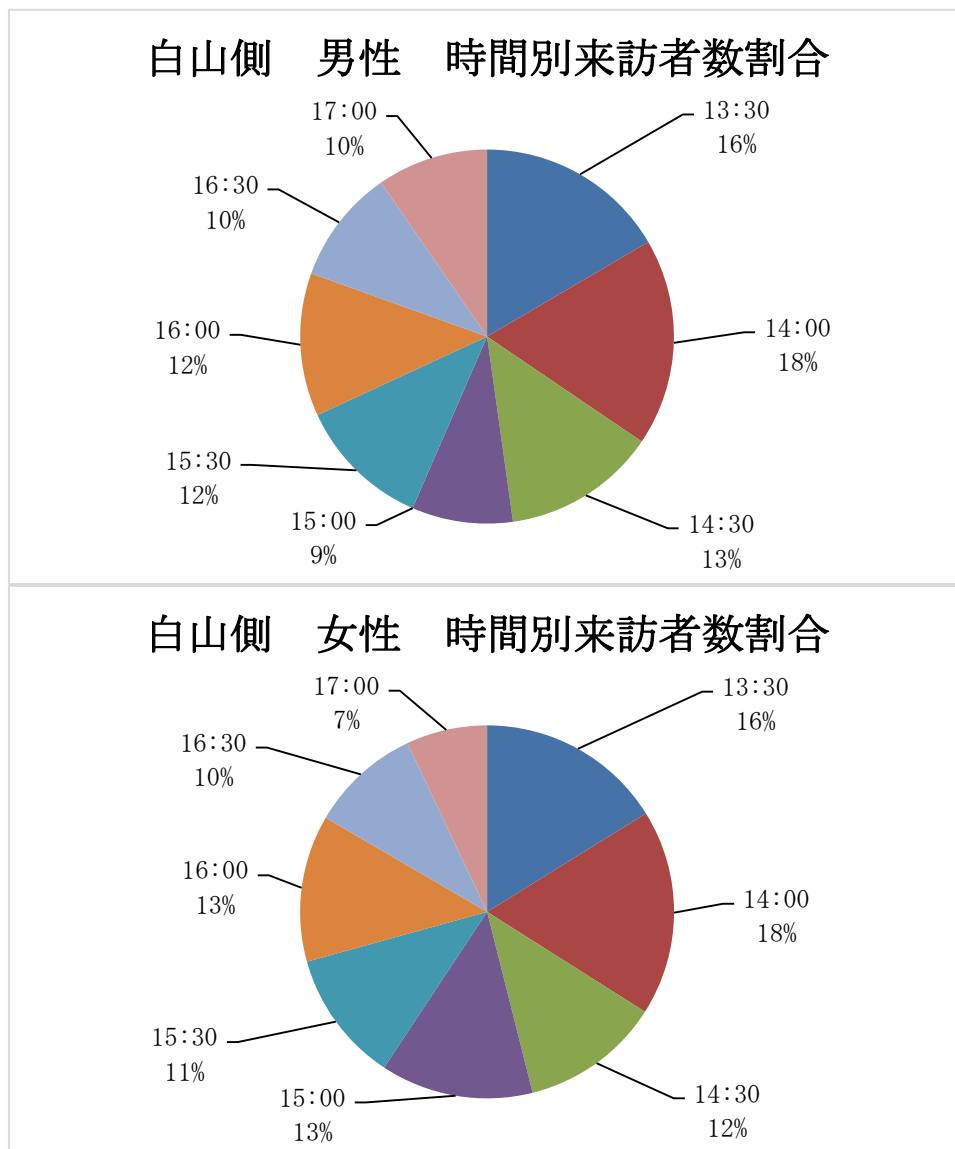


このグラフは、白山の来訪者数の推移を表している。

～19歳と20～39歳に関しては男女ともに13:00～13:30の来客数がピークであるが、40～59歳に関しては13:30～14:00が男女ともに最も多い。男性に関して～19歳は前半の時間に多く来ており、その後15:30～16:00にもう一度増加するがほぼ横ばいである。その他の年代の男性は、あまり増減が激しくなく、時間帯でも横ばいに近い結果であった。

女性はどの年代も前半の来客数が非常に多く、その後は徐々に減っていく傾向にある。女性で波があるのは40～59歳であり、13:30～14:00と14:30～15:00で増加したが、その他の時間は横ばいで、その後は徐々に減少した。

②－３、白山 男女別 時間別来訪者数割合



このグラフは、男女別の合計来訪者数を 100%とした時に、時間帯ごとに何%ずつ訪れているのかを表したグラフである。

男女ともに時間帯ごとの割合にほぼ差はなく、特に 13:30～14:00 が男女ともに 18%で最も高い割合となった。逆に低い割合となったものには多少の差があり、男性は 14:30～15:00 の 9%、女性は 16:30～17:00 の 7%が低いという結果になった。この 2 つの時間帯以外は男女ともに、ほぼ同じ割合で来客していたということが分かった。

(2)30 分ごとの属性別来訪者数

調査目的：来訪者数や来訪者層の現状を調査するため。

調査方法：バインダーに属性別のカウンターを取り付け、
来訪者をカウントする。

15 分ごとに人数を記録しまとめる。

①向丘

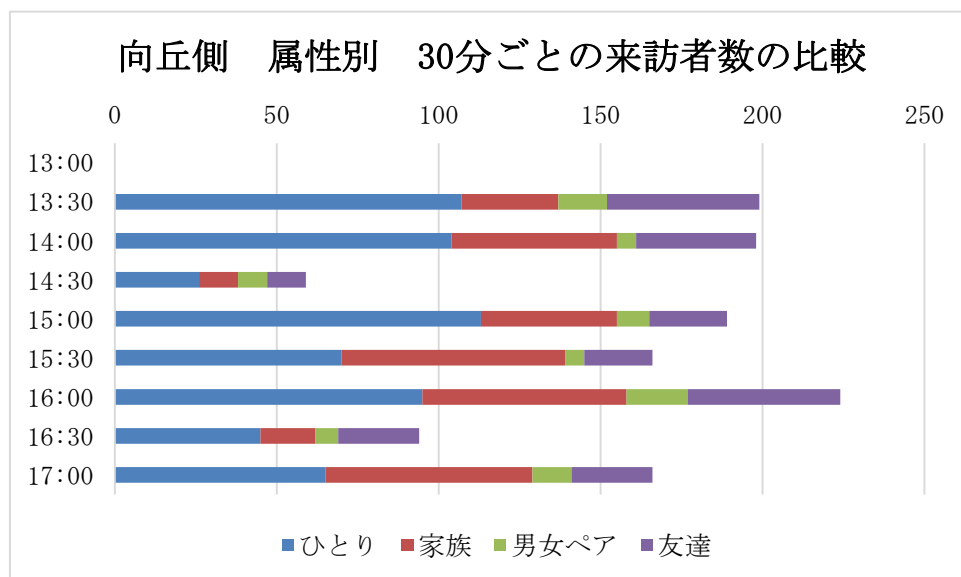
向丘 属性別

	ひとり	家族	男女ペア	友達	時間合計
13:00	0	0	0	0	0
13:30	107	30	15	47	199
14:00	104	51	6	37	198
14:30	26	12	9	12	59
15:00	113	42	10	24	189
15:30	70	69	6	21	166
16:00	95	63	19	47	224
16:30	45	17	7	25	94
17:00	65	64	12	25	166
属性合計	625	348	84	238	1295

向丘側の属性別の集計は上記のとおりである。

この表をグラフにし考察する。

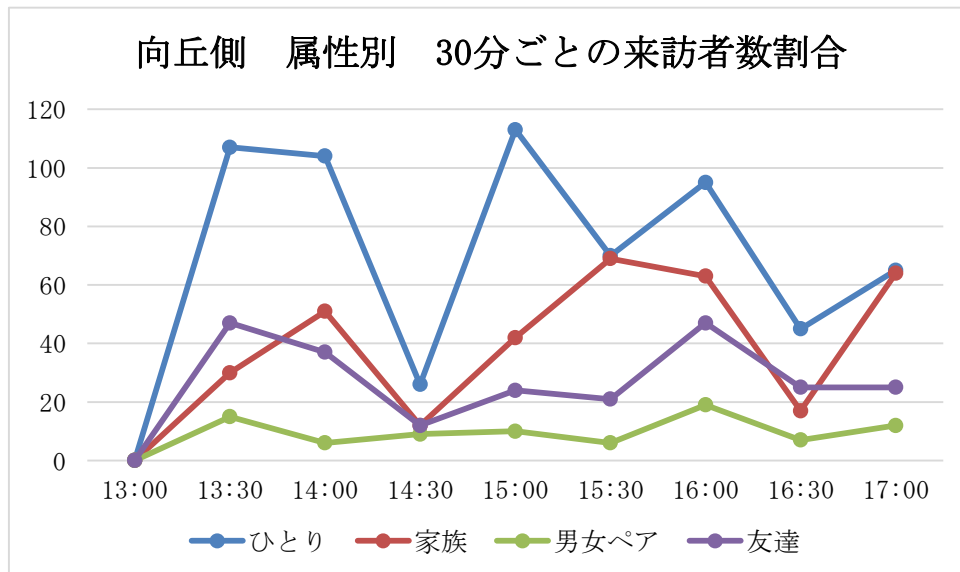
① ー 1、向丘 属性別 来訪者の比較



このグラフは向丘側の来訪者数を属性別に積み上げたグラフである。

属性別にみるとどの時間においてもひとりの属性が多くみられる。反対に男女ペアの来訪者数は著しく少ない。ひとりの属性の方達は白山駅を利用する道のりとして来訪している人も多いと思われる。時間別にみると 14:00～14:30 の時間帯が最も来訪者数が減少しており、最も多く来訪者が訪れた時間帯は 15:30～16:00 の時間帯であった。15:00～15:30～、16:30～17:00 の家族の属性が多かったのは、おやつや夜ごはんに利用している家族が多いのではないかとと思われる。

①ー 2、向丘 属性別 来訪者数の推移



このグラフは、属性別で向丘の来訪者数の推移を表している。

時間ごとに見ると、男女ペアの来訪者数はどの時間帯でも少なく、ほぼ横ばいで推移している。しかし、その他の属性に関しては時間帯ごとに増減が激しいものが多かった。

特に特徴的なのは、ひとり、家族、友達の 3 つの属性で 14:00～14:30 と 16:00～16:30 の来訪者数の減少が非常に大きいことである。

また、ひとり、友達、男女ペアに関しては 15:00～15:30 は来訪者数が減少したが家族の属性だけは増加している。一方で家族以外の属性は 15:30～16:00 は来訪者数が増加しているが、家族だけは減少するという傾向が見られた。

つまり、ひとり、男女ペア、友達の 3 つの属性は来訪者数の大小に差はあったが、時間ごとの増減の推移については類似点が見られた。それに対して家族の属性は、ほかの 3 つの属性とは異なる動きで来訪数が増加しているという結果が得られた。

②白山

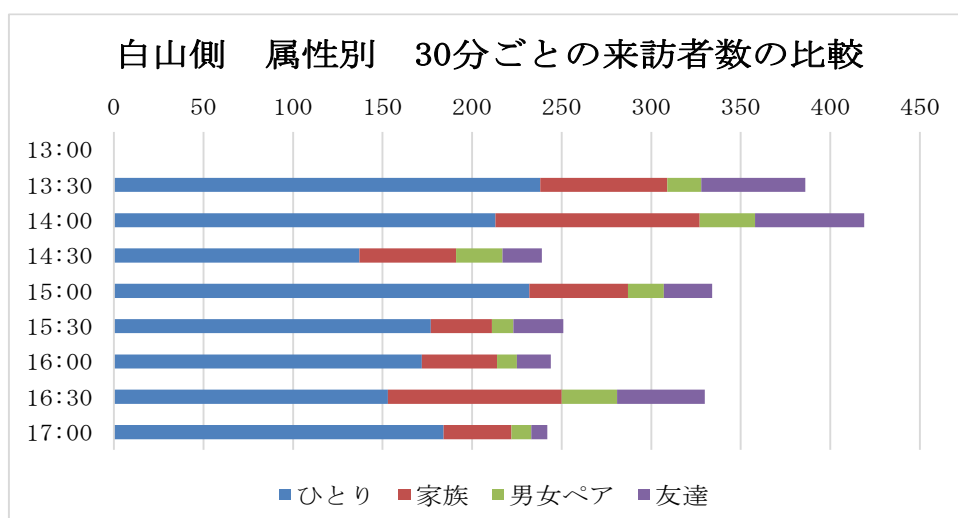
白山 属性別

	ひとり	家族	男女ペア	友達	時間合計
13:00	0	0	0	0	0
13:30	238	71	19	58	386
14:00	213	114	31	61	419
14:30	137	54	26	22	239
15:00	232	55	20	27	334
15:30	177	34	12	28	251
16:00	172	42	11	19	244
16:30	153	97	31	49	330
17:00	184	38	11	9	242
属性合計	1506	505	161	273	2445

この表は白山側の属性別の集計結果である。

この表をもとにグラフを作り、考察していくことにする。

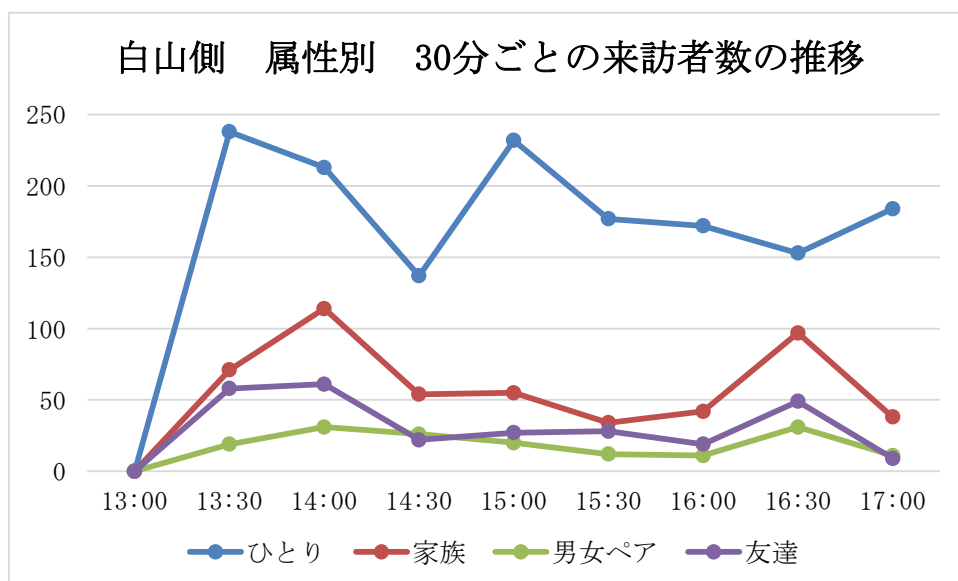
②ー 1、白山 属性別 来訪者数の比較



このグラフは白山側の来訪者数を属性別に年代ごとに積み上げたグラフである。

どの時間帯においてもひとりの属性が多いことが分かる。白山側からの来訪者にもお祭りを利用する人だけでなく、本駒込駅を利用する人達もひとりの属性に含まれていると考える。時間別にみると 13:30～14:00 の来訪者数が最も多く、最も少ない時間帯は 17:00 であった。

②ー 2、白山側 属性別 30 分ごとの来訪者数の推移



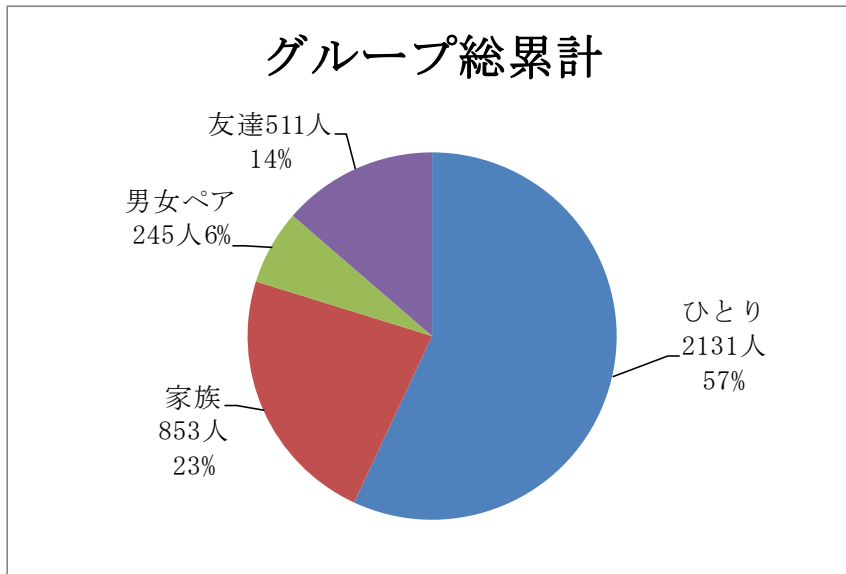
このグラフは、属性別で白山側の来訪者数の推移を表している。

時間ごとに見ると、男女ペアの来訪者数と友達の来訪者数はどの時間帯でも少なく、ほぼ横ばいで推移している。13:00～13:30のお祭りの開催時間に合わせて来訪者数が伸びていることが分かるが、どの属性も14:00～14:30の時間帯は来訪者数が減少している。

その後、ひとりの属性は15:00にまた増加するが、他の属性は増加せずに16:30に増加した。しかし、ひとりの属性は16:30に減少している。比較的家族、男女ペア、友達の3つの属性の来訪者数の推移の動きは変わらないが、ひとりの属性の動きは他の三つの属性と類似点が見られた。ひとりの属性は比較的自由に動けるのでお祭りのイベントの盛り上がりに合わせて来訪者数が増減しているのではと考える。

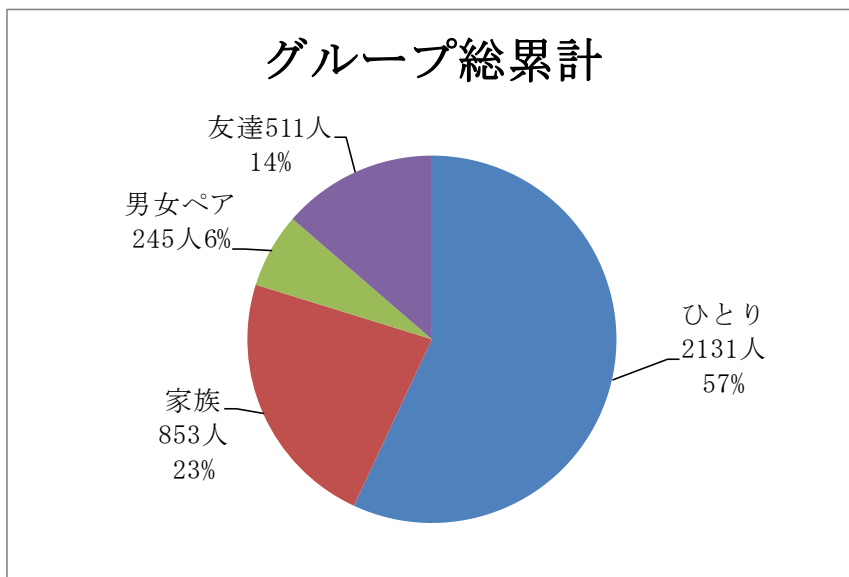
(3)属性別の来訪者

・グループ総累計

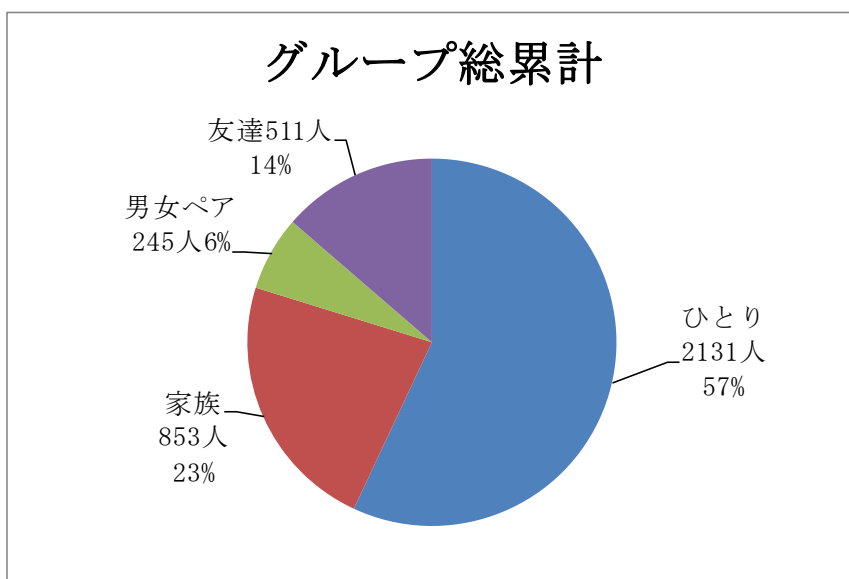


来訪者をグループ別にみるとこのようになった。ひとりが 2131 人で 57%と最も多い割合を占めている。これは、白山まつりの来訪に関わらず近隣住民の方が通行のために利用していることが理由の一つであると考えられる。さらに家族、男女ペア、友達で比較すると家族で来訪される方の割合が多いことがわかる。

白山側

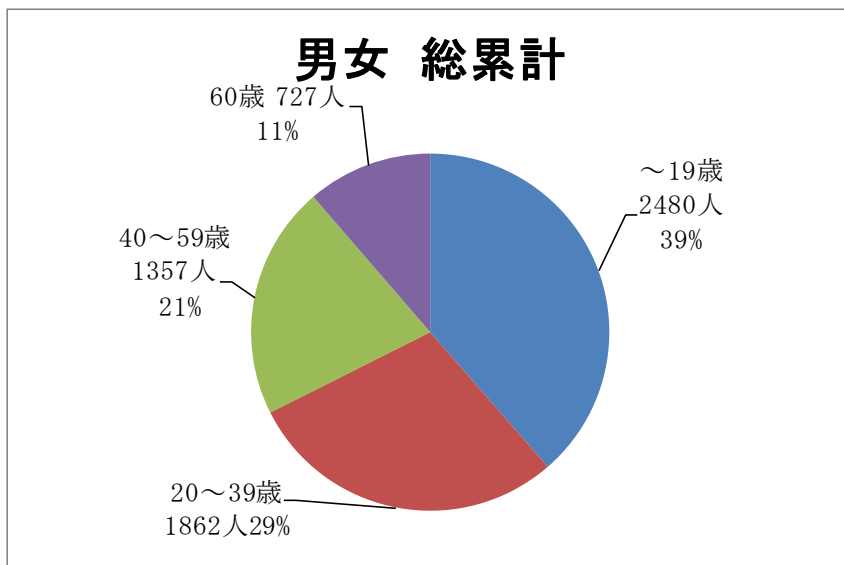


向丘側



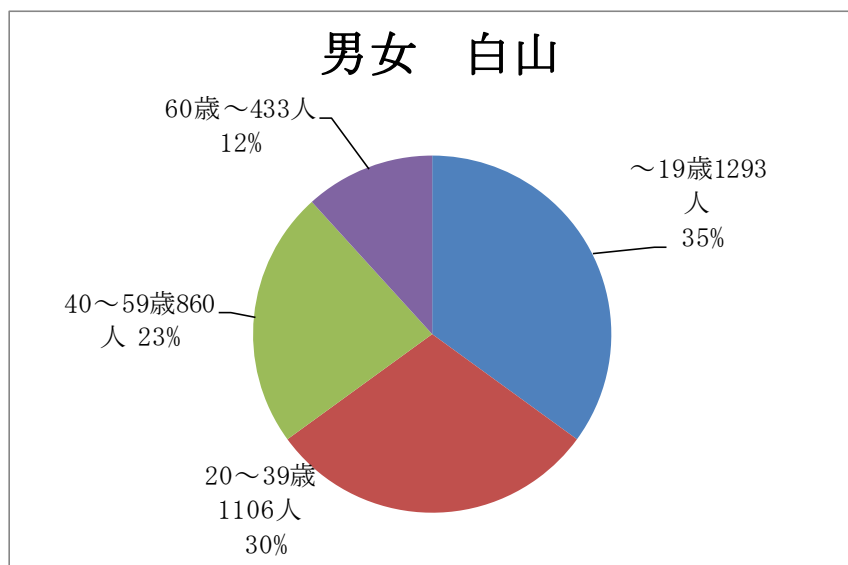
グループ累計を白山側、向丘側に分けてみると、どちらもひとりの割合が最も高いことがわかる。これはやはり白山まつりの来訪者だけではなく、近隣住民の方が通行に利用していることが関係している。さらにどちらの集計地点でも家族、友達、男女ペアの順に割合が増えている。

・男女総累計

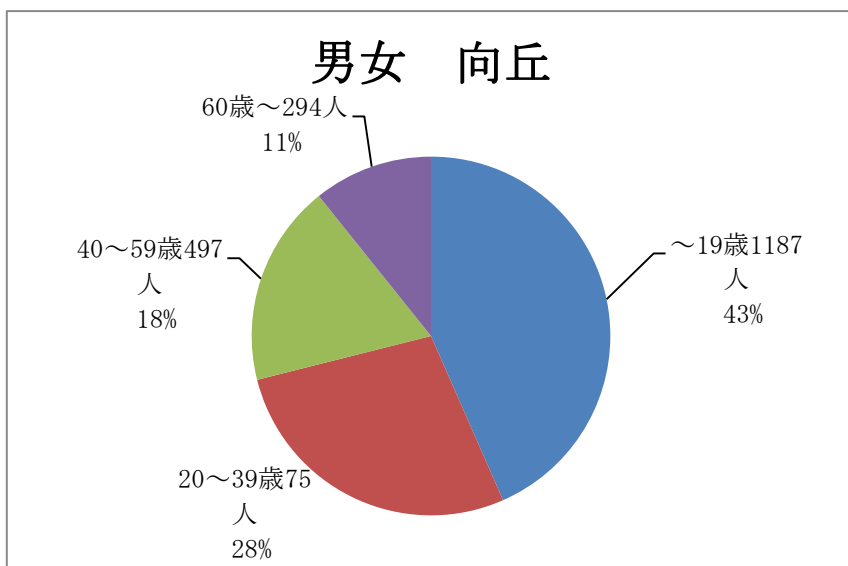


男女合わせた集計をみると比較的に若い世代が多く来訪していることが分かる。これはゲームの効果で子供が多く来報していることから～19歳が多い。

白山側

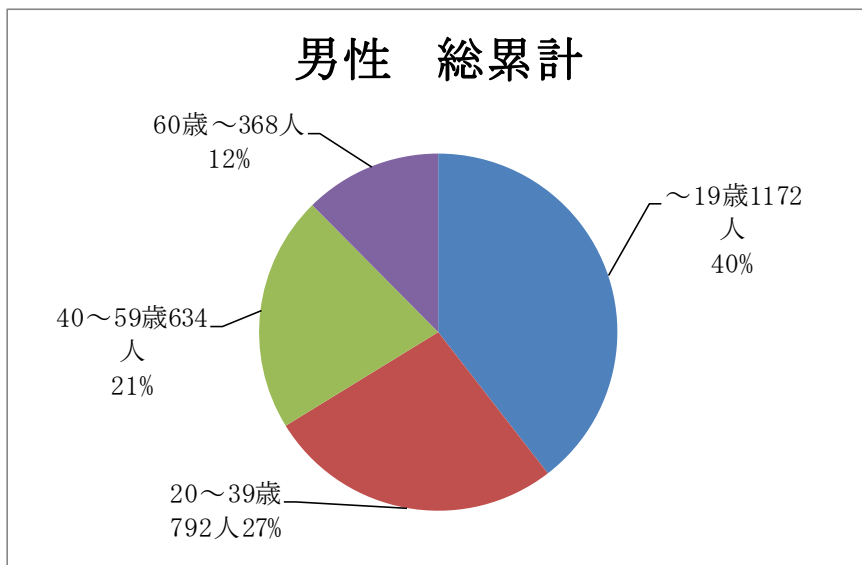


向丘側

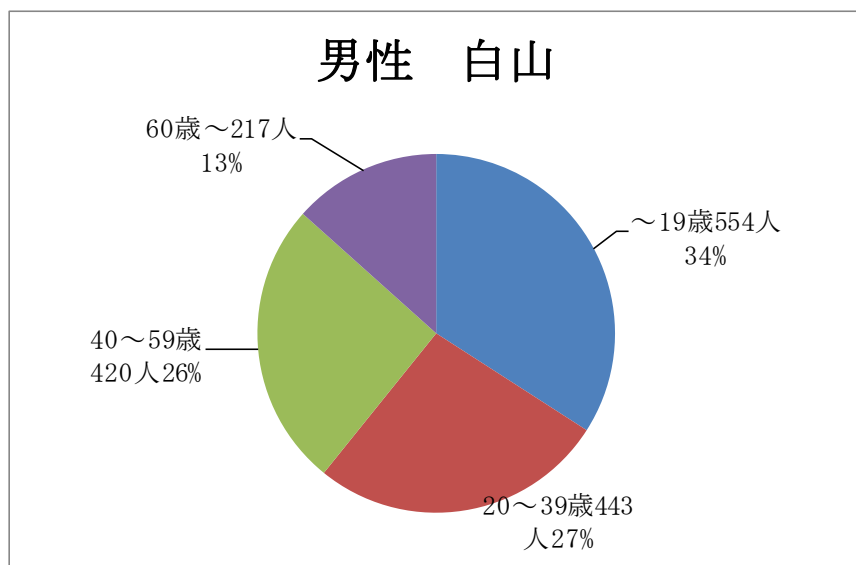


ふたつの地点を比べると、どちらも～19 歳がもっとも割合が多い。続いて 20～39 歳、40～59 歳、60 歳～の順である。家族づれや子供が多く来報していることが言えるのではないかな。

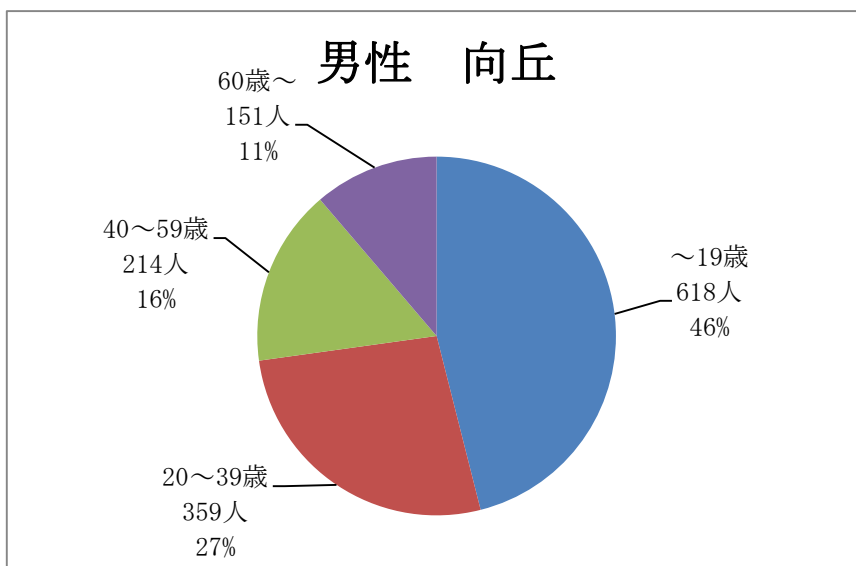
・男性 総累計



白山側

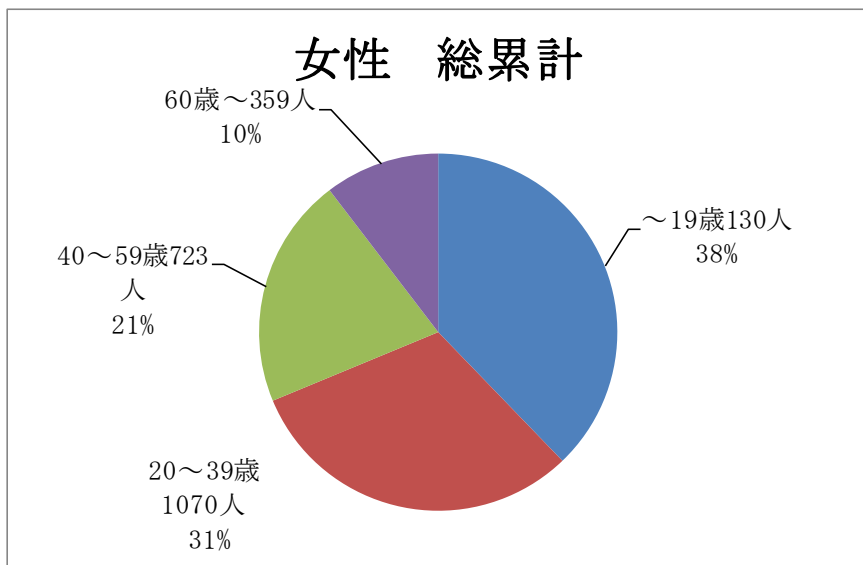


向丘側

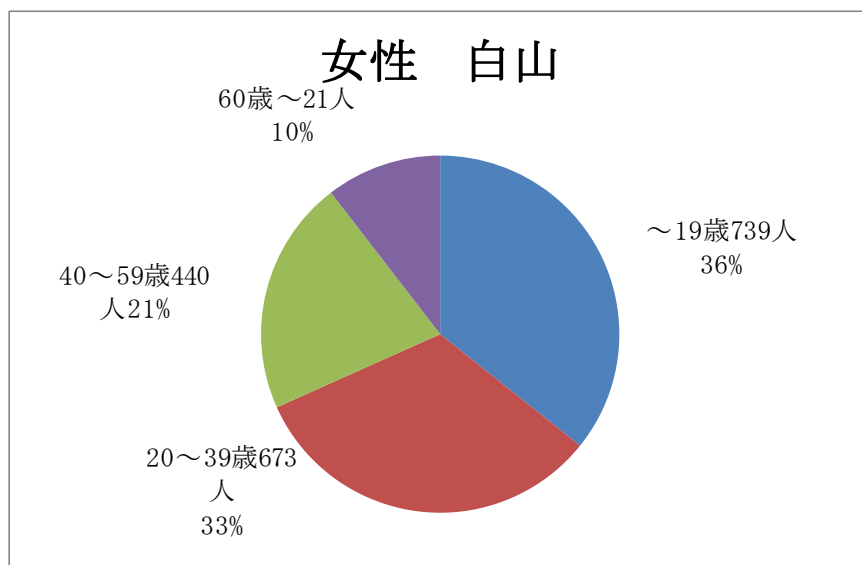


男性のみで見ると上記のような結果となる。白山側は 20～39 歳、40～59 歳はほぼ変わらない割合であった。それに比べ向丘側は 20～39 歳の方が割合が多かった。

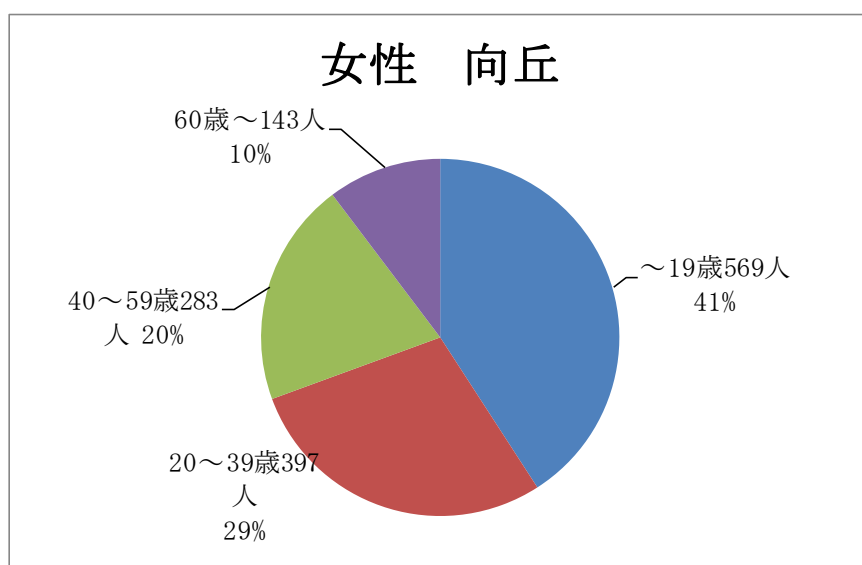
・女性 総累計



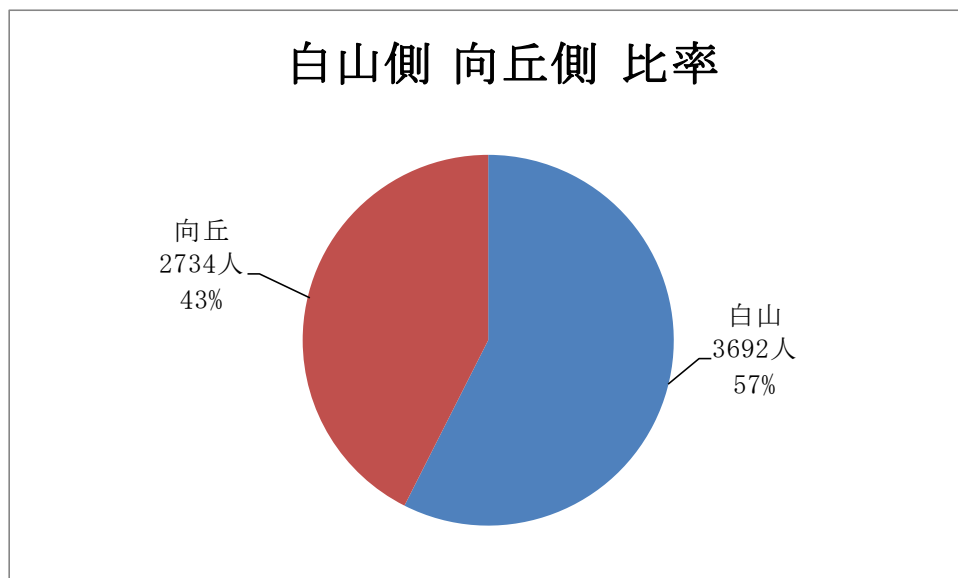
白山側



向丘側



女性のみでみてみると男性に比べて 20～39 歳の割合が多い。白山側、向丘側ともに大差ない割合比率となっている。



白山側、向丘側で比べると7%だが白山側が高い割合を占めている。ふたつの地点の人数の差は958人である。カウント調査をしていると白山側の方が多くの方が来場している感覚だったが、通行人も多くいたため向丘側も人数がさほど差がない結果となった。

カウンター調査まとめ

男女比でいうと約 500 人(全体の約 10%)女性の方が多く利用していることが分かった。時間帯でいうとお祭り開始時の来訪者数が最も多く、全体の約 30%である 2000 人ほどが 13 時から 14 時の間に来訪していると分かった。年代でいうと 60 歳以上の年代が 11%と少なかったが、それ以外のどの年代も約 30%であったため満遍なく多くの世代が利用していると言える。属性でいうと一人で来訪している方が全体の 57%と最も多かったが、通行人である可能性もある。次いで子供を連れた家族連れが全体の 23%と多く来訪しているお祭りであるという結果になった。子供向けや家族向けのイベントや出し物が多い結果、このように来訪者の年代や属性の人数の差に表れたのではないかと考えられる。60 歳以上の年代を対象にしたイベントや出し物があれば、60 歳以上の方々に来訪していただき、よりお祭りが盛り上がるのではないだろうか。

白山交差点と向丘交差点の来訪者を比較すると、白山交差点の方が全体の 14%であり約 960 人多い。総来訪者数は 6426 人だったため、非常に多くの人を訪れているおまつりであると言える

13 時から 17 時の 4 時間での来訪者数は 6426 人。

お祭りはその後 21 時までの 4 時間あり、見どころの盆踊りなどもあることから、この 4 時間で昼間よりもやや多い約 7000 人が来訪するのでは？従って、1 日の来訪者は約 13500 人ではないかと考えられる。2 日間あるお祭りなので、翌日の日曜日の来訪者数もほぼ 1 日目と同様であるとする、お祭り全体では約 27000 人の来訪者が訪れているのではないかと推測される。

(4) 会計班報告

利益

売上高	58,250
材料費	33,375
利益	24,875

商品別売上高

商品名	単価	売上個数	売上
もち(あんこ)	250	114個	28,500
もち(大根おろし)	250	119個	29,750

材料費内訳

材料	数量	値段
もち米	11升	7,300
あんこ	10kg	4,964
大根	18本	4,001
ザラメ	1kg	791
重曹	2個	366
醤油	2本	260
卵	1パック	118
ウェットティッシュ	8個	1,124
割りばし	400本	682
バット	6個	648
キッチンペーパー	1パック	355
パック	1ケース	2,754
袋	1セット	501
輪ゴム	1ケース	108
調理器具		1,743
ガス		7,660
合計		33,375

2. 下町まつり

(1) 総務班報告

①店舗レイアウト②持ち物リストは1日目も2日目も白山まつり同様である。

② 下町祭り シフト 10:00~16:00

③

役割	担当者		役割	担当者
餅つき(1) カルメ補佐(1)	藤次 岩田		会計(1~2) 餅渡し(1)	梶間 下山 山本
餅切り(1~2)	阪野 樽谷		カルメ(1~2)	宮本 前田
持ち受け(1)	前島 玉那覇		セイロ(1~2) 列整理(0~1)	小又 深尾 大日方
パッキング(1)	佐竹 福原			
輪ゴム(1)	小林 原田			

●片付け組 学校で2日目用の米とぎ(11回分=33袋)

深尾、藤次、阪野、樽谷、玉那覇、福原、原田

●2日目は1時間半ごとに2年生が6人ずつ出店に参加(3年生の補佐)

・カルメ(呼び込み)1名 ・餅裏2名 ・列整理1~2名 ・セイロ1~2名

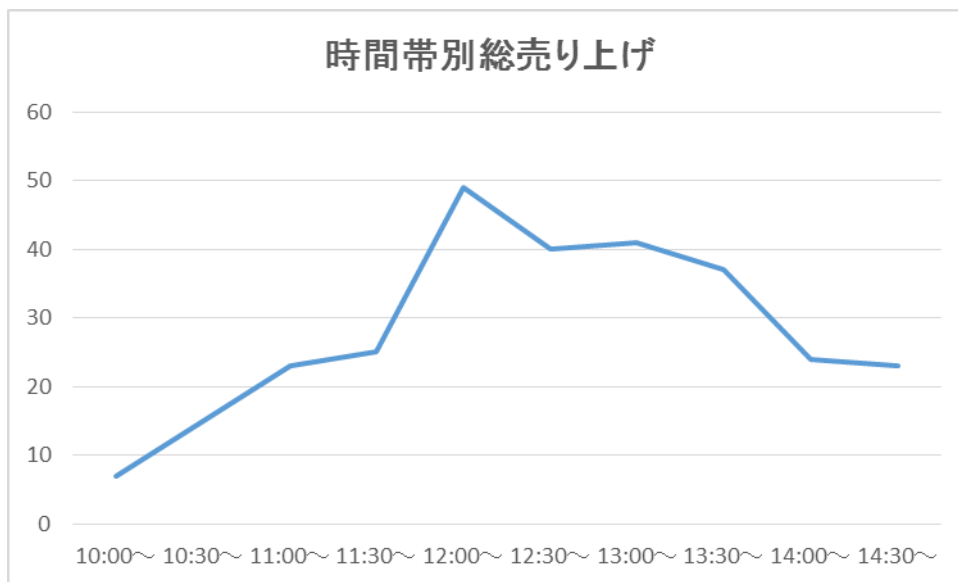
白山祭りと同様のシフトを組んだ。今回は時間が長いので、休憩をピークの時間以外で回した。基本的に2人1組にして役割を振ったのでその中で休憩を取ってもらうことにした。

④ 売上数結果

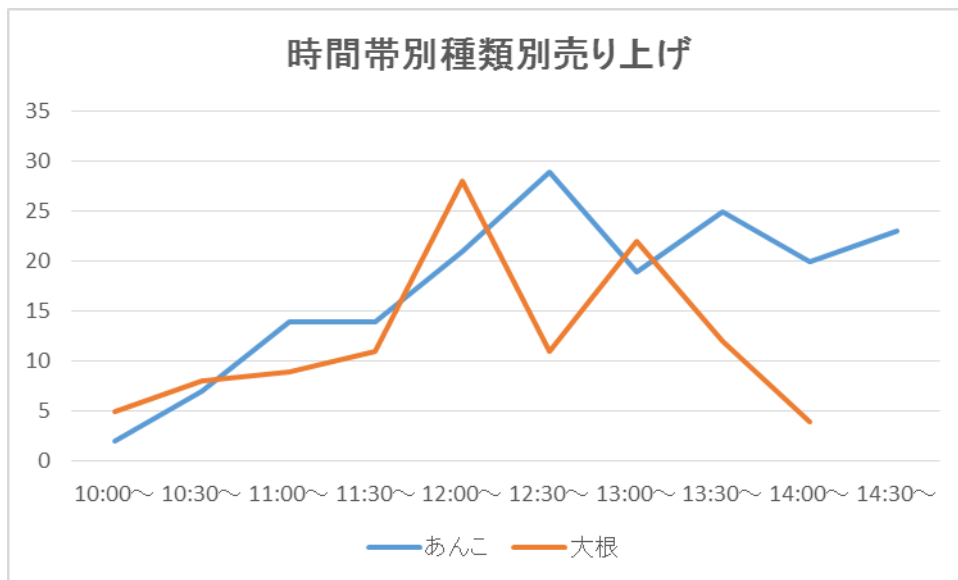
以下のグラフは下町祭りでの出店事業での販売結果を示したものである。

<1日目>

④ 時間帯別総売り上げ



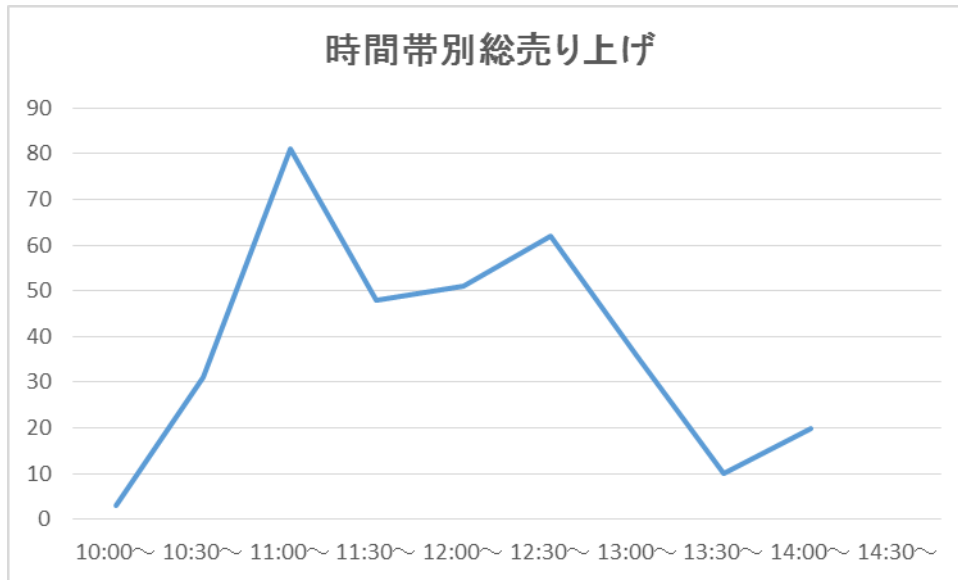
⑤ 時間帯別種類別売り上げ



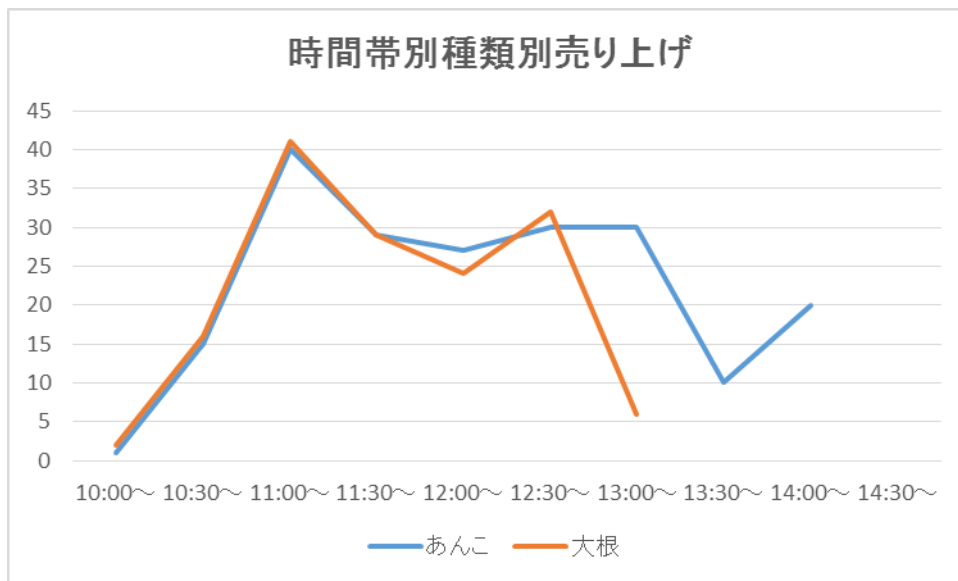
全体ではお昼時をピークに売り上げが伸びた。種類別では大根の売れ行きに変動が大きくこれは、味付けの大根の量が少なく生産自体も少なくなってしまったことが原因になると考えられる。

<2日目>

① 時間帯別総売り上げ



② 時間帯別種類別売り上げ



2日目は、1日目より天気が良かったことが影響しピークが早く訪れた。ピークが早く訪れてしまったこと、アクシデントにより餅の生産が間に合わなかったこともあり売上数が少なくなっていたと考えられる。14時には完売した。種類別にみるとピークまでは2つの種類がほぼ同じペースで売れていることがわかる。その後の大根の急激な落ち込みは1日目と同じ理由が当てはまる。2日間通して2日目の方が売り上げ数も大きくなっている。

⑤ 下町まつり 反省点

《全体》

- ・準備が間に合わなかった
- ・休憩をとるタイミングが難しかった
- ・1日を通して在庫不足
→もっと売れることが分かった
- ・お店の前にかたまりすぎた
- ・テントの後ろは通らない
- ・2年生の行動が他の係に伝わってなかった
→2年生に適切な指示が出せなかった
- ・情報伝達の大切さ

《おもち》

- ・下準備の段階でお米が漬かりきっていなかった
→もち米の炊き上がりがパサパサ
- ・予想以上の売り上げで材料が途中でなくなり、作業が中断した
- ・販売予測の難しさ

《カルメ焼き》

- ・開店直後に失敗が続き商品を用意する時間がなかった
- ・長時間話しかけてくるお客さんの対応が難しかった
- ・準備がてきぱきと行動出来なかった
- ・販売予測の難しさ
- ・白山まつりの時とは違ってカルメ焼きの材料が足りなくなる

《会計》

- ・混雑時、注文票の活用が難しかった

（２）広報班報告

① サイン②メニュー表は１日目も２日目も白山まつり同様である。

参考 p 18

（３）調査班報告

1. 下町まつりの概要

根津・千駄木地域で毎年 10 月に開催されるお祭りである。このお祭りは、昭和 63 年に文京区と台東区が共同で始めたお祭りが起源である。現在は文京区独自で行われており、今年で 17 回目となる。メイン会場は根津神社、サブ会場はこの地にゆかりのある文豪、森鷗外の記念館を含む、計 9 会場である。

2. 調査内容

今回、我々はおまつり来訪者を対象に 17 日 18 日両日に利用実態アンケート調査・スタンプラリーアンケート調査、18 日にお祭り来訪者数カウント調査を行った。また、18 日サブ会場調査も行った。

3. 調査結果

I. 利用実態アンケート調査

<調査目的>

来訪者の属性や来訪理由を把握し、今後のお祭りの促進に貢献するため。

<アンケート実施日>

10 月 17 日～18 日

<アンケート実施場所>

根津神社内（メイン会場）

<調査方法>

アンケート用紙による聞き取り調査

第 17 回根津・千駄木下町まつり 東海林ゼミアンケート

本調査は下町まつりの利用実地調査を目的として行っています。回答は、統計的に処理され、本目的以外には使用いたしません。大変お手数をおかけしますが、本調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

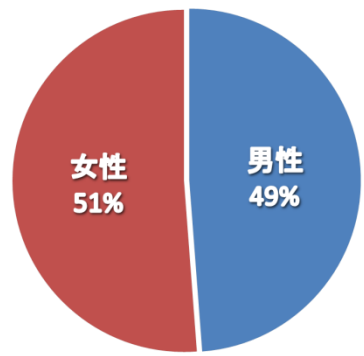
調査主体：東洋大学東海林ゼミ

1. 性別 <男性・女性>
2. 年齢 <10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代～>
3. お住まい <文京区・都内（ ）・都外（ ）>
4. 下町まつりは何で知りましたか。
<ポスター・回覧板・掲示板・ロコミ・通りすがり・以前から・その他（ ）>
5. 誰といらっしゃいましたか。
<1人で・友達・カップル・家族・同僚・その他（ ）>
6. 下町まつりは何回目ですか。
<初めて・2～3回・4～5回・6～7回・8～9回・10回以上>
7. 下町まつりに明日も来ますか。昨日も来ましたか。 <はい・いいえ>
8. サブ会場を知っていますか。 <はい・いいえ>
a) はいと答えた方にお聞きします。 サブ会場に行きましたか。
<はい：藍染大通り・宮永仲通り・根津銀座通り・不忍通りふれあい館・千駄木二丁目会場・森鷗外記念館・須藤公園・よみせ通り延命地藏尊・行っていない>
1. シャトルバスが運行していることを知っていますか。 <はい・いいえ>
はいと答えた方にお聞きします。
a) 利用しましたか。 <はい・いいえ>
b) 無料だということを知っていますか。 <はい・いいえ>
10. 下町まつりの良かったところ・悪かったところを挙げてください。
良：< >
悪：< >
11. 下町まつりについて要望（改善点）があつたら教えてください。
例) トイレを増やしてほしい、ごみの捨てる場所がわからない など...
< >

＜アンケート結果＞

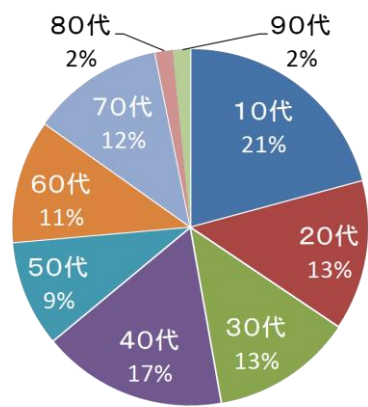
今回の下町まつりの利用実態アンケート調査の被験者は 125 人であった。この調査は年齢、性別に偏りが出ないようにあらかじめ被験者を割り振って実施した。

(1) 性別



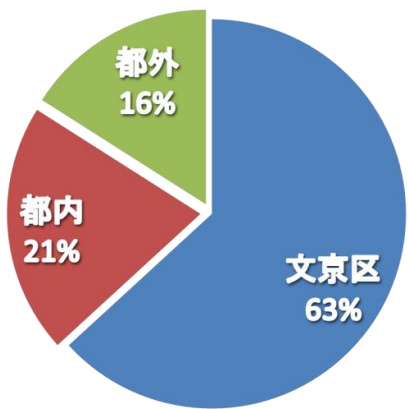
これは偏りが出ないようにあらかじめ被験者を割り振って実施したため、ほぼ半分の割合になった。

(2) 年齢



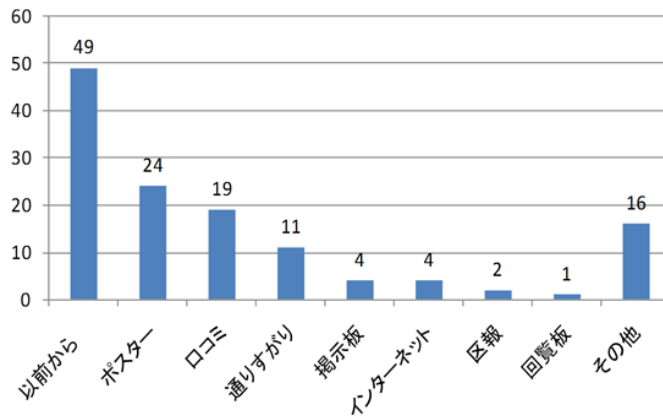
年齢も性別同様事前にあらかじめ被験者を割り振って実施したため、ほぼ均等の割合となった。

(3) お住まい



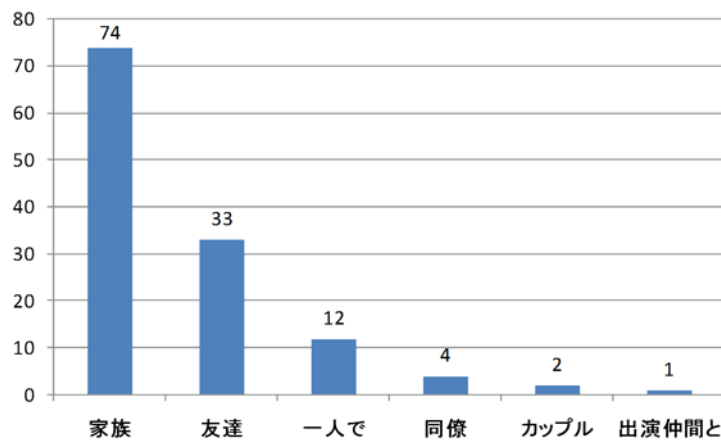
文京区からの来訪者が半数以上という結果になった。都外からは、神奈川県、埼玉県、千葉県、岐阜県、富山県、海外からは香港という内訳になった。

(4) 認知媒体



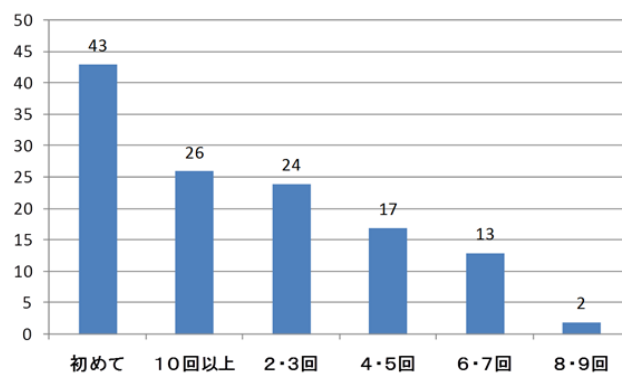
以前から知っていると答えた人が多かった。これは、地元の方が多くお祭りに来ていることが大きく関わっていると考えられる。その他にはチラシ、お参りに来てたまたま、出演予定などがあった。

(5) 同伴者



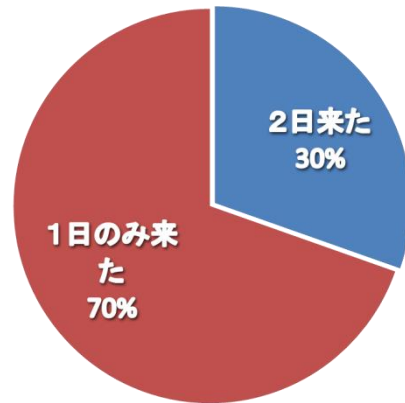
家族と答えた来訪者が半数以上という結果になった。

(6) 来訪回数



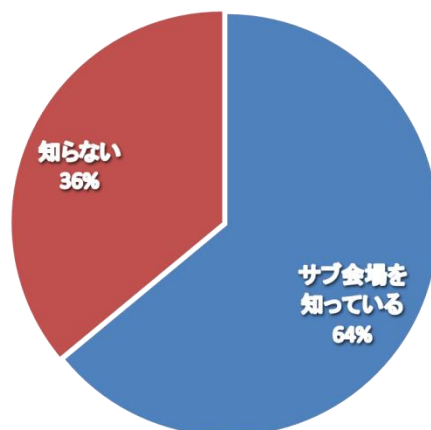
区外からの来訪者のほとんどが初めてに当てはまる。区内からの来訪者は2回目から10回以上にばらついた。

(7) 連続来訪



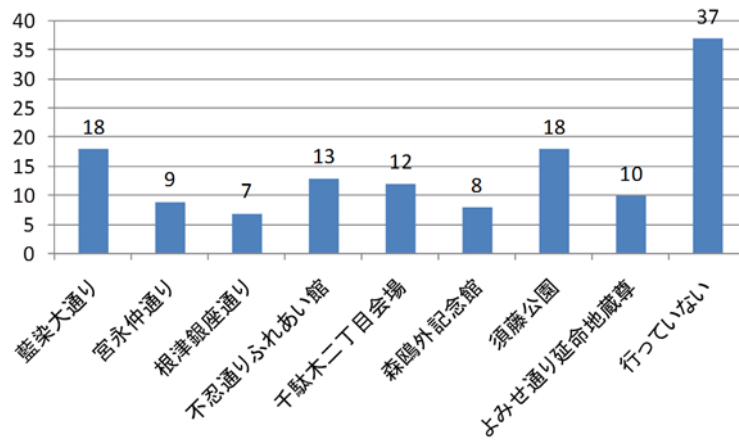
両日ともに来た来訪者は1日のみの来訪者を下回っている。これは、1日目の天候が影響していると思われる。

(8) サブ会場認知度



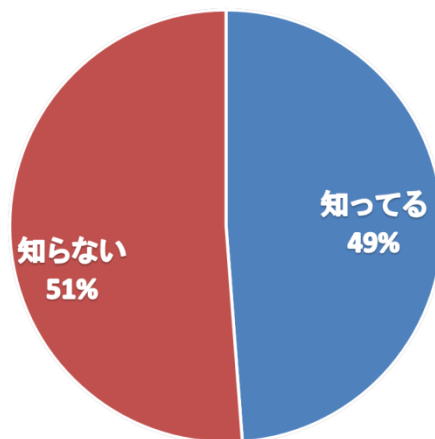
サブ会場を知っている人が64%、知らない人が36%という結果になった。周辺地域からの来訪者が多いことが関連している。

(9) サブ会場内訳



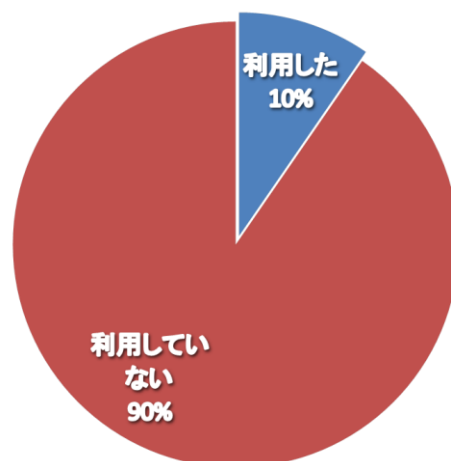
サブ会場を知っているにもかかわらず行っていない人が多いかった。

(10) シャトルバス認知度



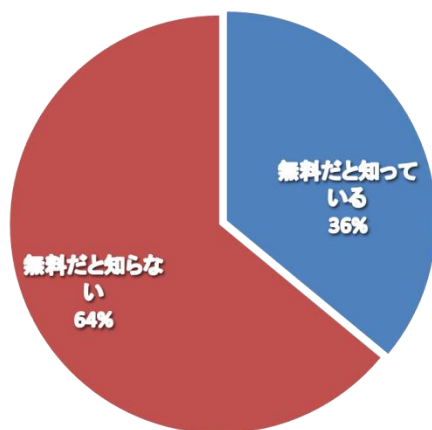
シャトルバスが運行していることを知っている人が49%、知らない人が51%という結果になった。

(11) シャトルバス利用率



(10)の質問で知っていると答えた人に利用したか質問したところ、利用していない人が圧倒的に多い結果となった。

(12) シャトルバスが無料か知っているか

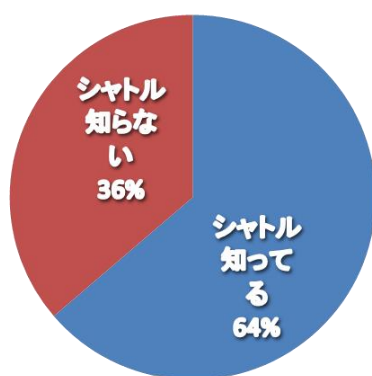


(11)と同様、(10)で知っていると答えた人にシャトルバスが無料か知っているか質問したところ、無料だということを知らない人が多かった。

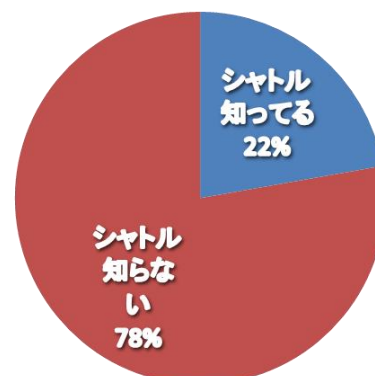
これらのアンケート結果からサブ会場認知度とシャトルバス認知度とお祭り来訪回数に関係があると予想し、クロス分析を行った。

(13) サブ会場認知度とシャトルバス認知度

サブ知ってる

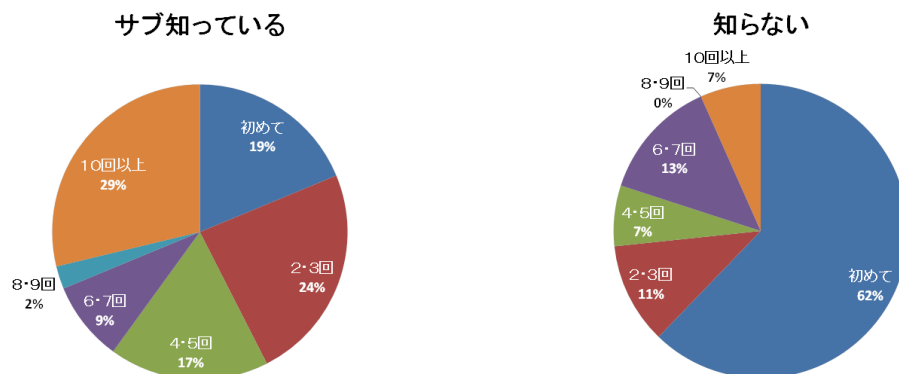


サブ知らない



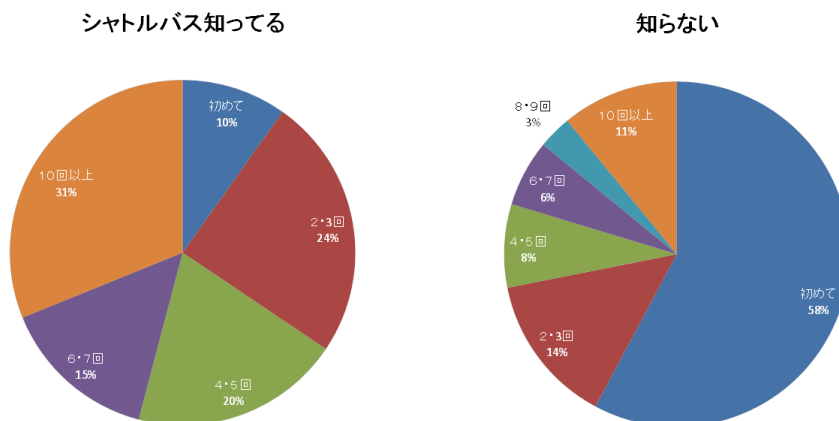
サブ会場を知っている人はシャトルバスも知っている割合が 6 割を超え、サブ会場を知らない人はシャトルバスも知らない割合が約 8 割という結果になった。

(14) サブ会場認知度と来訪回数



サブ会場を知っている人の中では2回から10回以上の来訪者の割合が多い。また、サブ会場を知らない人の中では初めての来訪者の割合が多い。

(15) シャトルバス認知度と来訪回数



こちらも(14)のクロス分析と同様、シャトルバスの運行を知っている人は2回から10回以上来訪している割合が多い。また、シャトルバスの運行を知らない人は初めての来訪者の割合が多い。

これらの結果から、サブ会場認知度とシャトルバス認知度は相互関係にあると言える。また、来訪回数が上がることでサブ会場認知度とシャトルバス認知度も上がり、利用度にもつながるのではないかと考えられる。

(16) 良かった点

- ・安い
- ・食べ物が多い、おいしい
- ・イベントが多い
- ・懐かしさがある、下町の風情がある
- ・子どもも楽しめる

これらの意見から下町まつりは地元根付いた下町らしさのあるお祭りと言える。

(17) 悪かった点

- ・座席が少ない
- ・毎年同じものが販売されている、マンネリ化
- ・屋台が少ない
- ・宣伝が少ない
- ・全体像が把握しにくい
- ・終了時間が早い

(18) 改善してほしい点

- ・最寄り駅に看板やのぼりがあると良い
- ・トイレを増やしてほしい、わかりやすくしてほしい
- ・遊べる屋台を増やしてほしい
- ・サブ会場をわかりやすくしてほしい
- ・これからもお祭りを続けてほしい

これらの意見から下町まつりは地域住民から親しまれているおまつりでたくさんの期待をされていることがわかる。

Ⅱ. 来訪者数カウント調査

<調査目的>

下町まつりの来訪者数を把握し来訪者の年代を知るため

<調査実施日>

10月18日

<調査実施場所>

下町まつりの会場の出入口3ヶ所

①



②



③



・調査場所の特徴

①の出入口は飲食店の出店が多く、②の出入口はフリーマーケットが開かれており、③の出入口には子供広場がある。

<調査方法>

10:00 から 16:00 まで 1 グループ 6 人が 2 人ずつ 3 ヶ所の出入り口に分かれてカウント調査を行う。またバインダーを 4 つ設置し、それぞれ {19 歳以下、20 歳～39 歳、40 歳～59 歳、60 歳以上} の 4 つに分類して 1 時間半おきに交代して来訪者数をカウントする。このとき必ず会場に入ってくる人の数のみをカウントする点に注意する。なお今回の調査では男女を問わず年代だけで分類する。

<調査予測>

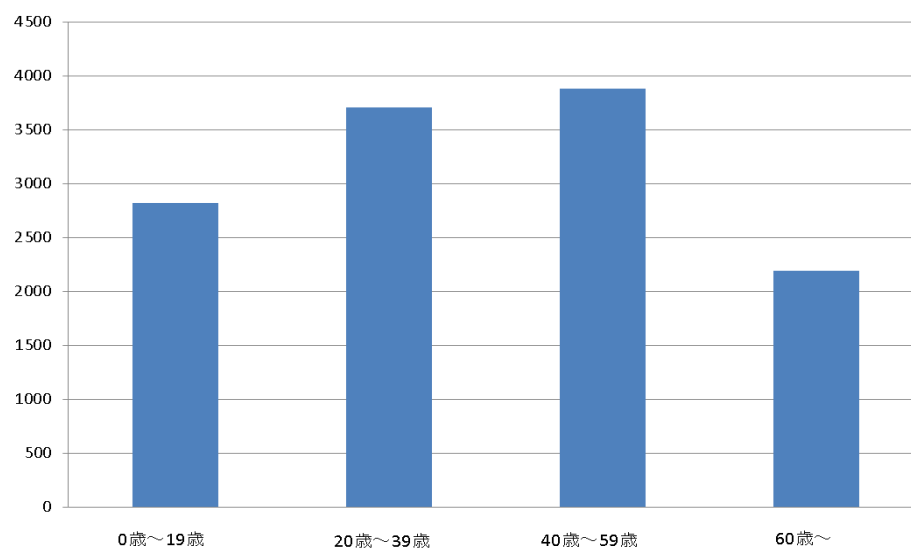
我々は今回カウント調査を行うに当たり、(1) ①、②、③の出入り口の来訪者数、(2) 年代別の来訪者数、(3) 時間別の来訪者変動について、それぞれ次のように調査予測を立てた。まず、(1) について、飲食店の出店が集まっている点から、①の出入り口に人が集中すると予測を立てた。次に (2) について、地元根付いたお祭りであることから、古くから親しみのある 60 歳以上の来訪者数が多いと予測を立てた。最後に (3) について、私たちのゼミでも昼食を意識し餅の分量を考えたように、昼食を目的として来訪している人が多いため、昼時が混雑すると予測を立てた。

<調査結果>

(1) ①、②、③の出入り口の来訪者数

この日の下町まつりの来訪者数の合計は 12604 人で、①の出入り口の来訪者数は 6953 人。②の出入り口の来訪者数は 2787 人。③の出入り口の来訪者数は 2864 人であった。以上から、①の出入り口は、他と比べても 2 倍以上多くの来訪者が集まることがわかる。これは根津駅からの来訪者が多いこと、下町らしいお店が①出入り口周辺に多いこと、飲食店の屋台が集中していること、サブ会場からのアクセスが多いということが要因であると考察できる。反対に②と③の出入り口は、門の幅が広いことから自転車でも自動車でも入りやすく、白山駅や本駒込駅方面からの来訪者が多いと考察できる。

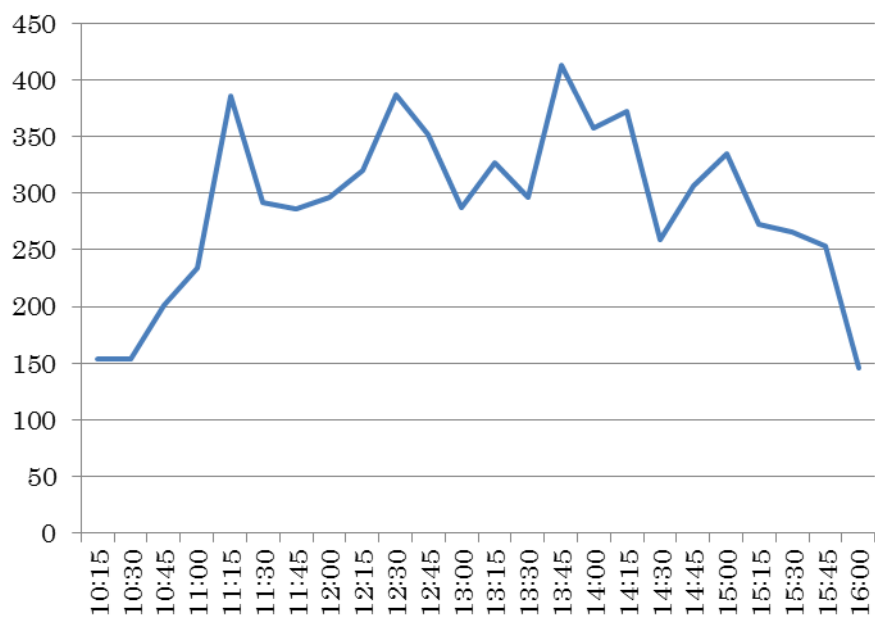
(2) 年代別の来訪者数



調査予測とは異なり 60 歳以上の来訪者数はもっとも少なく、40 歳～59 歳の来訪者数がもっとも多い結果となった。

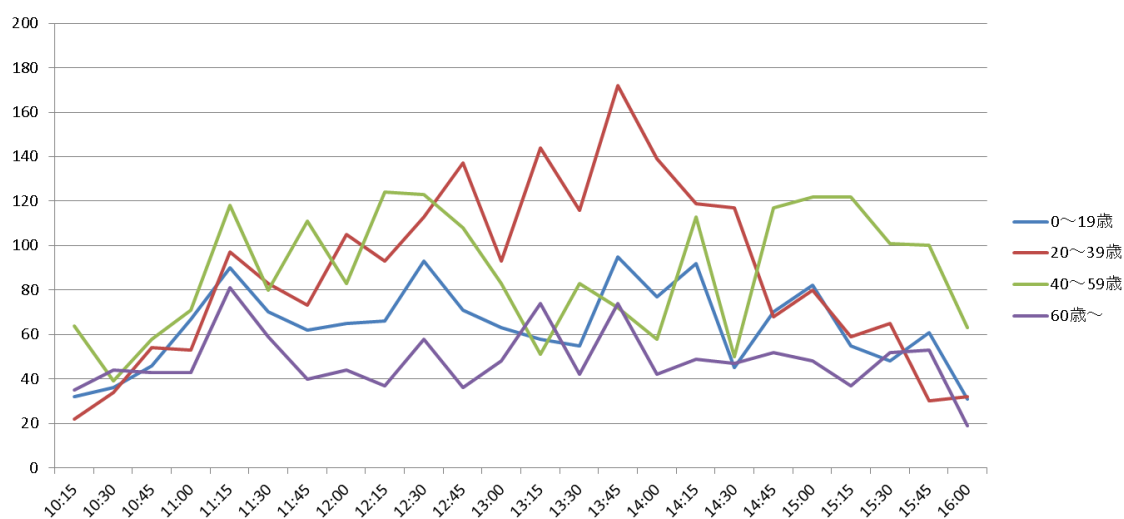
(3) 時間別の来訪者変動

①



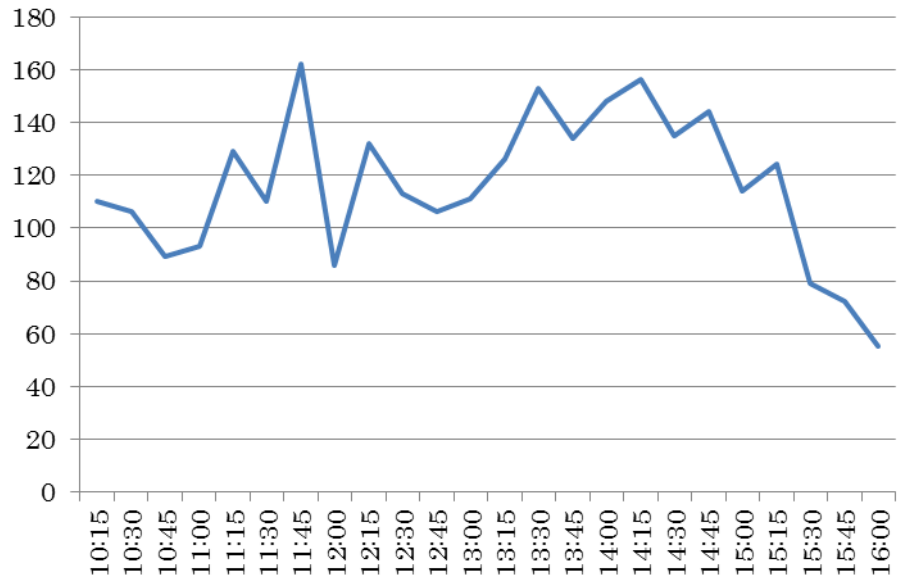
13：45 がピーク時であり 14：45 以降は減少していることが分かる。

年代別



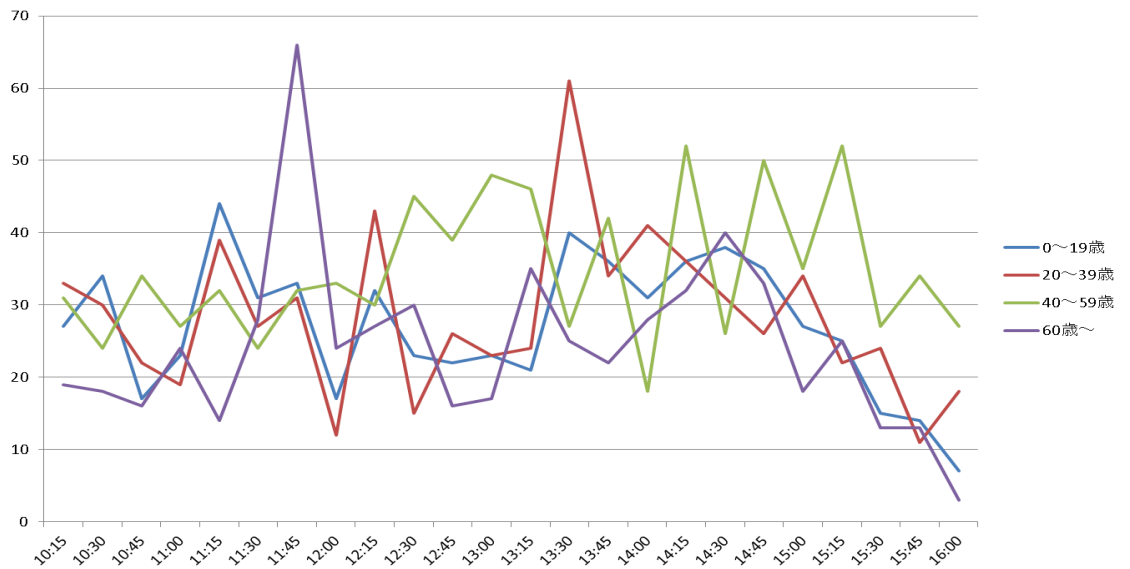
60 歳以上の来訪者は一日を通して非常に少ないことがわかる。また 12：45～14：30 の間は他の年代の来訪者数が落ち着いている一方で 20～39 歳の来訪者数が増えていた。

②



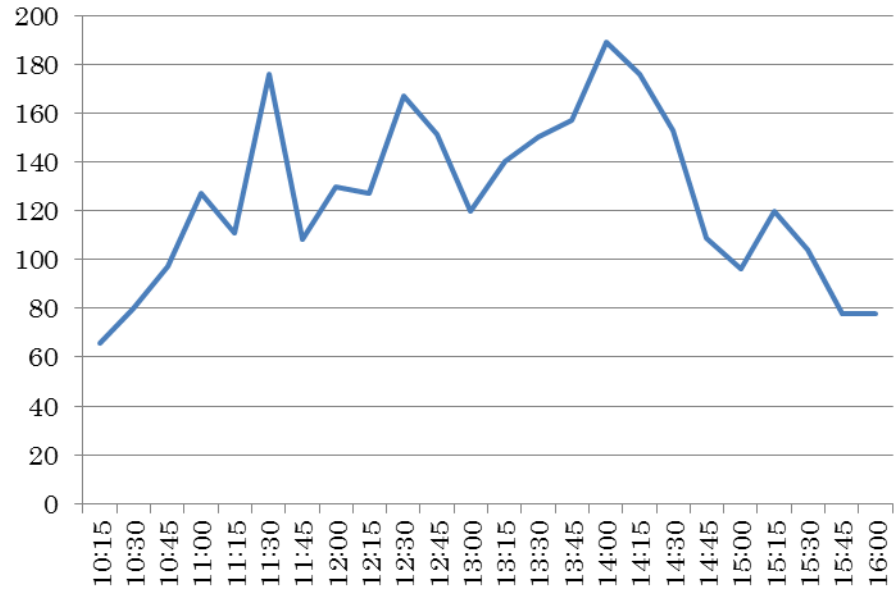
11：30 がピーク時であり 15：00 以降は減少していることが分かる。

年代別



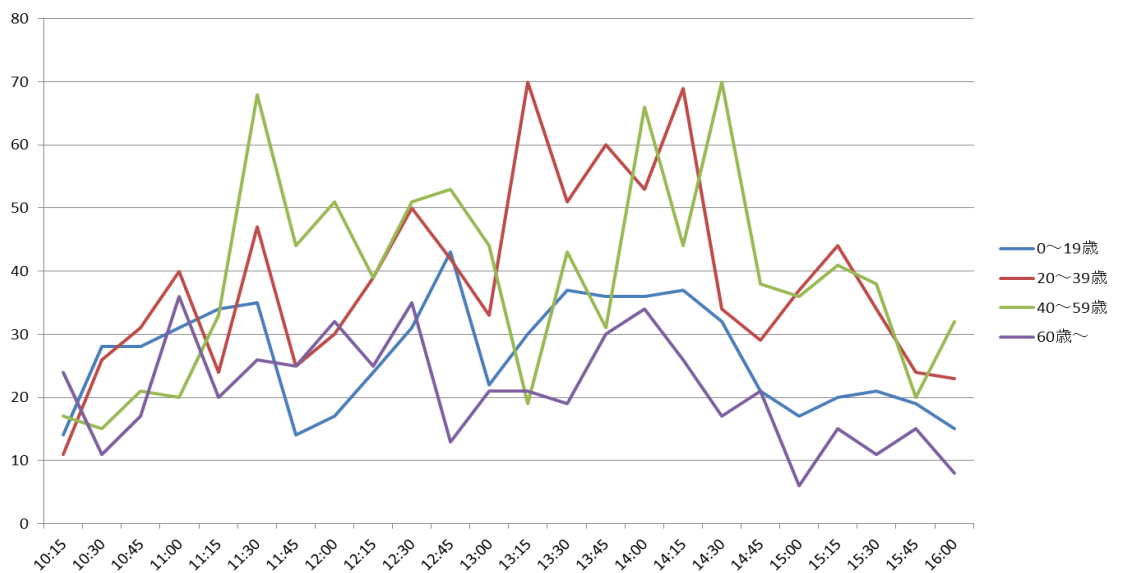
11:15 の時点では 19 歳以下が多く、11:45 の時点では 60 歳以上が多い。それ以降は 20 歳～39 歳と 40 歳～59 歳が多くなっていることがわかる。

③



14：00 がピーク時でありそれ以降は大幅に減少していることが分かる。

年代別



③の出入り口は車が唯一通れる入口であるため、ふれあい広場で行われているイベント参加者が多く利用していると考察できる。

以上の3つの出入り口の変動グラフから次のことが読み取れる。まず19歳以下は20歳～39歳のグラフと比例していることから、家族でお祭りに来訪していて、また家族連れはお昼前後に飲食店の出店を目的に来訪していることが考えられる。次に40歳～59歳は他の年代とあまり関連が見られないため、夫婦、友達同士などの同年代のグループで来訪していると考えられる。そして60歳以上はフリーマーケットを目的としていて、人混みを避ける傾向がみられることがわかる。また、午後以降からの来訪者数の減少が著しくみられることがわかる。

<まとめ>

今回我々はお祭りの来訪者数を2日間で売れた餅の個数から推測した。1日目に売れた数は284個で2日目に売れた342個の83%であるため、来訪者数も餅の売れた数と比例して、1日目は2日目の83%になると推測した。そのことから、2日目の約13000人の約83%である約11000人が1日目の来訪者数であると考え、2日間合計して約24000人が今年の下町まつりの来訪者数であると推測した。

Ⅲ. スタンプラリーアンケート調査

<調査目的>

スタンプラリーの認知度や参加率を把握し、活性化させるための参考にし、また調査結果から課題を見つけ、スタンプラリーの魅力を引き出すことで、スタンプラリーの参加者の増加に貢献するため。

<アンケート実施日>

10月17日～18日

<アンケート実施場所>

根津神社内（メイン会場）

<調査方法>

アンケート用紙による聞き取り調査

記録者（ ）

スタンプラリーについて

1. 下町まつりでスタンプラリーを行っていることを知っていますか。〈はい・いいえ〉

a) はいと答えた方にお聞きします。何で知りましたか。

〈ホームページ・パンフレット・ロコミ・毎年やっている・その他（ ）〉

2. 今回スタンプラリーをやっていますか。 〈はい・いいえ〉

a) いいえと答えた方にお聞きします。なぜやらないのですか。

〈面倒くさい・周りきれない・ほしい景品がない・時間がない・興味がない・その他〉

b) はいと答えた方にお聞きします。

①なぜやっているのですか。

〈景品目的・毎年恒例・なんとなく・スタンプラリーが好きだから・時間があつたから・その他（ ）〉

②何回目ですか。

〈初めて・2～3回・4～5回・6～7回・8～9回・10回以上〉

③最後までやり遂げたいですか。 〈はい・いいえ〉

④次回もやりたいですか。 〈はい・いいえ〉

3. スタンプラリーについて要望（改善点）があつたら教えてください。

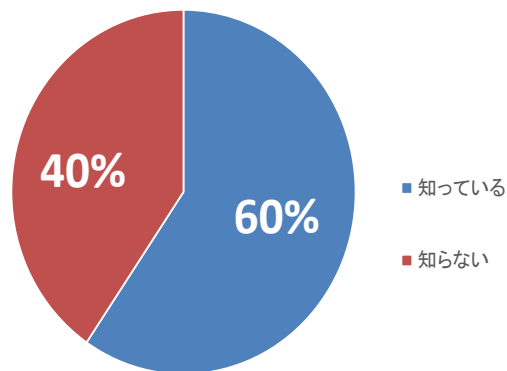
〈 〉

回答ご協力ありがとうございました。

<アンケート結果>

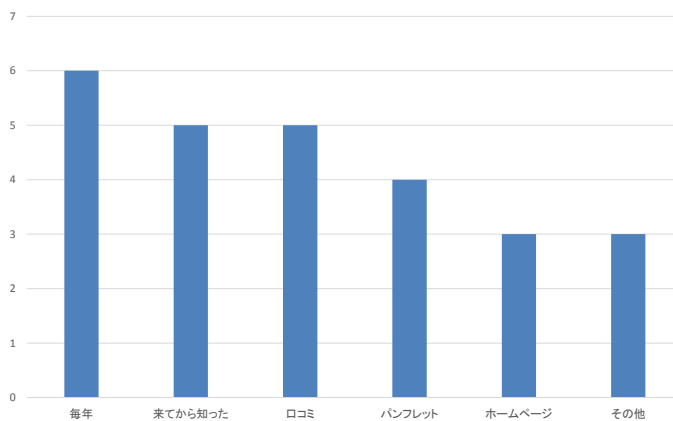
今回の下町まつりのスタンプラリーアンケートの被験者数は42人であった。
この調査も利用実態調査同様に年齢、性別に偏りが出ないようにあらかじめ被験者を割り振って実施した。

(1) スタンプラリーの認知度



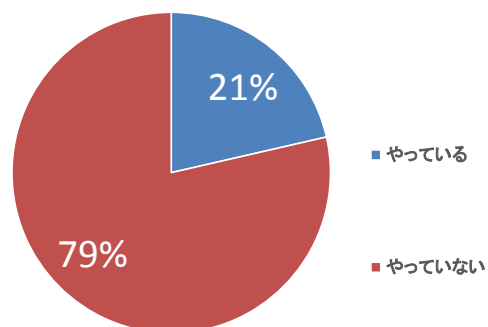
前回は景品すべてが交換されなかったという話も伺い、それに加えお祭りの前に大々的にスタンプラリーについての広告がないことから、知らない人が多いと推測した。しかし予想に反し、スタンプラリーを知っている人は6割、知らない人は4割という結果であった。

(2) スタンプラリーをどこで知りましたか。



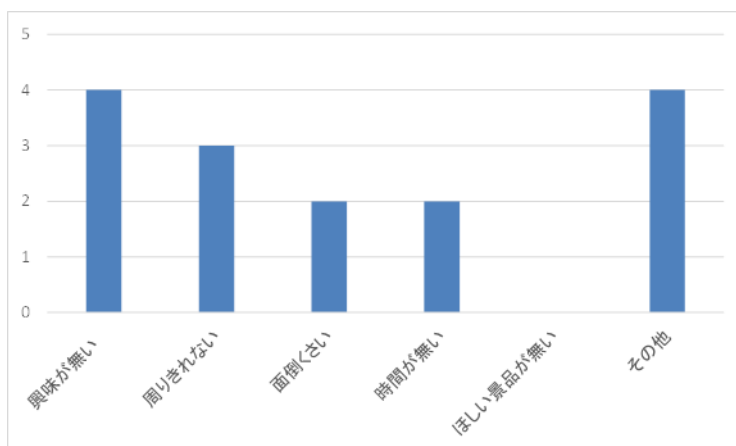
一番多かったのは、毎年やっているから知っているという意見である。次いで、来てから知ったという意見が多いことからお祭り前の広告不足が課題として挙げられる。その他には、Webや掲示板、文京新聞がある。

(3) スタンプラリーの参加率



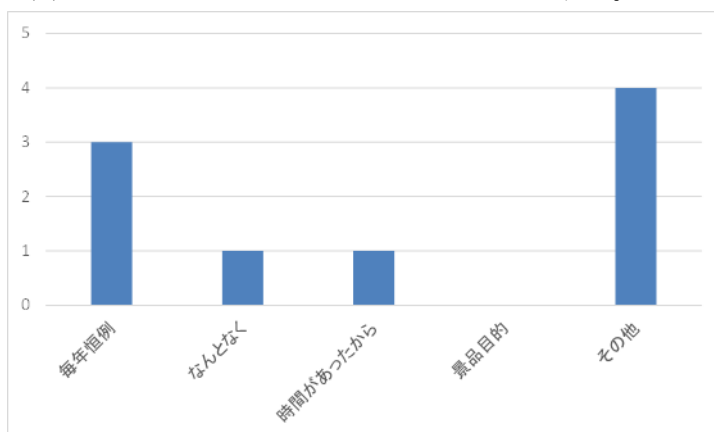
やっている人は21%、やっていない人は79%であった。また、スタンプラリーを知っている人の中でやっている人の割合は36%であった。

(4) なぜスタンプラリーをやらないのですか。



スタンプラリーをやらない理由として、興味がない、周りきれないなどがある。その他には、人が多すぎる、つまらなそう、こども向けのイメージがあった。

(5) なぜスタンプラリーをやっているのですか。



スタンプラリーをやっている理由として、毎年やっているからという意見が多く見られた。また、下町まつりではスタンプラリーの景品に力を入れているのに、景品目的での参加者がいなかった。その他には、いろんなところを周りた、ウォーキングのため、孫が来たいと言ったからなどがあった。

(6) 今年で何回スタンプラリーを行っていますか。



(7) 最後までやり遂げたいですか。次回もやりたいですか。

スタンプラリー参加者9人中9人、はいと回答した。このことから、スタンプラリーの満足度は高いと考えられる。

(8) スタンプラリーの要望・改善点

運営面：子どもたちだけでできればよい

バスがなかなか来ない

スタンプ一回につきガラポンを回せるようにしてほしい

広告面：地下鉄や旗の近くで宣伝するとわかりやすい

どこでやっているのかわからない

入り口でもっとスタンプラリー用紙を配ってほしい

情報が少なくて知らなかった

＜スタンプラリーの現状と改善点＞

このアンケート結果からわかることは、思っているよりもスタンプラリーを知っている人が多いことやスタンプラリーの詳細について知らない人が多いこと、スタンプラリー自体の満足度は高いこと、スタンプラリーの用紙が大人向けであること、景品目的の参加者がいないことなどが挙げられる。また、スタンプラリーに参加した人は、次回も参加したいと考えている。しかし、スタンプラリーの詳細について知らない人が多いため、スタンプラリーに参加したいと思わせるようなPRが必要なのではないかと考える。

＜今後のスタンプラリー向上のために＞

これらの結果を踏まえて、
今後のスタンプラリー向上のために具体案を3つ挙げる。

1：スタンプラリーの詳細を掲示すること

- ・スタンプラリーについてのポスターを貼る
- ・用紙を駅前や神社の鳥居で配布する
- ・スタンプラリーの場所をわかりやすくする

2：スタンプラリー用紙を改善する

- ・子ども向けのスタンプラリー用紙にする

3：景品の豪華さをもっとPRする

- ・景品をスタンプラリー用紙に記載する
- ・景品内容が分かるポスターを掲示する

IV. サブ会場調査

サブ会場を周り、利用者の実態把握と開催の意図を知ることがを目的に調査した。

① よみせ通り



(入口)

(会場内の様子)

- 場所・アクセス

千代田線「千駄木」駅から徒歩5分。メイン会場である根津神社から徒歩10~15分と少し遠い場所に位置するため、シャトルバスを利用するとよい。

- イベント内容

店頭販売、フリーマーケット

- 会場規模

よみせ通り一帯

- 年代

40~60代を中心に、まちまちに家族連れもみえた

- 雰囲気

通り一帯に人はいたが、おまつりらしい雰囲気はあまりない。

- まとめ・考察

サブ会場になっているが、下町まつりの賑やかさはあまりない。いつも通りの雰囲気。よみせ通りから谷中銀座に人が流れているように感じた。

②宮永仲通り



(入口)



(会場内の様子)

- 場所・アクセス

千代田線「千駄木」駅から徒歩4分。「根津」駅に向かって不忍通りを歩き、ふれあい館を過ぎた一本目の角を左に曲がると右手にある。

- イベント内容

和太鼓の演奏、「はん亭」による串揚げの屋台、姓名判断、人力車

- 会場規模

出店の数は少なく、通りの中心部分だけ和太鼓の演奏などの見物客が集まっており、この通りにおける祭りの規模は小さかった。

- 年代

50代60代が多く、ご年配の方が多い。子どもは少ないと感じた。

- 雰囲気

通り自体も広い通りではないが、規模が小さい分アットホームな雰囲気であった。無料で乗車できる人力車は家族やカップルなども楽しんでいた。

- まとめ・考察

場所は大通りを一本入ったところにあり分かりづらいため、あまり広く知られていないのではないかと感じた。そのため、この会場に来る人は、始めからこの場所でイベントが行われることを知っている、下町祭りのリピーターや近所に住む人が多くを占めていると考えられる。実際に、私たちが見た和太鼓の演奏は、多くの観客がその周

りを囲んでおり、手拍子したり、声をかけたり、とても盛り上がっていたためお祭りと地域の人たちの繋がりを感じた。

③森鷗外記念館



(入口)



(会場内の様子)

- **場所・アクセス**

千代田線「千駄木」駅から徒歩5分

- **イベント内容**

特別展、文の京ゆかりの文人銘菓販売

- **会場規模**

メイン会場より小規模である。

- **年代**

主にご年配の女性来訪者が多く見られた。

- **雰囲気**

会場自体が記念館のためお祭りのにぎやかな雰囲気というより、普段と変わらない文化施設としての静かで落ち着いた雰囲気があった。

- **まとめ・考察**

スタンプラリーのみで訪れる人が多く、実際に記念館を利用する人はごくわずかだった。同時にスタンプ台の隣にあるショップでは森鷗外ゆかりのグッズが販売されていて、谷根千としての新たな魅力の発信地であるとも感じた。しかし森鷗外とお祭りの関連がわかるような展示やグッズが会場内であまり見受けられず、スタンプラリー以外の部分で下町まつりを感じられるところは少ないように思う。今後、下町まつりの開催期間中は会場内で下町まつりと関連した催しを行うことで、サブ会場として盛り上がると感じた。

④須藤公園



(入口)



(会場内の様子)

- **場所・アクセス**

千代田線「千駄木」駅から徒歩2分。不忍通りから左の小さな路地に入った先にある。

- **イベント内容**

フリーマーケット、スタンプラリー、食事販売、写真展、子ども向けのゲーム屋台

- **会場規模**

他のサブ会場に比べると会場の規模も比較的大きく、多くの来訪者で賑わっていた。

- **年代**

老若男女問わず多くの来訪者が見られた。特に家族と一緒に来た幼児や友達と来た小学生、さらにご年配の方が多く見られた。

- **雰囲気**

公園内のため池や森林などの自然が多い。小さな子供たちが楽しそうに屋台のゲームを楽しんでいた、大人も一緒に楽しんでいた、会場全体がアットホームな雰囲気で祭りが行われていた。

- **まとめ・考察**

会場が住宅街の中にあるので、下町祭りのリピーターや近所に住む人が多くを占めていると考えられる。須藤公園は都内の公園では珍しく自然が多く、公園内には遊具もある良い公園なので、設備に関しては、公園の歩道両側に店が並ぶ形になっており、混雑すると渋滞で前に進みづらく、また会場が公園内のため、足元が不安定な箇所があり転倒などの危険性もあることから、屋台を片側に寄せる事で通りの確保することが望ましいと思われる。会場内の座る場所が少ないとも感じた。

⑤千駄木二丁目会場



- 場所・アクセス

千代田線「根津」駅から徒歩4分

- イベント内容

商店街歴史クイズラリー（おまつり二日目はかつぼれ、ちゃんこ販売）

※一丸先生のすもうマンガの原画展示は著作権の関係で開催されず

- 会場規模

他のサブ会場よりも小さい

- 年代

調査時の来訪者はごくわずかだった

- 雰囲気

マンガの原画展示が行われていなかったために、会場の中に入ることはできず、商店街歴史クイズラリーの受付、回収場所となっていた。そのクイズラリーも参加者がほとんどいない様子で、クイズラリーを主催していた大学生が一生懸命に呼びかけをして参加者を募っていた。

- まとめ・考察

スタンプラリーのスタンプを貰うためだけに寄る会場という印象。マンガの原画展示があればもう少し活気があったと思う。おまつり二日目に開催予定の、かつぼれ・ちゃんこの販売ではこの会場は盛り上がりを見せたのかもしれない。

⑥不忍通りふれあい館



(入口)



(会場内の様子)

- **場所・アクセス**

千代田線「根津」駅から徒歩2分、「千駄木」駅より徒歩10分
都バス 上60、上26、上58系統「根津駅前」より徒歩2～4分

- **イベント内容**

邦楽コンサート、弦楽コンサート（千駄木親子オーケストラ）、ダンスパフォーマー

- **会場規模**

小さい。目安として、メイン会場のふれあい広場での発表場所くらい

- **年代**

30～50代が多く、子どもは少ない。発表者の身内が多く訪れていたように感じた。

- **雰囲気**

入ってすぐ、目の前のスペースに椅子が所狭しと並べられていた。地域のサークルや団体が発表する場であった。立ち見が出るくらい賑わっていた。

- **まとめ・考察**

地域のサークル団体が練習を重ねて披露していることがわかった。発表者の家族・知人が多くいた。また、発表者の関係者以外の来訪者は少ないと感じた。入口からみて立ち見が出るほど賑わっているが、瞬時に何が行われているかわかるので立ち去ってしまう人が目立った。スタンプラリーの場所でもあるので、参加者に上手く宣伝できたら良いと考える。また、撮影している方が多く見られたが、ステージを撮影しようとする逆光になるので窓に暗幕をつけるなどするとより撮影しやすく、観客も発表を見やすいと考える。

⑦藍染大通り



(入口)



(会場内の様子)

- **場所・アクセス**

千代田線根津駅から徒歩4分

- **イベント内容**

根津・藍染まち歩きガイドツアー、藍染通りマルシェ、和太鼓、かつぼれ、商店街パレード

- **会場規模**

道路にテントが3・4個立っているくらいの規模

- **年代**

ご年配の方や、和太鼓に出演していた小中学生の子ども達の親世代が多い

- **雰囲気**

メイン会場から出て目の前の通りを歩行者天国にしている。メインが“マルシェ”のため、活気あるお祭りという雰囲気では無いが、まち歩きガイドツアーやサブ会場で唯一の外国人観光客向けのプログラムが実施されていて、根津・千駄木下町まつりを通して、外から来た人に谷根千を知ってもらおうきっかけ作りをしている会場である。

- **まとめ・考察**

外国人旅行者向けの無料体験として、色紙に習字を書くことの出来るプログラムが非常に魅力的であると感じた。近年谷根千にも増えてきている、外国人旅行者への満足度向上に効果的であると思う。もちろん、スタッフの方々も英語等の対応可能であった。東海林ゼミとして、今後谷根千とインバウンドの関係性を調査していく機会があるのであれば、この藍染め大通りは調査場所として最適である。

和太鼓パフォーマンスが始まった際は、通りの入り口（手前）で人が溜まってしまい、マルシェが開催されている、奥の通りまで人が流れていなかった点が残念に感じた。

⑧根津銀座通り



(入口)

- **場所・アクセス**

千代田線「根津」駅より徒歩1分

- **イベント内容**

下町まつりと商店会祭りの同時開催

飲食ブース、プロ・アマによるジャズやボサノバの演奏

- **会場規模**

イベントが行われていなかったため全体像が分からなかった

- **年代**

調査時にイベントは行われておらず、来訪者もほとんどいなかった

- **雰囲気**

イベント時以外の人通りはわずかである

- **まとめ・考察**

2日目の13時から飲食ブースが始まるため、下町まつりのサブ会場として楽しむには時間の確認が必要である。しかしパンフレットにイベントのスケジュールが記載されていないため、今後記載すると来訪者もより楽しみやすくなるだろう。

イベントを行っている時間に調査できなかったため、人通りも少なかったが、イベントが始まってからは賑わっていたのかもしれない。

(4) 会計班報告

利益

売上高	156,500
材料費	79,133
利益	77,367

商品別売上

商品名	単価	売上個数	売上
もち(あんこ)	250	366個	91,500
もち(大根おろし)	250	260個	65,000

材料費内訳

材料	数量	値段
もち米	65升	48,000
あんこ	35kg	15,400
大根	35本	7,520
ザラメ	1kg	726
重曹	1個	385
醤油	2本	378
卵	1パック	118
割りばし	700本	2,366
バット	4個	432
輪ゴム	1パック	108
ガス		3,700
合計		79,133

3. 各出店事業共通作業

(1) Tシャツ作成

①コンセプト・理由

出店するにあたり、オリジナルの T シャツを作ること、宣伝効果を生み出すことができる。そして、集団としての団結力を高め、外部にも示すことができる。常に名前を背負うことで、責任感を持って行動することができる。

また、今まで東海林ゼミでは「つなぎ」を着用することが多かったが、今回 T シャツに変更した理由は、祭りが行われる時期は T シャツの方が気候に合っているということと、予算の面でコストパフォーマンスが良いためである。

②デザイン

【色】 濃紺 東洋大学のイメージカラーであるとともに、どのアイテムにも合わせやすい。また、華美になりすぎず親しみのある色でもあることから、下町の祭りに最適であると考えた。

【背面】今回の出店内容がお餅であり、テーマが「お月見」なので、うさぎが杵を持っているようにデザインを考えた。背景を黄色にして「月」イメージし、あえてハート型にすることでデザイン性を向上させる狙いがある。(図1)

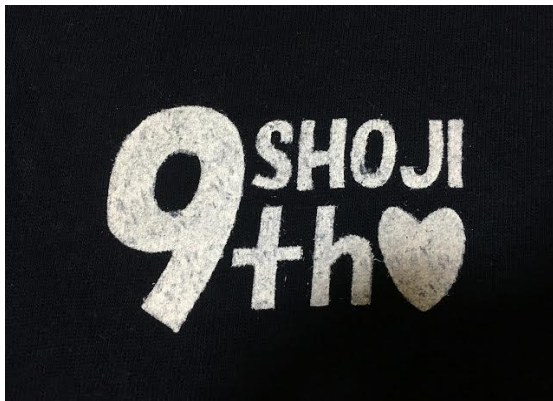
【前面】背面が目立つので控えめなワンポイントを意識した。前からみても、「東海林ゼミ 9期生」と分かるように意識した。(図2、図3)



(図1)



(図2)



(図 3)

③作成工程

【材料】Tシャツ（購入元：プラスワン 価格：655 円＋税） ステンシル台紙 アクリル絵の具 パレット 筆またはブラシ（絵具はたたいて塗るため、はけが大きいものを使用）新聞紙

【工程】

台紙の作成：Cutting Master2 for Craft Robo のソフトを使い、前面と背面のデザインを作成。Craft Robo を使い台紙にカットイングする。

ステンシル作業：ステンシル台紙からシールをはがし、Tシャツに貼り付ける。下に色がうつらないように間に新聞紙を敷く。アクリル絵の具をはみ出ないように注意しながら筆やブラシで叩く。絵具を水で薄める必要はない。（図 4）

最終工程：乾かしてシールを剥がす。※その際、乾かしすぎると剥がれにくくなり汚くなるので注意が必要。さらに上からアイロンをかけることで色落ちを防ぐことができる。



(図 4 ※この写真は練習用です)

④感想・反省点

事前にTシャツづくりの日程の計画を立てていたため、ある程度予定通りにすすめることができた。今回の出店のテーマに合った良いデザインを作ることができた。

反省点は、ステンシル台紙をカッティングする際、練習をせず一気にカッティングしてしまい、ミスがあり人数分の台紙を無駄にしてしまった。

(2)材料類の発注及び価格(総務班)

インターネットでの発注は送料がかかるためなるべくまとめて発注し、発注してから届くまでの時間を考えて余裕を持って発注するべきである。在庫が切れない為に常に在庫管理が出来るような工夫が必要。材料の発注先が異なっているのは発注先を検討していたためである。発注者が直接買いに行く場合はレシートに購入品が記載されていないこともあるため、購入した物をその都度書き留めておくといい。

・購入表(ネット発注)

	買い付け先	品名	規格	数量	単位	単価
もち	ホクレン http://www.hokurengreennetshop.jp/products/detail.php?product_id=163	もち米		6	kg	¥561
	会津CROPS米直販・楽天市場店 http://item.rakuten.co.jp/jcrops/100007702/	もち米	1.4kg(一升) ×5袋	21	個	¥3,699
	あんこの内藤 http://item.rakuten.co.jp/auc-e-anko/a-11/	あんこ	5kg	12	個	¥2,048
その他	佐勘金物店 http://item.rakuten.co.jp/sakan8man/csw3654/	白シート	約3.5x5.3m	4	枚	¥1,080

・購入表(ネット以外)

主に白山駅周辺のスーパー、100円ストア、ホームセンター薬局で購入した。

	購入品	個数	購入品	個数
食材	大根	79本	ザラメ	16袋
	もち米	13kg	重曹	3袋
	味の素	3袋	卵(4個入り)	2パック
	醤油	3本	あんこ	2kg
資材	ウェットティッシュ	19個	キッチンペーパー(4個入り)	2個
	ゴミ袋(50)枚入り	3袋	カセットボンベ	6個
	バット	18個	温度計	1個
	割りばし	1200本	はかり	1個
	ハサミ	1本	カルメ焼き用おたま	1個
	計量カップ	1個	カルメ焼き用バット	2個
	木べら	2個	ぞうきん	1枚
	ジップロック	3ロール	お玉スタンド	6個
	ビニールシート	2枚	輪ゴム	2箱
	テープ	8個	ゴム手袋	3箱
	クランプ	2個	乾電池	2個
	洗剤	2本	ビニール袋	500枚
	パック	1000パック	カルメ焼き用袋	100枚

需要予測

もちのみの販売は過去に経験がなかったため、需要予測をすることが難しかったので作る際にかかる時間を考慮して販売数を決定し、もちとその材料の原単位に従って発注を行った。

・お餅の原単位

1 もち米

もち米 1.4kg(1 升)×3 袋で作ることができるもちの量(重さ) ⇒ 7kg

2 もちのパッキング

(1)1 個当たりのもちの玉の量(重さ) ⇒ 33g

(2)1 パック当たりのもちの玉の数 ⇒ 6 個

(3)ポリパックの大きさ ⇒ 15cm×8cm

(4)1 パック当たりのもちのみの量(重さ) ⇒ 200g

3 もちの味付け

(1) あんこについて

<1>1 パック(もち 6 個)あたりのあんこの量(重さ) ⇒ 100g

<2>あんこに入れる水の量 ⇒ あんこの量の 15%

(2) 辛味大根について

<1>1 パック(もち 6 個)あたりの大根おろしの量(重さ) ⇒ 60g

<2>大根一本あたりの大根おろしの量(重さ) ⇒ 900g

<3>一度水を切った後の大根おろしの量(重さ) ⇒ 700g

<4>大根おろしと醤油の量(重さ)の割合 ⇒ 大根に入れる醤油の量の 20%

※醤油の重さは水の 1.2 倍

(3) もち・カルメ焼き作成マニュアル

1. セイロ

●必要なもの

- | | |
|---------|----------------|
| ・コンロ | ・やかん |
| ・羽釜 | ・ポリバケツ (中) × 2 |
| ・セイロ | ・チャッカマン |
| ・プロパンガス | ・レンガ×4 |
| ・蒸し布 | ・割り箸 |
| ・軍手 | |

●作業手順

①セッティング

レンガを2つ 1 セットで用意。その上から、コンロ、羽釜の順にしたから組み立てる。

セイロと羽釜の組み

を参照

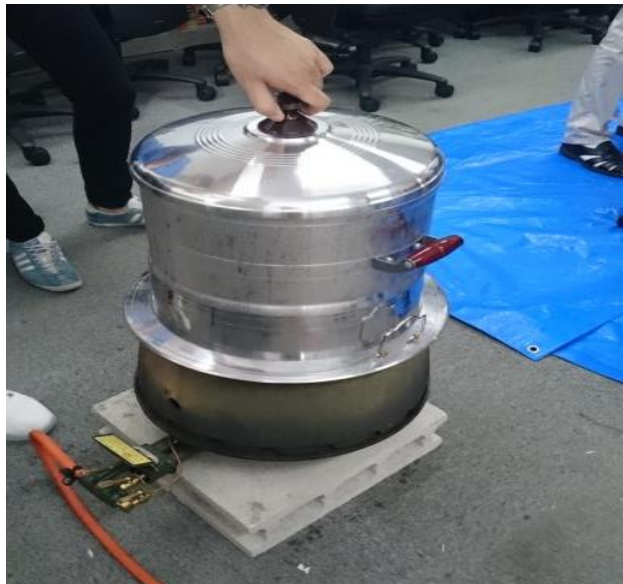
② 水を羽釜に適量汲み、火にかけ、沸騰させる。(約 20 分)



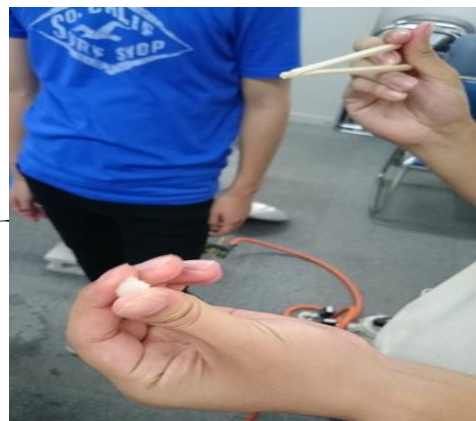
③ 浸しておいたもち米を、蒸し布を敷いたセイロに移し、布で覆う。



④ お湯が沸騰したら、羽釜の上にセイロを乗せ蓋をした状態で12分から15分ぐらい蒸す。



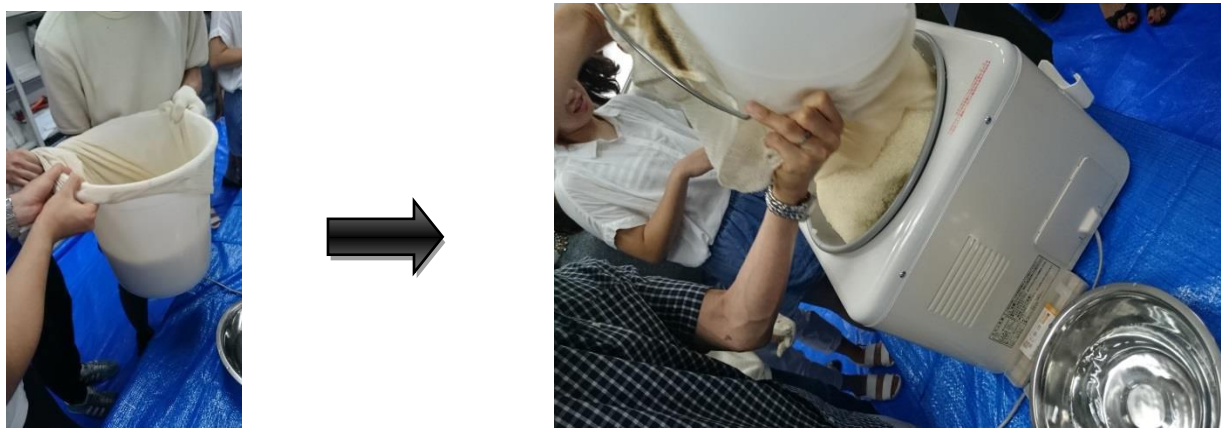
⑤ 一部の米を取り、味見。芯が残っていないか確認する。



⑥ 食べられる状態になっていれば、蒸し布を持ち、蒸し布ごとをバケツにうつす。



⑦ バケツを餅つき機まで持っていき、米を餅つき機に移す。



● コツ・注意点

※米をセイロからバケツへ移す際には、布の扱いに注意する。

➤ 羽釜から出すときに布が羽釜へ垂れてしまうと布が焦げてしまうので、垂らさ



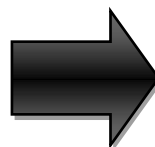
ないようにする。

- バケツに入れる際に、布を外側へ垂らし、バケツの取っ手下にまとめるようにする。

※蒸しあがったもち米や、熱された羽釜やコンロは熱くなっているので、手袋、軍手を着用しやけど対策を施す。

※蒸しあがったもち米を餅つき機へ運搬する際には、通路上の人物に細心の注意を図る。

セイロと羽釜の組み立て



完 成



2. 餅つき機

●必要なもの

- ・餅つき機(グレーのボール、プロペラ、シリコン)
- ・手水用のボール
- ・しゃもじ
- ・竹串
- ・ゴム手袋
- ・アルコール
- ・キッチンペーパー
- ・お湯
- ・時計

●作業手順

- ①シリコンをセットして、上からグレーのボールとプロペラをセットする。



②蒸しあがったもち米を入れる。



③しゃもじで横側を押し込む（米の粒がなくなるまで）１０分ぐらい



④ゴム手袋（２枚）、手水付けて餅切り機へ移動



⑤片付け

- ・プロペラとシリコンの餅を取る



- ・グレーのボールとプロペラを刺していた銀の棒をアルコールで拭く。

●コツ・注意点

- ※餅米を入れるときネットが餅つき機のプロペラに絡まないように、束にして入れる。
- ※餅は横側から押し込む。
- ※餅の移動は躊躇せずに行う。
- ※プロペラ・シリコンの餅取りは少し時間が経ってから。

3. 餅きり

●必要なもの

- ・餅きり機
- ・アルミ板
- ・クランプ×2
- ・ゴム手袋
- ・手水用ボール

●作業手順

- ①餅つき機を組み立てる [餅つき機組み立て方](#) を参照
- ②餅つき機から餅切り機につき終えた餅を入れ換える。
- ③ハンドル二回転して、餅をゆっくり切り、味つけ(あんこ/辛味大根)が入ったトレーに切り落とす。

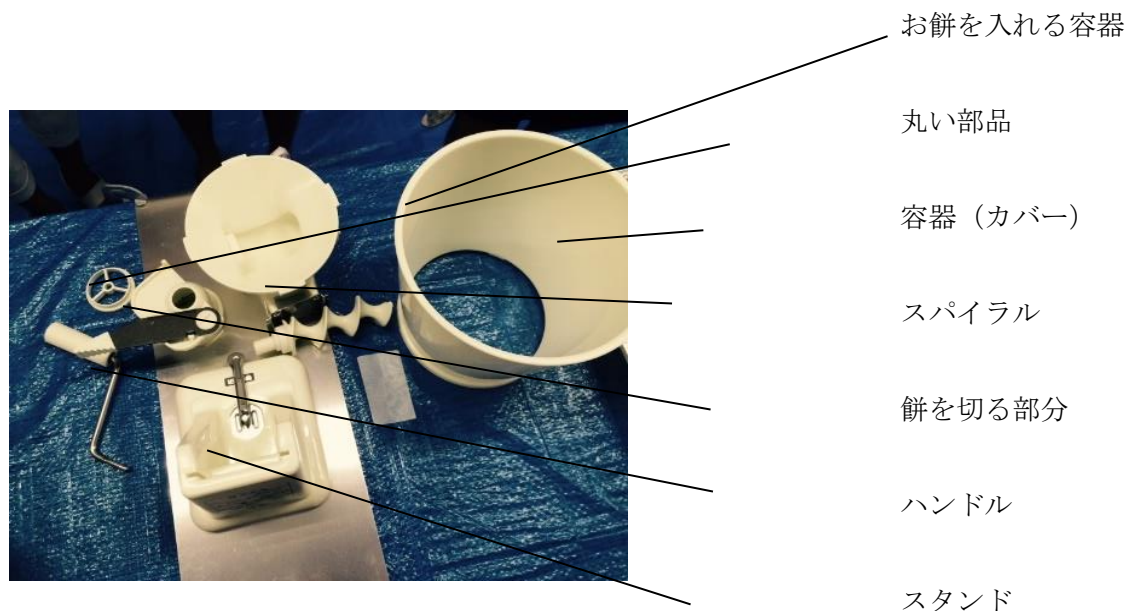


●コツ・注意点

- ※切るときは内側に押し付けながら切ると切り落としやすい。
- ※時間が経つと餅が餅切り機の本体について固まってしまうので、適宜水で濡らした手で餅を真ん中に寄せながら回転させる。
- ※作業に集中して声出しや連携がとれなくなってしまう恐れがある。周りを意識しながら作業することを心掛けること！

餅つき機組み立て方法

☆部品 7 つ



①お餅を入れる容器にスパイラルをはめる。



②丸い部品をスパイラルを差し込んだ部分に被せるようにはめる。
(溝がスパイラル側になるように)

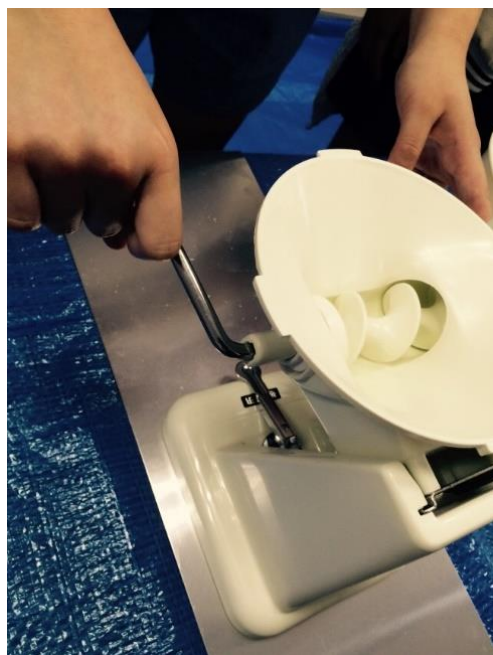


- ③餅を切る部品を、丸い部品を装着した部分に装着する。(右側)
※刃物なので取り扱いに注意する。



- ④ストッパーを締めてロックをかける。

- ⑤ハンドルを右側に装着する。



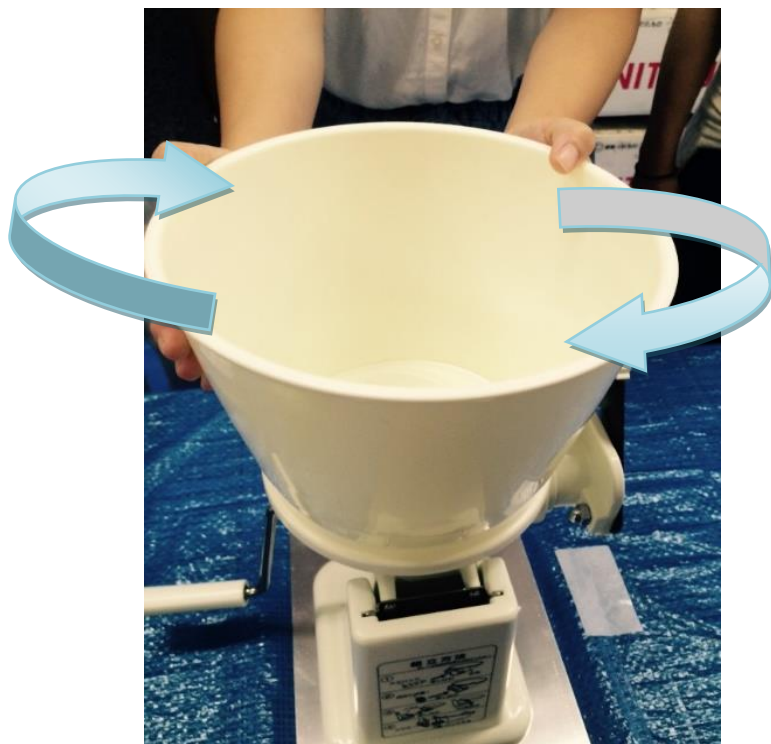
⑥台に本体をはめる。

※はまるまでしっかり押す。



⑦容器（カバー）を装着する。

※容器が外れないように「くっ」と横に回転させる。



●必要なもの

- ・餅切り機
- ・アルミトレイ
- ・トング
- ・ゴム手袋

●作業手順

① トングを使用し、切り落とした餅を具と絡める。(1つの味)



② 24個切り落としたら違う味のトレイを受け皿にする。

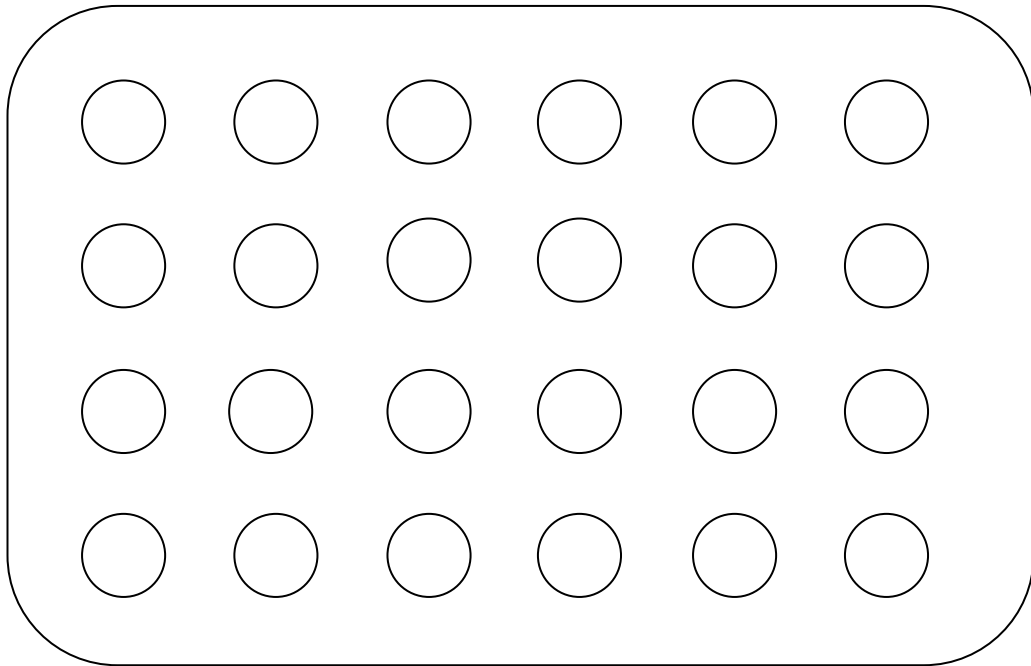


③ ①、②を繰り返す。

●コツ・注意点

※切り落とした餅をアルミトレーに6×4に並べる。

(数が一目瞭然で分かる、餅同士もくっつかない)



※あんこまたは大根は、なくなりきる前に補充する。

※祭り当日は、在庫を逐一確認しながら調整する。(あんこと大根を均等に作る必要はない)

5. パッキング

●必要なもの

- | | | |
|-------|--------|-------------|
| ・ トング | ・ 計り | ・ 輪ゴム |
| ・ パック | ・ ゴム手袋 | ・ ウェットティッシュ |

●作業手順

①餅切りをして味付けをしたお餅を1パックに6個入れる。



②総量をはかる。(餅6個の重さ200gを含めて)

☆あんこ → 300g

☆辛味大根 → 260g



③輪ゴムで閉じる。

④保温箱に入れる。



●コツ・注意点

※保温箱は会計やお餅を取り出す人から見て左から詰めていく。新しくできたものを右においていく。

辛味大根とあんこの事前準備

1、大根おろし作り

●必要なもの

・大根

1パックあたり的大根おろしの量 60g

大根一本あたり的大根おろしの量 900g

※水を切った場合 700g

・味の素

大根一本あたり、1.6g

- ・醤油

大根の重さの20%(大根おろし1000gなら、醤油200g)

- ・すりおろし機

- ・ざる

- ・アルコールスプレー

- ・包丁

- ・ピーラー×2

- ・まな板

- ・ボール×2

- ・木べら

- ・計量カップ

- ・ポリバケツ

- ・ジップロック(大根おろし保管用)

- ・ゴム手袋

●作業手順

①大根の皮をむく。

②大根を縦四等分にする。(おろし機に入るように)



③おろし機でする。



④ボールがいっぱいになったらざるとボールを使って、水を切る。



⑤水切りした大根おろしをまとめてポリバケツに入れて、最後に醤油と味の素を入れ混ぜる。

⑥出来あがった大根おろしを餅米3升分ごとにジップロックに入れる。

●コツ・注意点

※すりおろし機は歯が粗いほうを表にする、ネジとふたをしっかりとめる。

※醤油の量はその場で大根の重さに合わせて、計算して入れる。

2. あんこ作り

●必要なもの

- ・あんこ
- ・お湯（あんこの量に対して15%入れる）
- ・計量カップ
- ・お湯汲み用ボール
- ・ポリバケツ
- ・割り箸
- ・ジップロック
- ・おたま
- ・木べら
- ・ゴム手袋

●作業手順

- ①あんこをポリバケツにいれる。
- ②お湯をポリバケツに入れる。
- ③木べらであんこを切るようにし全体を混ぜる。



- ④あんことお湯が完全に混ざり、水気がなくなったら、おたまですくいながら餅米 3 升ごと
- にジップロックに入れる。

カルメ焼きの制作

(4)カルメ焼きのレシピ

1、材料

- ・ ザラメ 3 0 g
- ・ 水 1 1 c c
- ・ 重曹卵（卵の白身+重曹）

2、道具

- ・ ガスコンロ
- ・ お玉とかき混ぜ棒
- ・ はかり
- ・ 温度計
- ・ 水入れ
- ・ 重曹卵入れ
- ・ 温度計入れ
- ・ 濡れた布巾、乾いた布巾
- ・ 洗いものような鍋
- ・ カンロ杓子（鍋からシロップをすくう用）
- ・ トレー（出来あがったカルメ焼きを並べる用）

3、作り方

手順	作り方	
1	【重曹卵の準備】 重曹に卵白を入れて、ぐりぐりと混ぜる。 ソフトクリームぐらいの硬さにする。	
2	【ザラメシロップの準備】 鍋にザラメと水を入れて、加熱して溶かす。	
3	【コンロで加熱】 お玉に2で作ったザラメシロップを少し入れて、中火にかけて、128度前後まで加熱する。 加熱中は、温度にばらつきがでないように、しっかりと温度計で混ぜ合わせる。	
4	【重曹卵の混ぜ方】 128度になったら、火からおろし、乾いたふきんの上に置く。 ザラメシロップから出る泡がなくなり、浮いている泡も小さくなったら、小豆ほどの大きさの重曹卵をかき混ぜ棒につけ、思いっきり混ぜ合わせる。	

5	【カルメ焼きが膨らむ様子】 混ぜているうちに、ざらつき出すので、適度なタイミングでかき混ぜ棒をそっと抜く。 10秒ほどで、グググッと膨らむ。	
6	【冷却】 膨らみ終わったら、濡れたふきんの上に置いて冷ます。急冷することでカルメ焼きを固める。	
7	【お玉からの取り外し】 カルメ焼きの中まで十分に冷えるまで10分～20分待つ。その後、再度弱火にかけ、カルメ焼きをお玉からツルッとすべり出させる。	
8	【できあがり】 カルメ焼きをトレーに並べて、完成！	

4、コツ・注意点・その他

- ・重曹卵や不純物が多いほど、膨らみやすいが、サクサクの柔らかいものができる。
- ・少し温度を高めにして、重曹卵を少なくすると、固めのものができる。

・ショ糖（スクロース）は、ある温度に下がるまたは衝撃を与える
と結晶が分析する。かき混ぜは、温度を下げる、衝撃を与えるという
2つの働きをする。

・先にかき混ぜ棒に重曹卵をつけとくと、作り方4のところで楽。

・作り方4のかき混ぜをやめるタイミングが少々難しいが、なめらかなクリーム状の材料が、ある時からざらついた感じに変わる。ほどなくして、粘り気が出始めて、膨らみだす。この膨らみ出す直前にかき混ぜ棒を引き上げる。

・お玉とかき混ぜ棒の洗いは、お湯につけると簡単に落ちる。現場では、別途にコンロと鍋を用意して、洗い専門の鍋にする。



5、当日のレイアウト



お玉の置き台
温度計
コンロ

重曹卵
乾いている布巾
濡れている布巾

10 期生対象 ゼミ説明会報告

第Ⅴ章. 10 期生対象ゼミ説明会報告

日時：平成 27 年 5 月 12 日

場所：5305 教室（受付会場）

観光資料室、5203 教室（説明会会場）

2014 年度の入学生から、ゼミの配属が 2 年の秋からに変更になったため、10 期生対象のゼミ説明会を 5 月に実施した。9 期生は、ゼミに配属されて 1 ヶ月しか経っていないため、今回のゼミ個別説明会は 8 期生が主に説明を担当することとなった。中でも、東海林ゼミの個別ゼミ説明会の運営は 8 期の広報班と 9 期の調査班が担当した。

【実施方法】

～事前準備～

- ・評価シート×説明会参加者分
- ・報告書
- ・受付表
- ・教室の確保

～配置～

- ・1 グループ 5, 6 人のゼミ生を配置。
観光資料室に 2 グループ、5203 教室に 3 グループ
を配置し、対面で説明が行えるように座席を組んだ。

- ・受付会場もレイアウトを提出台と、記入台でコの字型
になるようにした。

【当日運営】

～タイムスケジュール～

- 14 : 35 5305 集合 オリエンテーションと机等のセッティング
15 : 00 観光資料室と 5203 にそれぞれのグループが分かれる
15 : 10 説明会開始
1 グループ 30 分を目途に終了
混み具合で適宜時間は調整した
19 : 10 終了

時間帯希望表	
氏名 (カタカナ)	
< 希望時間帯 >	
()	15 時 ~ 16 時
()	16 時半 ~ 17 時半
()	18 時 ~ 19 時
本人控え	
氏名 (カタカナ)	
< 希望時間帯 >	
()	15 時 ~ 16 時
()	16 時半 ~ 17 時半
()	18 時 ~ 19 時

《当日使用した受付表》

各班それぞれのやり方で、10 期生に対して説明を実施。8 期生からは、東海林ゼミの大

まかな年間スケジュールや就職活動をしている中で東海林ゼミとしての活動がどう活かされているかに重点を置いて話していった。9 期生は、自分が東海林ゼミを希望した理由や、配属されてから 1 ヶ月経った心境、東海林ゼミに入る前と後で感じたギャップを話した。

【良かった点】

- ・昨年、あまりにも人が集まってしまったため経験を活かして、今年は時間を分散させるために受付票を作成したこと。

このことにより、希望の時間を聞き、後になる場合はその時間に戻ってきてもらうよう促すことができた。そのために、昨年のような混雑もせず、順番通りに案内することができた。

- ・今回は、例年よりも個別説明会の時間を長く設けたこと。そのため、10 期生の授業が集中している時間帯は、誰も説明会に参加せず、暇になる時間も存在したが、5 限後にも関わらず、多くの 10 期生が説明会に参加してくれて、時間を長く設けて正解であったと感じた。

【改善点】

10 期生が、私たちが話している時に「どのような態度を取っているか」だけを意識して見すぎてしまったと思う。ゼミ生が見えているものだけでは無くて、説明会に参加してきた 10 期生が本当に東海林ゼミでやっていけるのか、合うのか等見えない部分も想像を働かせるべきであった。

どうしても、班ごとの活動や昨年からスタートした谷根千調査隊の活動内容の詳細等の細かい話になりがちであったため、東海林ゼミの活動の目的や意図等の大枠を話すべきであると感じた。その話をした上で、10 期生から出た質問に対して、話を展開していけば 10 期生が理解しやすく、伝わりやすい説明になると思った。

【補足】

個別説明会の説明する側を経験することによって、就職活動中に自分自身がどういうところを見られていて、どのような行動をすると好評価だと感じられているか、身を持って体験出来た機会となった。その点で言うと、10 期生のゼミ配属が早まったことと 8 期生の就職活動の時期が遅れたことが、ちょうど重なったため、例年には無い経験を出来た。8 期生は、東海林ゼミの個別説明会を 2 度経験出来たことになる。東海林ゼミについて、何も情報を持っていない相手に対して、自分が 1 年弱してきた活動について説明するということの難しさを学ぶことが出来たのではないだろうか。

9 期生・10 期生には、11 期生対象のゼミ個別説明会では「なぜ個別説明会をゼミの時間を実施しているのか」「11 期生は、9 期生・10 期生の雰囲気や話し方もゼミ選びの選択肢にしている」この 2 点を留意しながら、全員が運営していったほしい。

谷根千調査隊 プロジェクト報告

第Ⅵ章. 谷根千調査隊プロジェクト報告

昨年度より始めた、日暮里駅のエキキュートと協力して行っているプロジェクト。
まず、初めに谷根千の対象地域を 9 ブロックに分けて、各ブロックを担当する 9 チームを編成した。

(4 年生 2 人・3 年生 2 人・2 年生 3 人)

<u>4 年生</u>	<u>3 年生</u>	<u>2 年生</u>
① 野城、沖浦、	宮本、佐竹、	坂所、村山
② 市島、久保、	下山、玉那覇、	土橋、中嶋、高野
③ 井野口、高野、	原田、阪野、	成富、塚本、坂下
④ 大原、関根、	梶間、福原、	末永、太田（裕）、赤石
⑤ 塚田、松井、	前田、岩田、	小林、藤野、太田（萌）
⑥ 友部、小島、	小林、深尾、	成田、居川
⑦ 平山、松本、	山本、樽谷、	松村、川戸
⑧ 占部、壱岐、	大日方、藤次、	宮越、内野、小杉
⑨ 丹澤、佐藤、	小又、前島、	森、斉藤、鈴木

谷根千の街歩きを行い、四半期ごとにテーマを決め、大学生の視点からテーマに該当する施設等を紹介していく。

【作業手順】

①テーマの設定

基本的にはゼミ生内でテーマの案を出しエキキュート側と協議の上決定する。なお、エキキュートからテーマの提案をうける場合もある。

※例

- ・下町グルメ
- ・雑貨屋

②施設選び

各班、テーマに該当する施設をガイドブックやインターネット検索により、リストアップする。

※読み方、番地、電話番号、閉館時間、料金などの情報もしらべる。

③現地調査・説明資料作成

リストアップした施設に行き、写真撮影・現地調査を行う。そして各施設の説明コメントを考える。

※写真撮影に関する注意事項

- ・全景をとること（施設の一部だけを撮影しても意味がない。）



- ・コメント文に適合した写真をとること
- ・写真のアングルや撮影地点は、他の人の撮った写真を真似ること
- ・通行人の顔が判別できないようにすること
- ・自分たちを入れても構わないが、人物の大きさ、ポーズに注意
- ・逆光写真や暗い写真は不可
- ・斜めに傾いている写真は不可

④投票

現地調査により撮影した写真及びコメントを用い、東洋大学生にプレゼンテーションを行い、投票をしてもらう。（東海林先生のある授業を履修している学生に対して。）

※1位～10位までを選抜する。

⑤原稿提出

投票結果をもとに、1位～10位までの該当施設の写真・コメントを東海林先生に提出。

【新感覚の雑貨屋の例】

3位 らんぷ屋

- ・東京都荒川区西日暮里 3-15-5
- ・谷中銀座にある他のお店とは雰囲気が変わったお店です。手作りのランプを買うこともできますが、実際にランプ作りを体験することもできるお店です。



⑥掲載候補施設に対する連絡調整

掲載施設に対して、エキュート側が、使用する写真&コメントを提示して、文章にて了解を得る。

⑦原稿の完成・提示

★最終的にとりまとめる資料

- ・写真1点（どうしても絞りきれない場合は2点～3点） サイズは1MB以上。
- ・施設情報（施設名、読み、住所、利用可能時間、利用料）
- ・コメント（40字前後。短すぎても、長すぎても不可）
- ・解説文（長めのもの。コメントの妥当性や修正等を考える時の検討資料となる。）
- ・位置図（1位～10位の施設の1枚の地図にマーキング）



日暮里駅にある谷根千 MAP

感想

自分たちが実際に自分の足で谷根千を歩き、そこで見つけた素敵な場所をどうやって紹介したら、たくさんの人に伝わるかを考えるのが難しかった。しかし、それが日暮里駅に掲載され、人々の興味に繋がっていることは、次へのやる気にもつながっていった。

今後もこの活動を続けて、たくさんの地域の方々との関わりも大事にしていきたいと強く思った。

大学生が
調べました！

谷根千調査隊の地域紹介

協力：東洋大学 国際地域学部
国際観光学科(東海林ゼミ)



女子大生がおススメする谷根千の
新感覚・ユニークさの光る 雑貨ショップ・ギャラリー

1位

たわし 亀の子束子 谷中店



世界初のたわし専門店。明治40年から変わらぬ製法・品質を守る亀の子束子西尾商店がプロデュース。カフェのようなおしゃれなショップに、たわしの世界が広がります。

☎ 03-5842-1907
🕒 11:00 ~ 18:00
🗓 月曜日 (祝祭日の場合は翌火曜日)

📍 B-2

2位

えのもとや 榎本屋



谷根千の街並みなどを題材にした、山岡進さんの立体的な絵ハガキ「街並はがき」のお店。「飛び出す絵本」のように切り込みが入っており、外国人観光客にも人気です。

☎ 03-3827-0607
🕒 9:30 ~ 19:00
🗓 不定休

📍 B-2

3位

らんぷ家



オスマントルコ時代に宮殿やモスクなどで使われていたランプの販売・製作体験ができるお店。艶やかでエキゾチックな雰囲気味わうことができます。

☎ 03-5842-1459
🕒 10:00 ~ 20:00 (手作り教室の受付は18時まで)
🗓 なし

📍 B-2

4位

古今東西雑貨店 イリアス



国内外から探し出会った、個性あふれる雑貨のお店。可愛いもの、アーティストもの、キノコや妖怪もの、不思議な空間に迷い込んだような気分を体感できます。

☎ 03-3827-2722
🕒 11:00 ~ 19:00
🗓 水曜日

📍 B-2

5位

織物工房 ル・ポワル Le poilu



織物のおもしろさ、手仕事ならではのぬくもりを大切にしている織物作家のお店。体験教室で気軽に織物の世界を楽しめ、看板犬の「キュウ太」店長も人気。

☎ 03-3823-4008
🕒 11:00 ~ 19:00
🗓 不定休

📍 C-2

6位

ギャラリー 猫町



ギャラリー入口階段の手すりが「猫の形」でユニーク！入館料は無料で、雑貨・絵画・写真など猫をテーマにした作品を展示・販売する、猫専門ギャラリーです。

☎ 03-5815-2293
🕒 11:00 ~ 18:00
🗓 月・火・水 (但し、ギャラリーの入替により不定休あり)

📍 B-2

7位 nido▷ 路地を1本入った隠れ家的な、手作りのステンドグラスのお店。📍 B-2

8位 Ubatama▷ シルクスクリーン版画を使った、オリジナルTシャツのアトリエショップ。📍 A-2

9位 藍と絹のギャラリー▷ 天然藍染めの商品を展示・販売している、谷中の工房・徳元のショールーム。📍 B-1

10位 スギヤマ・アートルームギャラリーショップ▷ 細密ペン画のギャラリー。ペンで細部まで描かれた下町の建物・風景は感動もの。📍 C-2



「谷根千調査隊」とは？

東洋大学(文京区白山)で観光学を学んでいる学生による調査隊。

谷根千まちあるきが大好きでたまらないメンバー約40人が、見どころを発掘！テーマごとに谷根千ならではの魅力をお伝えしていきます。

※選定方法：6チームに分かれ、テーマにあう該当施設をリストアップし、現地調査、施設をセレクト。各チームがセレクトした結果を学内で掲示、人気投票の上位10か所をご紹介します。

阿寒湖畔温泉 マリモに関する調査報告

第Ⅶ章．阿寒湖畔温泉マリモに関する調査報告

1．調査目的及び調査方法

(1)調査目的及びテーマの限定

本調査は、阿寒湖畔温泉の観光客数が年々減少傾向にあることから、阿寒湖畔温泉の観光振興の方策を学生の観点から行ったものである。

テーマを決定するにあたって、まず自分たちが注目したのは「マリモ」である。阿寒湖畔の観光資源について考えたときに、まず頭に浮かんだものがマリモであったため、マリモについて調べてみた。昔はマリモを見るために阿寒湖へ行くと考えられていたが現在の観光客は阿寒湖とマリモを繋げて考えているのか、また、今後阿寒湖とマリモの関係性はどのようにあるべきなのか「阿寒湖とマリモ」に関する調査を行うことにした。

調査を行う前に、自分たちは阿寒湖とマリモにおける問題点を議論した。第一に、マリモに対してのイメージが昔と変わってきているのかどうかという点、第二に、現在のマリモのイメージを踏まえて阿寒湖にとってマリモは貴重な観光資源になりえるのかという点があげられた。

上記のことを踏まえて、阿寒湖畔にとってマリモは今もなお観光資源として魅力的で大きな存在であるのかどうか、現地の人々と観光客との意見の相違があるのではないかと考え、そのズレを検証すべく調査を行った。

(2)調査方法

調査は次のように二つの項目に分けて行った。一つ目は、「阿寒湖のマリモに関するイメージ調査」二つ目は、「阿寒湖のマリモにおける実態調査」である。

① 阿寒湖のマリモに関するイメージ調査

阿寒湖のマリモについて現地で調査をする前に、マリモはこれから観光する可能性のある人たちにとってどれほど関心や認知度があるのかを調べるために行った。ここでこの調査を行った理由は、阿寒湖＝マリモという認識は現在もあり、阿寒湖へ行くという動機の一つになりえるのかと考えたからである。

② 阿寒湖のマリモにおける実態調査

①では旅行する人たちにとってのマリモのイメージ調査であったが、②では実際に現地へ旅行する人たちに対してアンケート調査を行った。

③ 調査の概要

	マリモのイメージ調査	観光客を対象としたマリモのイメージ調査	阿寒湖の売店へマリモ商品の実態調査
目的	若者と大人のマリモに対するイメージの違いを調査	観光客が実際マリモを見てのイメージを調査	観光客と売店とのマリモに対する意識の違いを調査
調査場所	アンケートによる計100サンプル	阿寒湖畔にて計120のサンプル	阿寒湖畔の売店4店舗
調査項目	被験者の属性 マリモに対する認知度 マリモのイメージ	被験者の属性 阿寒への訪問回数及び目的 マリモのイメージ	マリモの商品の実態 観光客を増やすために行っていること 今後の阿寒発展について
調査方法	アンケート調査	アンケート調査	聞き取り調査
実施体制	個人	個人	個人

２．阿寒湖畔温泉とは

まず、今回私たちが調査を行った地区、釧路市阿寒町阿寒湖温泉についての概要を説明する。

① 概要

阿寒湖畔温泉は北海道釧路市阿寒町にある南側に湧き出た温泉であり、遊覧船乗り場を中心に、温泉街が形成されている。道東きっての温泉街でホテル・旅館をはじめ、阿寒の名物料理を提供する飲食店やアイヌ伝統の木彫り技術で制作された彫刻品やアクセサリーを販売するお土産等の関連施設が約 150 軒も建ち並ぶ。西のはずれには観光用のアイヌ部落「アイヌコタン」があり、アイヌの伝統文化も間近で楽しむことができる。

また、温泉街の中心には各ホテル、ビジネスセンター、アイヌコタンなどを結ぶ無料のバスである「まりむ号」が運行されている。阿寒湖畔周辺には『日本百名山』である雌阿寒岳、雄阿寒岳があり登山も楽しめる。また阿寒湖畔東川に位置する阿寒湖畔エコミュージアムセンターでは阿寒の自然、育成する動物や生い立ちなどを学べ、また、水槽には特別天然記念物であるマリモが展示されており、遊覧船でチュウルイ島に上陸する以外の方法でマリモを観察する事ができる。

②歴史

阿寒湖温泉の歴史は古く、安政 5 年(1858)には既にアイヌの人々が利用する温泉になっていた。旅館ができたのは 1912 年（明治 45 年）になってからである。その後、1934 年（昭和 9 年）の阿寒国立公園の指定により、観光拠点として発展していった。

③観光資源

ア. アイヌコタン

阿寒湖のアイヌコタンは、戸数36・約120名と北海道で一番大きなアイヌコタンである。アイヌ生活館では、アイヌ民族の家の中が見学でき、暮らしぶりが伺える。「阿寒湖アイヌシアターイコロ」では祖先から伝承されてきた、伝統あるアイヌ古式舞踊・イオマンテの火まつりを見学することができ、この踊りは北海道唯一の、国の重要無形民俗文化財に指定されている。

また、民芸品や飲食店が並びアイヌ文様を木彫りしたもの全てが手作りであり、アクセサリーや小物が並ぶ。人気商品はアイヌの伝承登場する小人であるコロボックルの木彫り人形である。



▲アイヌシアターイコロ



▲コロボックル 木彫り人形

イ. 温泉

質泉は単純泉、硫黄泉などで源泉温度 50-80℃であり、神経痛、冷え性、疲労回復、リュウマチ、慢性消火器病、痔疾などによいとされている。旅館やホテルのほとんどは湖に面しているため、部屋や露天風呂から阿寒湖の景色が一望できる。

ウ. 食

阿寒湖は豊かな自然に囲まれた阿寒湖では、大地の恵みをそのまま味わうかのような新鮮な野菜や果物を生かした料理を提供している。またヒメマス・ワカサギも阿寒湖原産、郷土料理として提供されている。近年では北海道に生息する阿寒湖産のエゾシカを使用した「阿寒やきどり丼」が阿寒湖温泉ご当地グルメとして人気である。また阿寒湖ならではの「マリモラーメン」は、塩スープに中細麺、マリモを模した海藻の塊がのっており、阿寒名物となっている。



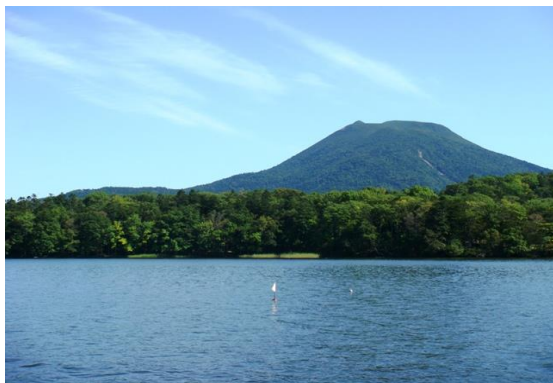
▲マリモラーメン



▲阿寒やきとり丼

エ、自然

阿寒湖は全域が阿寒国立公園に含まれ、道東を代表する観光地となっている。北海道で5番目に大きい淡水湖で周囲はエゾマツ・トドマツなどの亜高山帯針葉樹林、および広葉樹を交えた針広混交林の深い森に覆われている。2005年11月、ラムサール条約登録湿地となった。古阿寒湖はカルデラ湖として誕生し、いったんは外輪山である雌阿寒岳の噴火などによって埋め立てられたが、今から1万年程前に雄阿寒岳（中央火口丘にあたる）の噴火活動によって堰止湖がつくられた。しかし雄阿寒岳は成長を続け湖面を埋めてしまい、古阿寒湖は分断され、現在の阿寒湖、そして東にあるペンケトー、パンケトーが誕生した。



▲雄阿寒岳



▲雌阿寒岳

オ、レジャー

阿寒湖畔では、遊覧船でチュウライ島に渡り自然の状態のマリモを見ることが出来る。ニジマス、イトウ、イwana、アメマス、コイなどを対象としたスポーツフィッシングのメッカの一つとしても有名で、冬季には、結氷した湖面に穴を開けてのワカサギ釣り、雄大な自然を眺めながらスキーやスノーボードで一面雪に覆われた白銀の世界を楽しむことができる。夏は、大自然の中を散策したり、登山、スポーツフィッシングやカヌーでアウトドアを満喫できる。



▲遊覧船



▲カヌー

(3)調査結果

①マリモに対する意識調査

ア、被験者の属性

大学生 109 人、社会人 9 人の計 118 人

イ、調査目的

学生と社会人のマリモに対するイメージの違いを知る

ウ、アンケートの概要

以下のアンケート項目に沿って、紙媒体でアンケート調査を行った。

阿寒湖のマリモに関するアンケート

東洋大学東海林ゼミ

1 性別、年齢、出身地、職業を教えてください

性別 ()

年齢 () 歳

住所 () ※道外の方は都道府県で道内の人は市名をお願いします

職業 ()

2 阿寒湖へ行ったことがありますか？

①ある ②ない

3 マリモのイメージについて教えてください

かわいらしさ かわいい ややかわいい どちらでもない ややかわいくない かわいくない

|-----|-----|-----|-----|

神秘的 神秘的 やや神秘的 どちらでもない やや神秘的でない 神秘的でない

|-----|-----|-----|-----|

自然的 やや自然的 どちらでもない やや自然的でない 自然的でない

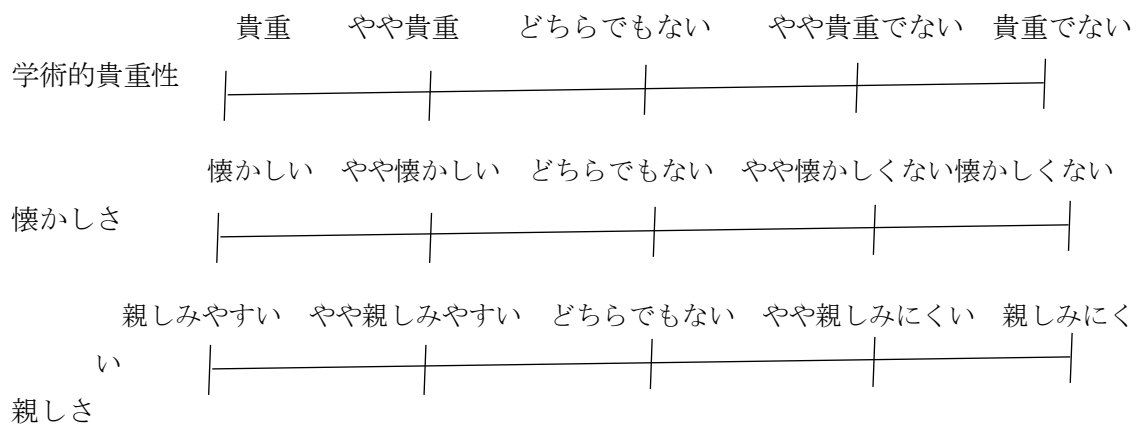
|-----|-----|-----|-----|

珍しい やや珍しい どちらでもない やや珍しくない 珍しくない

|-----|-----|-----|-----|

キレイ ややキレイ どちらでもない やや汚い 汚い

|-----|-----|-----|-----|



4 阿寒湖へ訪れたいと思いますか？

- ①はい ②いいえ

ご協力ありがとうございました。

エ、アンケート結果

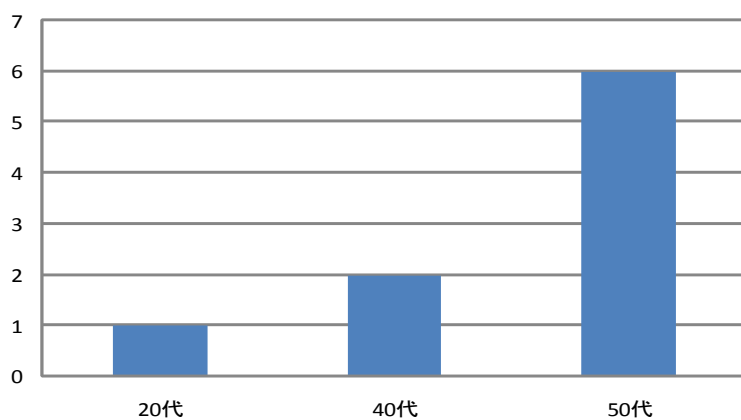
i) 被験者の性別割合

男	女
32人	86人

このうち学生は 109 人である。

社会人の被験者があまり集まらなかったことが反省点である。

ii) 社会人の年代割合



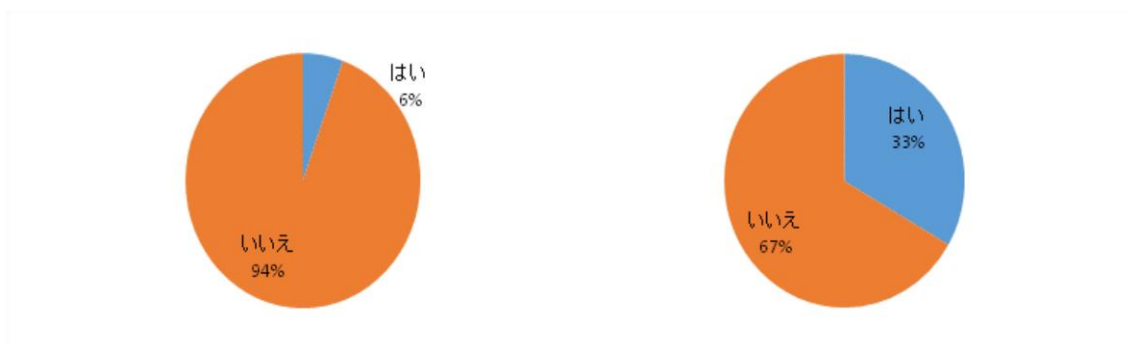
iii) 阿寒湖へ行ったことがあるかの有無

<学生結果>

はい	6
いいえ	13

<社会人結果>

はい	3
いいえ	6



学生と社会人で大きな差が出た。やはり、学生は予想通り行ったことがある人がほとんどいなかった。

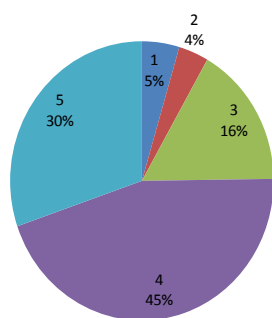
iv) マリモに対する意識調査

学生と社会人のマリモに対する意識の差を知るために、マリモに対する各イメージを5段階評価で調査した。

かわいらしさ

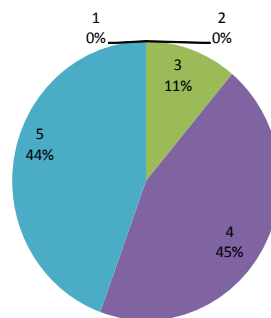
＜学生結果＞

1、かわいくない	5人
2、ややかわいくない	4人
3、どちらでもない	18人
4、ややかわいい	49人
5、かわいい	33人



＜社会人結果＞

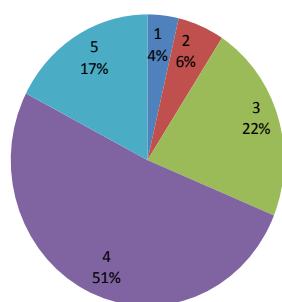
1、かわいくない	0人
2、ややかわいくない	0人
3、どちらでもない	1人
4、ややかわいい	4人
5、かわいい	4人



神秘性

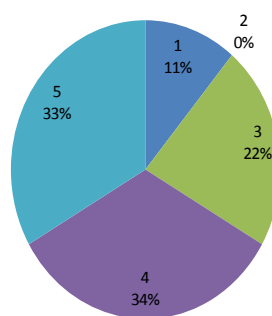
＜学生結果＞

1、神秘的でない	4人
2、やや神秘的でない	6人
3、どちらでもない	24人
4、やや神秘的	56人
5、神秘的	19人



＜社会人結果＞

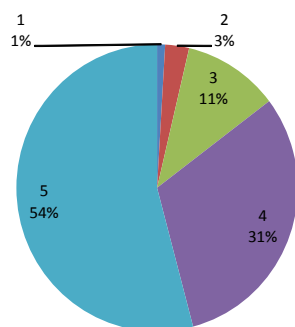
1、神秘的でない	1人
2、やや神秘的でない	0人
3、どちらでもない	2人
4、やや神秘的	3人
5、神秘的	3人



自然性

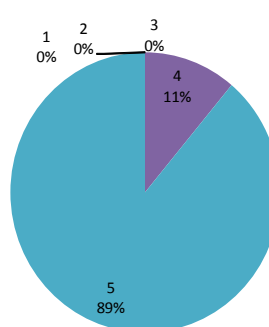
<学生結果>

1、自然的でない	1人
2、やや自然的でない	3人
3、どちらでもない	12人
4、やや自然的	34人
5、自然的	59人



<社会人結果>

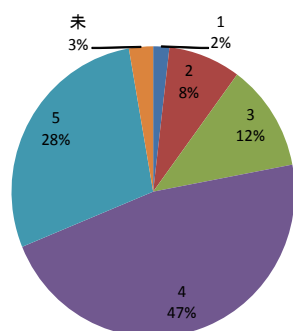
1、自然的でない	0人
2、やや自然的でない	0人
3、どちらでもない	0人
4、やや自然的	1人
5、自然的	8人



珍奇性

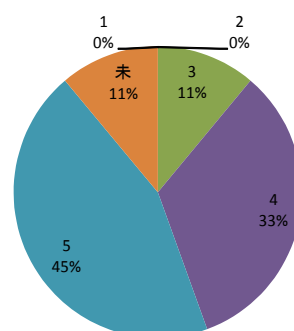
<学生結果>

1、珍しくない	2人
2、やや珍しくない	9人
3、どちらでもない	13人
4、やや珍しい	51人
5、珍しい	31人
未回答	3人



<社会人結果>

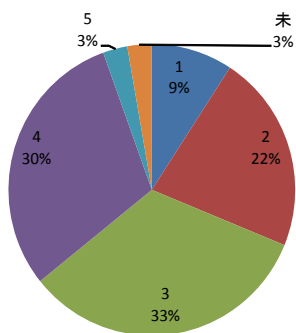
1、珍しくない	0人
2、やや珍しくない	0人
3、どちらでもない	1人
4、やや珍しい	3人
5、珍しい	4人
未回答	1人



美しさ

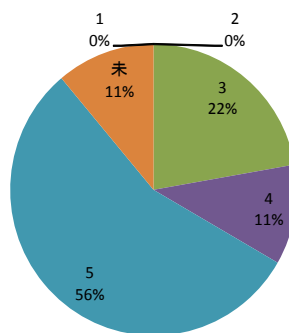
<学生結果>

1、汚い	10人
2、やや汚い	24人
3、どちらでもない	36人
4、やや美しい	33人
5、美しい	3人
未回答	3人



<社会人結果>

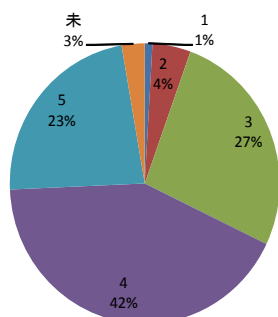
1、汚い	0人
2、やや汚い	0人
3、どちらでもない	2人
4、やや美しい	1人
5、美しい	5人
未回答	1人



学術的貴重性

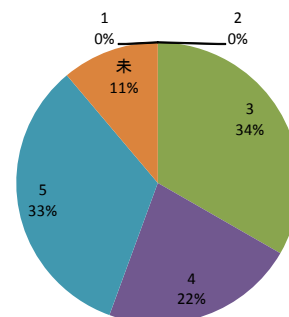
<学生結果>

1、貴重でない	1人
2、やや貴重でない	5人
3、どちらでもない	29人
4、やや貴重	46人
5、貴重	25人
未回答	3人



<社会人結果>

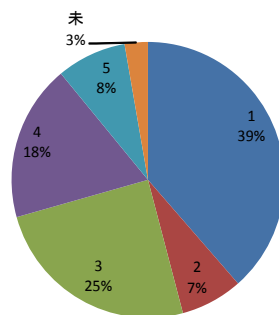
1、貴重でない	0人
2、やや貴重でない	0人
3、どちらでもない	3人
4、やや貴重	2人
5、貴重	3人
未回答	1人



懐かしさ

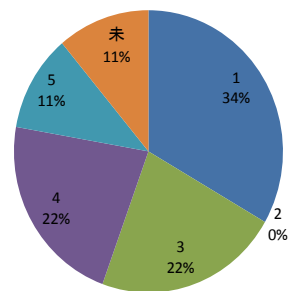
<学生結果>

1、懐かしくない	42人
2、やや懐かしくない	8人
3、どちらでもない	27人
4、やや懐かしい	20人
5、懐かしい	9人
未回答	3人



<社会人結果>

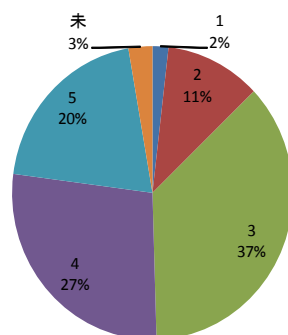
1、懐かしくない	3人
2、やや懐かしくない	0人
3、どちらでもない	2人
4、やや懐かしい	2人
5、懐かしい	1人
未回答	1人



親近性

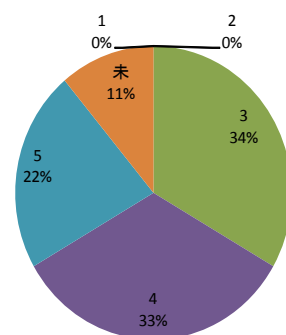
<学生結果>

1、親しみにくい	2人
2、やや親しみにくい	12人
3、どちらでもない	40人
4、やや親しみやすい	30人
5、親しみやすい	22人
未回答	3人



<社会人結果>

1、親しみにくい	0人
2、やや親しみにくい	0人
3、どちらでもない	3人
4、やや親しみやすい	3人
5、親しみやすい	2人
未回答	1人



年代での特質した変化はほとんどなかった。全体的に高評価だったのは社会人であり、特に自然性、美しさが高評価であった。

V)阿寒湖へ行きたいかどうか

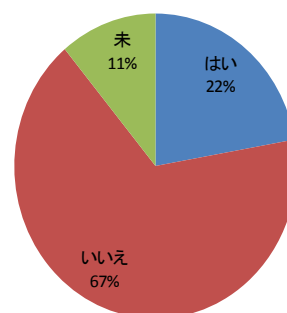
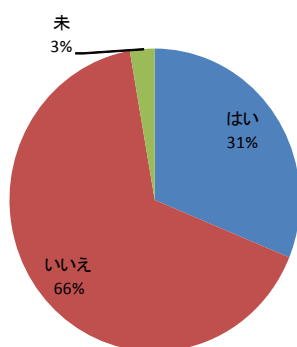
上記のアンケートの最後に、阿寒湖へ行ってみたいかどうか調査を行った。

<学生結果>

はい	34人
いいえ	72人
未回答	3人

<社会人結果>

はい	2人
いいえ	6人
未回答	1人



学生、社会人共に阿寒湖へ行きたいと思っている人は少なかった。

オ、まとめ

今回の事前調査ではマリモに関する質問を立て続けにしてきた。私たちが予想していたよりもマリモに好印象を持っている人が多く、年代の差が顕著に現れなかった。学生も幼いころにまりもっこりが流行ったり、栽培キットが家にあったりと身近に感じていたのだと考える。しかし最後の「阿寒湖へ行きたいか」の問いに、はいと答えた人の方が少なかった。マリモに対しての好イメージが阿寒湖への関心にはつながらないといえる。マリモ目当てに阿寒湖へ観光に行く時代は過ぎたのだろう。では、阿寒湖の観光客を増やすためにどうしたらいいのかを現地地調査であきらかにしたいと考えた。

②現地調査

現地調査は、観光客と売店の、二つに分けて行った。

まず、観光客を対象に行った調査から報告、考察していく。

(1) 観光客を対象とした現地調査

ア. 被験者の属性

10代前後～80代の計100名。

イ. 調査目的

- ・阿寒湖においての観光客が思うマリモのイメージは。
- ・マリモは阿寒湖畔において今もなお重要な観光資源であるのか。
- ・マリモが観光客誘致に役立っているのか。
- ・阿寒湖畔においての今後のマリモの立ち位置は。

ウ. アンケート概要

以下のアンケート項目に沿って、紙媒体でアンケート調査を行った。

阿寒湖のマリモに関するアンケート

東洋大学 東海林ゼミ

1. 性別、年齢、出身地、職業を教えてください。

性別 ()

年齢 ()

住所 () ※道外の方は都道府県で道内の人は市名でお願いします

職業 ()

2. 阿寒湖へは今回で何回目の訪問ですか？

①初めて ②2~3 回目 ③4 回目以上

3. 阿寒湖へ来た主な目的はなんですか？※該当するものすべてに丸印をつけてください

①食 ②温泉 ③マリモ ④観光 ⑤買い物 ⑥アイヌ文化
⑦自然体験（カヌー、登山など） ⑧帰省 ⑨その他 ()

4. マリモについてどこまで知っていますか？

①よく知っている（生態や特別天然記念物であること）

- ②やや知っている（名前や見た目まで知っている）
 ③少し知っている（聞いたことはあるが色や形が分からない）
 ④全く知らない（名前も聞いたことがなかった）

5. マリモの実物を見たことがありますか？

- ①はい ②いいえ

上記で①はいと答えた方はいつどこで見ましたか？

いつ（ ）

どこで（ ）

6. 今回の旅行でマリモに関するお土産を買う予定はありますか？

- ①はい ②いいえ

7. マリモのイメージについて教えてください

かわいらしさ	かわいい	ややかわいい	どちらでもない	ややかわいくない	かわいくない
神秘的	神秘的	やや神秘的	どちらでもない	やや神秘的でない	神秘的でない
自然的	自然的	やや自然的	どちらでもない	やや自然的でない	自然的でない
珍しさ	珍しい	やや珍しい	どちらでもない	やや珍しくない	珍しくない
キレイさ	キレイ	ややキレイ	どちらでもない	やや汚い	汚い
学術的貴重さ	貴重	やや貴重	どちらでもない	やや貴重でない	貴重でない
懐かしさ	懐かしい	やや懐かしい	どちらでもない	やや懐かしくない	懐かしくない
親しさ	親しみやすい	やや親しみやすい	どちらでもない	やや親しみにくい	親しみにくい

8. 阿寒湖畔の観光地としての魅力に占める「マリモの割合」はどれぐらいだと思いますか。

- ① 非常に大きい ② 半分ぐらい ③ 1/3～1/4 ぐらい ④ ほとんどない

9. 阿寒湖畔の観光産業に与える「マリモのもたらす経済効果」はどれぐらいだと思いますか。

- ① 非常に大きい効果がある ② 大きい効果がある ③ やや効果がある ④ 効果はほとんどない

10. また阿寒湖へ訪れたいと思いますか？

- ① はい ② いいえ

ご協力ありがとうございました。

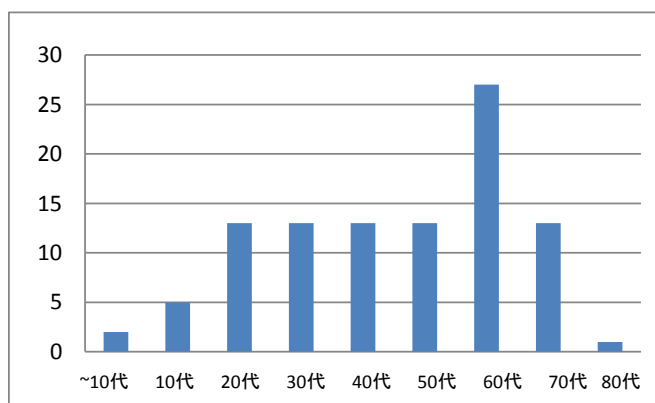
エ. アンケート結果

1) 被験者の属性

まず、年齢層を30歳未満と30歳以上の2つのグループに分けて結果を分析した。これは事前調査とのマリモに対してのイメージの比較を行いやすくなったものである。

～29歳	20人
30歳～	80人

・年代別グラフ

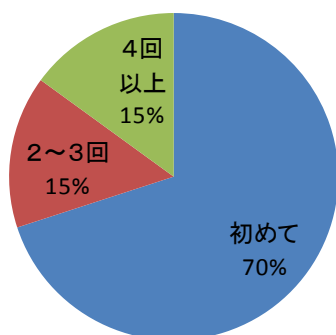


この数値を見ても分かるように、阿寒湖にはやはり若い人よりも年配の方が多い。

2) 阿寒湖へ何回目の訪問か

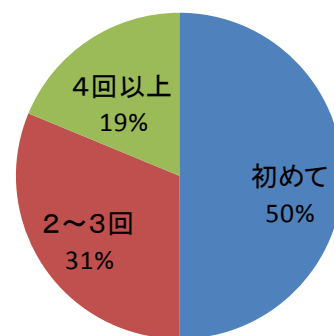
～29歳 結果

初めて	14人
2～3回	3人
4回以上	3人



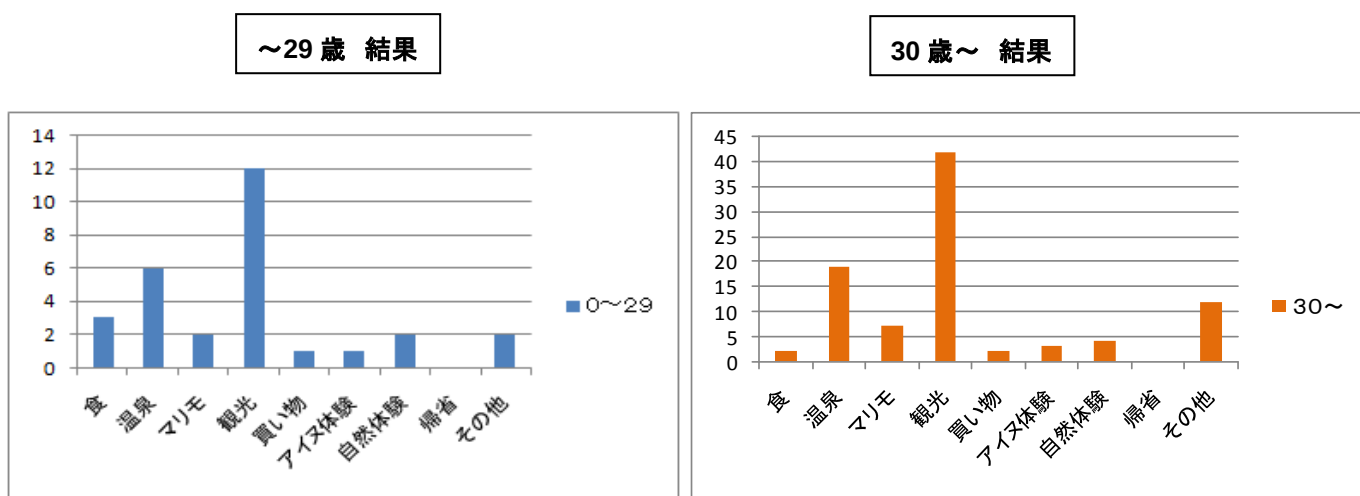
30歳～ 結果

初めて	40人
2～3回	25人
4回以上	15人



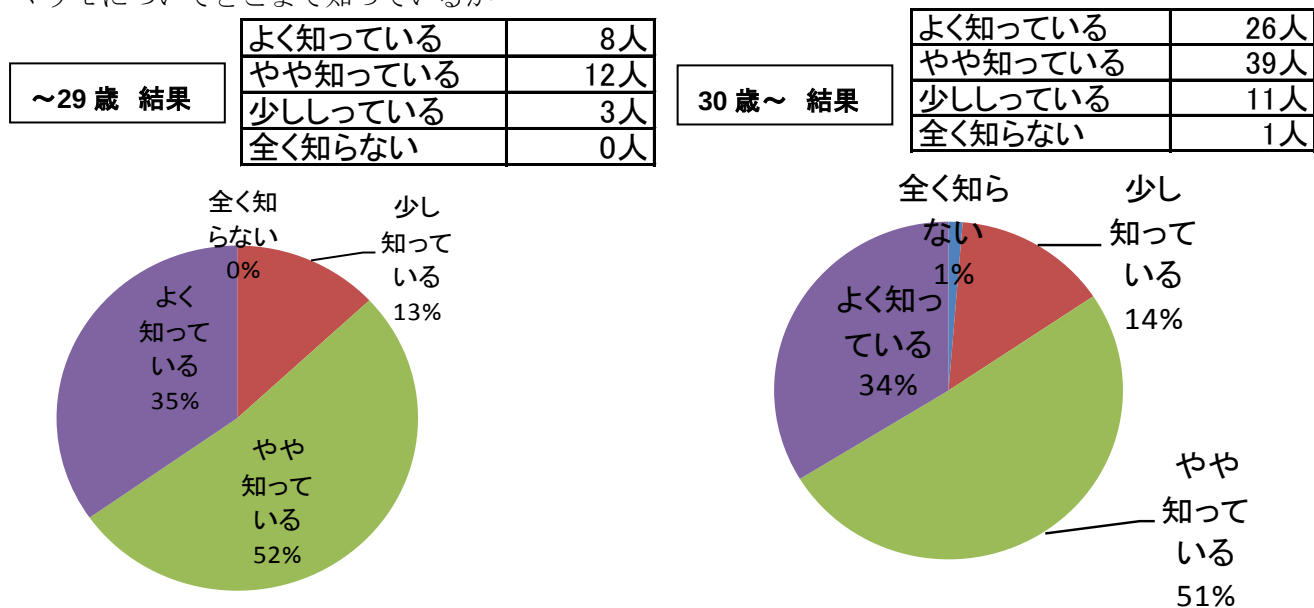
全体的に初めての訪問という人が多く、30歳を超えると複数回訪れている人数が増えている。やはり若い観光客が少ないことが伺える。

3) 阿寒湖へ来た目的



観光を目的として阿寒湖へ訪れている人が最も多く、次は温泉を目的にしている人が多い。
このグラフからマリモを目的としている人はごくわずかであるということが分かる。

4) マリモについてどこまで知っているか

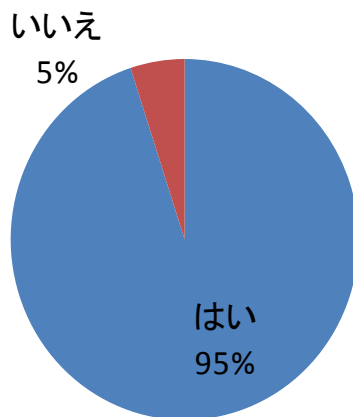


年齢に関係なく両世代ともに、9割近くの人がマリモについて知っていると答えた。これはマリモの認知度が高いということである。

5) マリモの実物を見たことがあるか

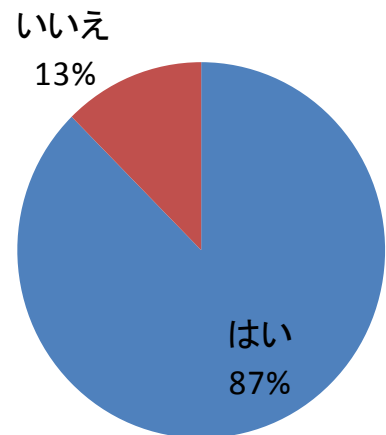
～29 歳 結果

はい	19人
いいえ	1人



30 歳～ 結果

はい	70人
いいえ	10人

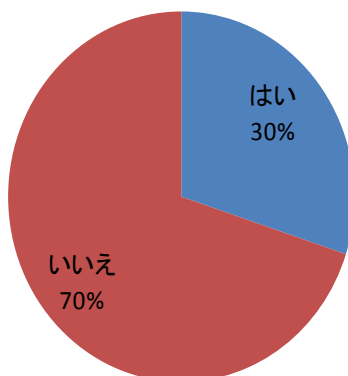


ほとんどの人が見たことがあると答えた。どこで見たのかという質問にほとんどの人が「この旅行中にお土産屋さんで見た」と答えた。このことから阿寒湖は現在もマリモを押しているという事が分かる。

6) マリモに関するお土産の購入予定

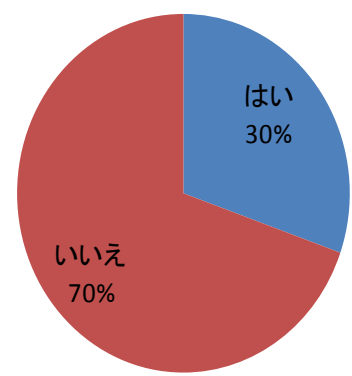
～29 歳 結果

はい	6人
いいえ	24人



30 歳～ 結果

はい	14人
いいえ	55人



買う予定がないと答える人がほとんどであった。

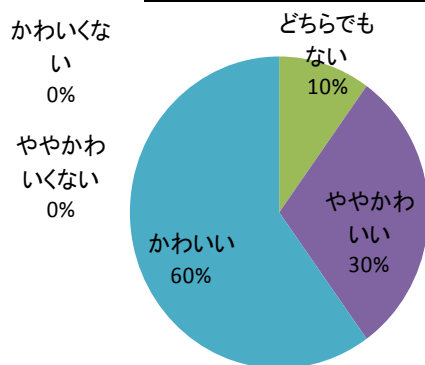
7)マリモに対するイメージ調査

事前調査（学生と社会人に対する）と現地とでは意識の差が生まれるかどうかを知るために、マリモに対する各イメージを5段階評価で調査をした。

かわいらしさ

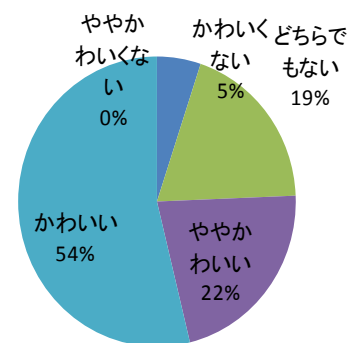
～29 歳 結果

かわいい	12人
ややかわいい	6人
どちらでもない	2人
ややかわいくない	0人
かわいくない	0人



30 歳～ 結果

かわいい	42人
ややかわいい	17人
どちらでもない	15人
ややかわいくない	0人
かわいくない	4人

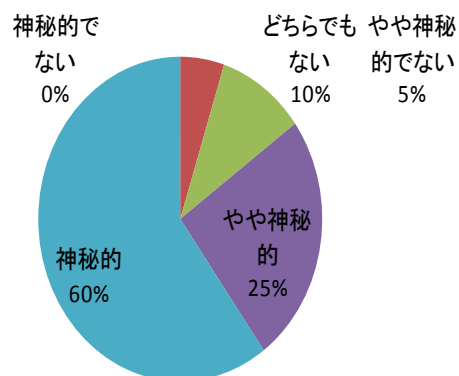


事前調査と同様、マリモは人々にかわいいという印象を与えていることが分かる。

神秘性

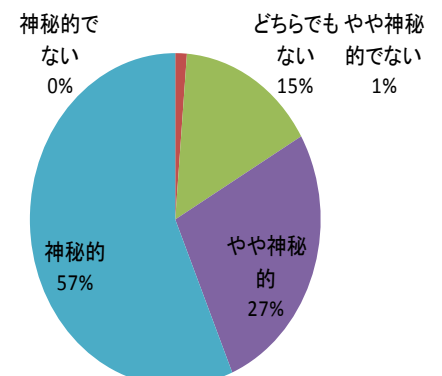
～29 歳 結果

神秘的	12人
やや神秘的	5人
どちらでもない	2人
やや神秘的でない	1人
神秘的でない	0人



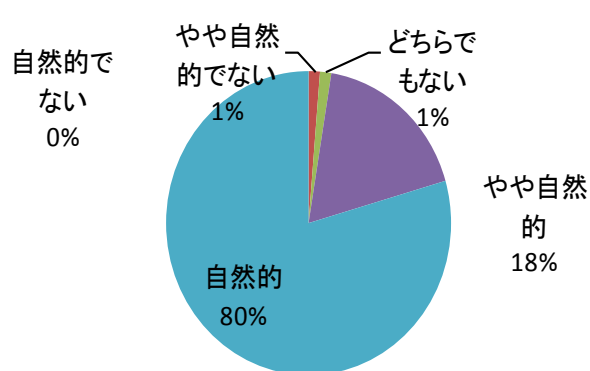
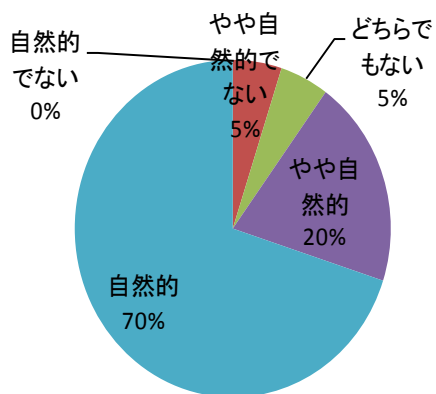
30 歳～ 結果

神秘的	44人
やや神秘的	21人
どちらでもない	12人
やや神秘的でない	1人
神秘的でない	0人



事前調査では学生、社会人ともに「神秘性」というイメージは強く持っていなかったが、現地調査結果では神秘性を強く感じている人が多い。これは実際に目で見ているからであろう。

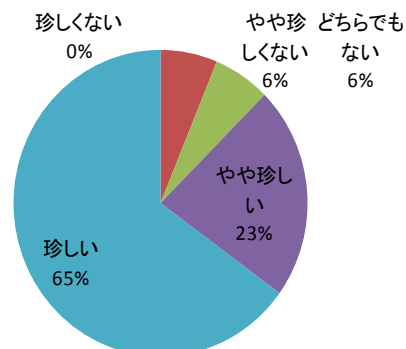
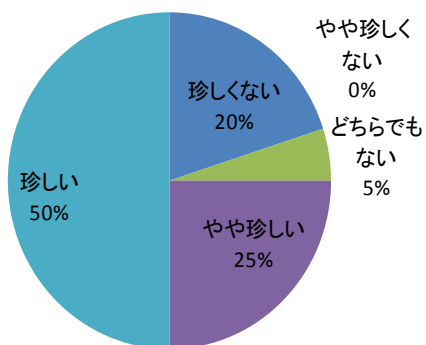
自然性	～29 歳 結果	自然的	14人	30 歳～ 結果	自然的	62人
		やや自然的	4人		やや自然的	14人
		どちらでもない	1人		どちらでもない	1人
		やや自然的ではない	1人		やや自然的ではない	1人
		自然的ではない	0人		自然的ではない	0人



これは事前調査同様にマリモに対して自然性が高いと考える人が多いことが分かる。

珍奇性

～29 歳 結果	珍しい	10人	30 歳～ 結果	珍しい	52人
	やや珍しい	5人		やや珍しい	18人
	どちらでもない	1人		どちらでもない	5人
	やや珍しくない	0人		やや珍しくない	5人
	珍しくない	4人		珍しくない	0人

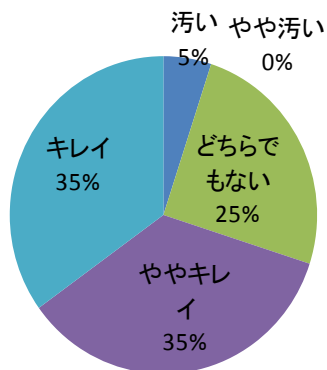


先ほどの「マリモを見たことがあるか」という問いで、見たことがあると答えた人が大多数であったにも関わらず、ほとんどの人が珍しいと回答した。これはマリモが阿寒湖で見られない希少性のあるものと認識できる。

キレイさ

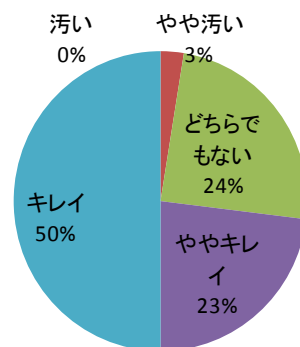
～29 歳 結果

キレイ	7人
ややキレイ	7人
どちらでもない	5人
やや汚い	0人
汚い	1人



30 歳～ 結果

キレイ	39人
ややキレイ	18人
どちらでもない	19人
やや汚い	2人
汚い	0人

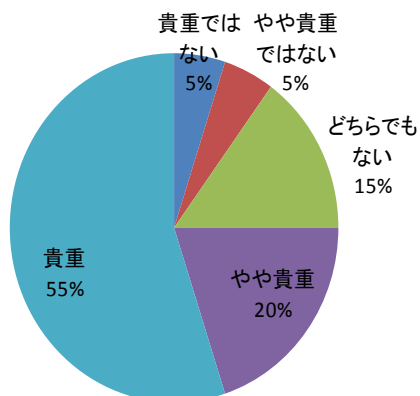


事前では学生で「汚い」と回答している人が数人いたが、現地調査ではほぼすべての人がキレイな印象を持っていることが分かる。

学術的貴重性

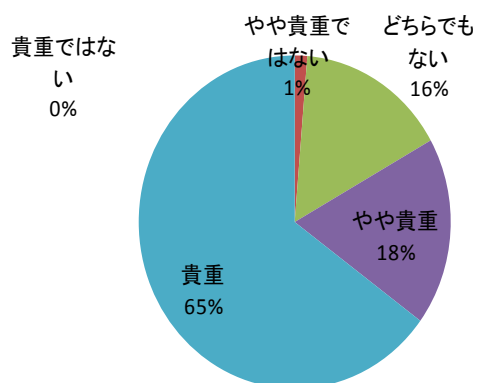
～29 歳 結果

貴重	11人
やや貴重	4人
どちらでもない	3人
やや貴重ではない	1人
貴重ではない	1人



30 歳～ 結果

貴重	50人
やや貴重	14人
どちらでもない	12人
やや貴重ではない	1人
貴重ではない	0人

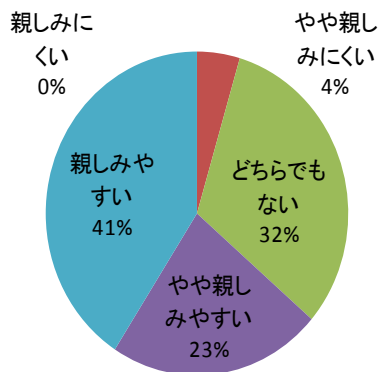


事前と同様、年齢問わず学術的貴重性があると答えた人が8割を占めている。

親しみやすさ

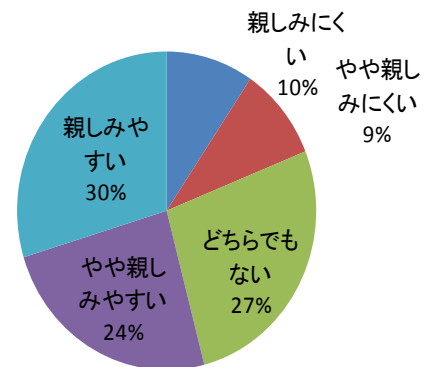
～29 歳 結果

親しみやすい	9人
やや親しみやすい	5人
どちらでもない	7人
やや親しみにくい	1人
親しみにくい	0人



30 歳～ 結果

親しみやすい	22人
やや親しみやすい	18人
どちらでもない	20人
やや親しみにくい	7人
親しみにくい	7人

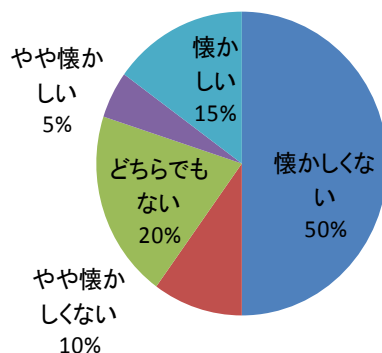


事前と同様に親しみやすいと答えている人が半数以上であった。現地調査の場合は「まりもっこり」などのキャラクターが身近にあったためそのように感じる人が多いと考えたが、現地調査の場合はその場で実際に目で見ているからであろう。

懐かしさ

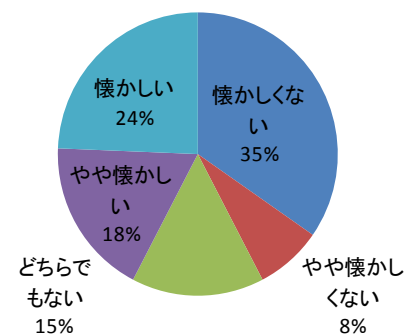
～29 歳 結果

懐かしい	3人
やや懐かしい	1人
どちらでもない	4人
やや懐かしくない	2人
懐かしくない	10人



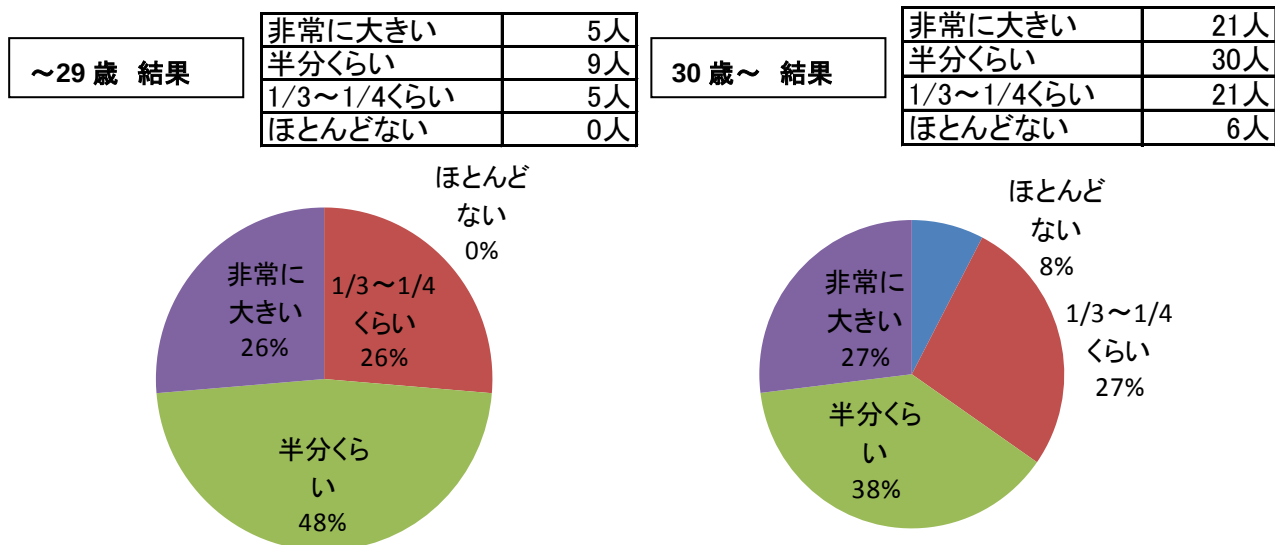
30 歳～ 結果

懐かしい	19人
やや懐かしい	14人
どちらでもない	12人
やや懐かしくない	6人
懐かしくない	27人



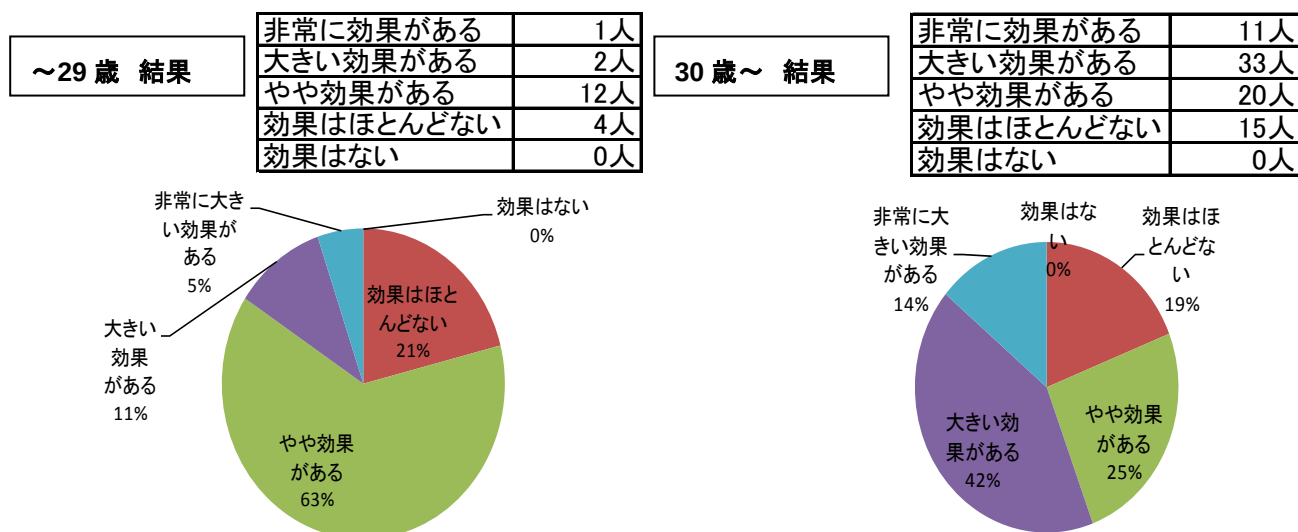
懐かしくないと感じている人が多いと分かる。

8) マリモが観光資源として考えられている割合



阿寒湖はマリモ以外の他の観光資源も多数ある中で、マリモが観光資源として考えられている割合が高いことが分かる。マリモを目的にして阿寒湖へ訪れている人は少ないにも関わらずこのような結果となったのは、現在も「阿寒湖＝マリモ」というイメージが根付いていることが読み取れる。

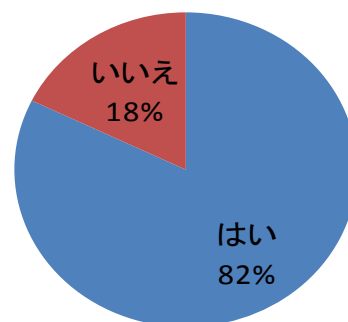
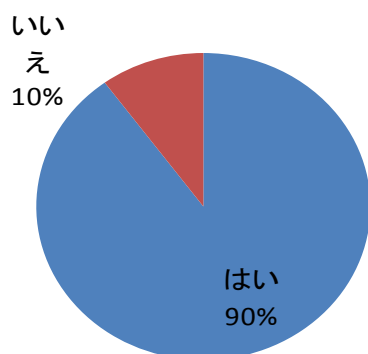
9) マリモのもたらす経済効果



年齢にかかわらず、経済効果が高いと考えている人が大多数であることが分かる。しかし、前の項目「マリモに関するお土産の購入予定」についてはほとんどの人が購入する気がないと答えていた。これはおそらく、自身の購入意欲とは関係なく、マリモ関連商品がどの店舗にも並んでいたため経済効果があると思う人が多いのだろう。

10) また阿寒湖へ訪れたいと思うか

～29 歳 結果	はい	18人	30 歳～ 結果	はい	65人
	いいえ	2人		いいえ	14人



ほとんどの人がまた訪れたいと答えている。しかし、30代以上で「いいえ」と回答した人が数名いるが、何故訪れたいと思わないのか、理由を書く欄を設けていなかったことが反省点である。

オ. まとめ

現地の方がマリモに対するイメージがさらに良いという事が分かった。

実際に目で見ているという事も挙げられるが、売店で商品として整えられたマリモを目にすることがほとんどであると考えられるので、そのような結果になったのである。

また、阿寒湖にとって、マリモは有力な観光資源であり、経済効果も大きいと観光客には考えられている。

しかし、それがマリモの購入意欲と観光目的とは結びつかないという事が、この観光客を対象としたアンケート調査で分かった事である。

(2) 売店での聞き取り調査

ア. 売店概要

阿寒湖畔温泉街に並ぶお土産屋さん4店舗に聞き取り調査を行った。

イ. 目的

観光客を対象としたアンケートと同様の目的。

さらに観光客との意識の差を図るため。

ウ. 調査内容（口頭で質問）

1. マリモの商品の実態
2. 観光客を増やすために行っていること
3. 今後の阿寒湖の発展についてどう考えているか

エ. 調査予測

- ・観光客が考えている以上に売り手はマリモを押している
- ・マリモ商品の売り上げは年々落ちている。

オ. 調査結果

1. マリモの商品実態について

マリモが売り上げに占める割合は大きい。

かつてのピーク時に比べたら多少の変動はあるが、今も変わらずマリモの関連商品は売れ続けている。

2・観光客を増やすために行っている工夫

お客さんに商品に手が届きやすいようにとネット販売を行ったり、また店舗でのクラフト体験。これは家族連れに人気がある。また、外国人のお客さんのために他言語の説明書きを用意するなどの工夫を行っている。

3. 今後の阿寒湖の発展についてどう考えているか

阿寒湖にはマリモはもちろんのこと、それ以外にも自然、アイヌそれぞれの良さがあるので、それを伝えていきたいとのこと。また、マリモを自然の中で観察することができれば、より観光客が増えるのではないだろうかと考えている。

カ．まとめ

現在でもどこの店舗もマリモの商品を店頭に出している。しかし、現状ではマリモよりもアイヌ木彫り商品の方がメイン商品になってきている。

売店側はメディア露出がマリモ再ブームへの近道であると考えている。マリモだけではなく、他の魅力も発信していきたいと考える。このようなことが、売店調査を通して分かった。

(4)全体のまとめ

今回私たちは、阿寒湖畔においてマリモが持つ観光資源としての魅力は現在もなお有力なものであるか、その疑問に伴い、観光客になりえる人たちと阿寒湖へ来ている観光客に対してマリモのイメージ調査を行った。

まず、事前調査で大学生と社会人のマリモに対するイメージの違いを調査した結果、あまり大差がないという結果が出た。つまりマリモに対するイメージは過去と現在とでは大きく変わっていないということが分かる。しかし、阿寒湖へ訪れたいかという質問に対して大学生も社会人も60%もの人がいいえと答えているので、マリモのイメージが阿寒湖へ訪れることへ直結してはいないのではないかとということが事前調査を通して考えられた。

次に現地調査アンケートでは、観光客と売店を対象に調査を行った。まず観光客が阿寒湖へ訪れる目的については、多くの人が観光、温泉と答えていてマリモと答えていたのは少数であった。また、マリモのイメージ調査を行ったところ、事前調査の時よりもマリモのイメージが良いという結果になり、これは現地でマリモを見たことによりイメージアップができたのではないかと考える。

「マリモは今後も観光資源として考えられるか」「マリモのもたらす経済効果は大きいか」という質問をしたところ、過半数の人が考えられる、経済効果が大きいと答えていたが、そう答えていた人たちも「マリモの購入予定」を質問したところ、70%の人がいいえと答えた。これはマリモのイメージが購入意欲に繋がっていない、ということが分かる。

次に現地の売店に聞き取り調査を行ったところ、マリモが売り上げに占める割合は大きい、今後もマリモは阿寒湖の観光資源として大きく貢献する。という答えが返ってきたが、ここに観光客と販売側に考え方の違いがあるということも分かった。

上記の事から、阿寒湖では今後のマリモに対する考え方を変えた方がよいのではないだろうか。イメージは悪くないのに購入意欲に繋がらないということは、マリモは観光資源としては有力ではあるがお土産としての価値は頭打ちになっていると考えられる。今後はエコツーリズムやアイヌ文化などの他の観光資源を押し出し、マリモは付加価値であると考えた方が観光客誘致に繋がるのではないか。

一年間の活動を通して ゼミ生感想

第Ⅷ章. 一年間の活動を通して ゼミ生感想

(1) 3年生

宮本青佳

白山まつり、下町まつりの出店を通して、想像の何倍も大変だったということが一番の感想です。自分は広報班として携わりましたが、Tシャツのコンセプト案や、ホームページの広告力、看板の配置や伝え方など、1つ1つの小さな努力が大きな利益を生み出すことを学びました。また、二日間カルメ焼きの担当をして、実演することにより集客効果を生み出すこと、会話による地域とのコミュニケーション両方を得ました。

佐竹初枝

4月からゼミ活動が始まり、ゼミ合宿や出店事業、谷根千調査隊など多くの行事を経験しました。その中で最も印象に残っている行事が、白山まつりと下町まつりの出店事業です。今まではモノを買う側から、初めてモノを売る側の立場で物事を見るようになり、「モノを売る難しさ」を初めて経験しました。天候によって生産量を変え、「常に買ってくださいお客様のことを考えながらモノを売る」ということが今までにない経験でした。そして「常に工夫できることがあるかどうか模索し、臨機応変に対応する」との先生のご指導のもと、困難に直面しても、「実際にやってみる」という大切さを今回の出店事業や準備段階を通じて学びました。また、チームワークが何事においても重要であることを改めて実感しました。

下山さやか

エキュートの谷根千調査では、新たに発見したお店をいかにたくさんの方に伝えられるかを考える良いきっかけとなりました。

私は、祭りの出店事業を通じて客観的に物事を考える大切さを学びました。私の担当した広報班の作業と当日の会計の仕事は通ずるところがあり、主観的な考えだけでなくお客様の立場や遠くから見て物事を考えることがいかに大切であるか身をもって体感しました。親切だと思いお店の前に立って呼び込みをしても、お店で何をやっているのかを自分自身で隠してしまうということもありました。当たり前のようなことですが、目の前のことに必死になるのではなく、常に客観的に物事を考える難しさと大切さを痛感しました。

玉那覇麻鈴

下町まつりを通して、地域の人と多く関わり、あたたかさや親切さを感じることができたと思います。おもち、カルメ焼きを販売している際に、毎年東海林ゼミの出店を楽しみに

しているとの声を聞くことがあったり、体調を崩し、マスク姿で出店準備中にお隣に出店している方に労いの言葉をかけてもらったりしました。現在、一人暮らしをされていて地域との関わりが少なくなったので、お祭りでふれあえて良かったです。

原田美咲

おまつり当日、私はお餅のパッキング係でした。売れ行きによって変動する在庫を常に確認し、味付け係に足りない在庫を伝え作ってもらうことで、安定した販売に繋がるようにしました。予測と在庫の現状把握をすることは、今後の人生において何事にも活用できると実感しました。また調査班としては利用実態調査を実施し、2年生を率いる立場として事前準備をしました。アンケート調査やカウント調査の結果から多角的に情報を読み取ることに苦戦しましたが、谷根千の地域のこと以外にも様々な事を学びました。これらの経験を来年以降のゼミ活動に活かし、また2年生に伝えていきたいです。

阪野悠紀子

今回総務班として活動させていただき白山・下町祭りの運営に携わりました。この活動の中で1番学んだ事は諦める勇気だと思いました。前の代とは違い出店内容も目的も違ってこれもできるあれもできるこんなこともどうかと模索することに必死で「やりたい事」いっぱいでしたが「出来る事」は限られていて諦める事でその時「出来た事」に時間を割けたと思います。その時間で後半に集中したお餅の販売計画をもっと余裕をもって行い、白山・下町祭りで起きたミスの減少に繋がらなかったのではないかと反省しました。しかし、時間がなくなってしまった中で総務班のメンバーと自らの頭をフル回転させて悩みながら頑張った記憶は短期間でこれだけのことが出来るんだという自信にもなり、貴重な経験になりました。

前田雅哉

東海林ゼミの活動を通して様々な体験をすることが出来たことで、自分で体験するという事の大切さを感じることができました。阿寒湖の合宿では登山やカヌーの大切さを全身で学び、2つのお祭りでは屋台で商品売るためにどれだけの練習、準備が必要なのかを学びました。その他にも谷根千調査隊や広報班でのTシャツ作成など通常の講義では経験できないようなことに取り組みました。ゼミ生のみんなと楽しみながらこのような活動が出来た事が一番の思い出です。これからの活動もお互いに切磋琢磨しながら楽しく取り組んでいけたらと思います。

岩田万由

私はこの1年間のゼミ活動を通して多くのことを学ぶことが出来ました。例えばお祭りに出店する時も単に学祭に出店するような考え方で、出店すること自体が楽しければ良いの

ではないことを学びました。お客さんの立場に立って考えることの大切さを知りました。出店するまでにいろいろバタバタしていましたが、何とか成功したのが嬉しかったです。また谷根千調査隊の活動は谷根千の地域を身近に感じる事が出来る良い機会であったと思います。来年も継続して行うプロジェクトなのでこれからも頑張っていきたいと思いました。

梶間春香

1年間のゼミ活動を通じて1番印象に残っているのは、やはり班としての活動の下町まつりでの様々な利用実態調査です。この活動からアンケートを1から作成し実施することの大変さ、アンケート結果を集計し分析することの難しさを学びました。また調査を行うにあたり実行委員会の方や地域住民の方との関わり合いの大切さも学びました。今回の調査では今までの自分では経験のできないようなことがたくさんあり、とても良い経験になりました。来年1年間のゼミ活動は、今年多く見つかった反省点を生かし、より良い充実したゼミ活動を行っていったらいいなと思っています。

福原由実

ゼミ活動で白山祭りや根津千駄木下町祭りに参加させて頂きました。とても有意義な時間をゼミのみなさんと過ごすことが出来ました。この一年間で私が学んだ一番大事なことは、問題解決力です。お祭りの準備段階からさまざまな壁に直面しましたが、一回落ち着いて冷静に脳裏を整理すれば新しい道が開き、工夫すればどんな困難にも立ち向かえると学びました。その積み重ねがあったからこそ、お祭り当日の成功に繋がったと思います。ゼミで経験したことを忘れずこれからの生活にも活かしていきたいです。

小林 知世

私は根津・千駄木下町まつりを通して、事前準備の大切さを学びました。ゼミ活動が始まった当初はお祭りのイメージがあまり出来なかったが、事前練習などで当日と同じ流れを確認することによって何が十分でないかがわかるとともに、本番のイメージをつかむことができました。また、調査班としては工夫することの大切さを学びました。集計作業ひとつにおいても工夫することにより短時間で済ませ、残りの時間を考察の時間に充てることができました。今後もゼミ活動で学んできたことを活かしていきたいです。

深尾建貴

今回の下町まつりでは調査班として2年生が行う調査をマネジメントする立場となり事前準備を行ってきた。前の白山まつりの経験から、指導する側の説明力が実際の本番で及ばず影響を肌で感じ取っているため、2年生がわかりやすく、円滑に調査ができるようにマニュアル作りを入念に作った。その甲斐もあって調査当日は人数不足のために3年生が一時

的に調査の手伝いをしたこと以外は特に問題点もなく終えることができたのだが、円滑に調査を進めることの一点に集中した結果、サブ会場のイベントの時間を考慮できていなかったことに後々気づき、その結果サブ会場の一番の盛り上がり時間帯にサブ会場調査をすることができなかった。これは円滑に調査を進めることのみに集中し、視野が狭くなってしまったことが一番の原因だ。次の白山まつり調査では円滑さにプラスして抜け目のないようにマネジメントしていきたいと思う。

山本すみれ

先生、ゼミ生の協力で出店事業は成功させることができましたが、自分には素早く指示を出す、工夫を凝らすという能力が必要であると痛感しました。来年はゼミ長として皆をリードすることでこの能力をつけていきたいと思います。東海林ゼミに入ってから、物事をそのままこなすのではなく、一歩先まで工夫することを考えるようになりました。これはすべてに通じるものであり、まだまだ勉強が必要なことです。残りの一年間もゼミ活動を通じて、社会人としての基礎を身に付けていきたいと思います。また、来年は後輩指導にも力を入れます。

樽谷 友里那

一年間ゼミの活動を通し、「責任感」と「協調性」の重要性を再確認できた。特に北海道合宿では、会計班としてお金の管理や情報の伝達の任務を行い、その際に人をまとめるには信頼を得ることが重要で、さらに責任感を持った行動が必要であるということに気づかされた。また、日頃のゼミ活動をはじめ事業を行う上で協調性が必要であると学んだ。自分の意見を主張することも大事なことであるが、それを押しつけるのではなく、相手の意見もしっかりと聞き、受け入れることが重要であるのだ。

ゼミ活動を通して自分に足りなかった意識を持つことができたこと、またそれを今後社会に出ていくうえで生かしていきたいと思えたことは自分にとってとても大きな収穫となった。

大日方 拓也

4月からゼミの活動が始まり、自分は会計班として活動をしてきました。最初はお金の勘定に対して不安があったり、ゼミ合宿の幹事としてちゃんとできるのかという不安があったりと、不安だらけでした。それでも、各班のみんながしっかりと領収書を持ってきてくれたり、ゼミ合宿の時には各自が考えて行動をしてくれたおかげでスムーズな合宿にすることができました。この1年間を通してみんなで活動する楽しさと、意思疎通やコミュニケーションをまめにとるといふ難しさを学びました。楽しいことも辛いこともいくつもあり、とても充実したものです。この恵まれたゼミ環境で学べたことを誇りに思います。

小又 優也

1 年間のゼミ活動のなかで、私は下町祭りを通して、問題を発見しその原因を考察し、どう解決するかということがいかに重要であるかということを実感しました。今回お餅を蒸す作業を担当していたのですが、もち米の一部が蒸されずパサパサになってしまうという問題が起きてしまいました。そこで原因は蒸し時間なのか、もち米を水に浸しきれていなかったのかと考察し、蒸し時間などを変えて確かめてみたところ、後者に原因があることがわかりました。また、パサパサしてしまったもち米を餅つき機に入れる前に取り除くこと、もち米をお湯で浸し、できるだけパサパサしないようにする応急処置をしました。こうした問題の原因をいち早く見つけ、解決法を考える力、そしてそれを実行に移すことはとても重要であると思いました。

藤次真弓

このゼミでの一年間を振り返って私は人との連携の大切さを痛感しました。ゼミで出店した白山祭りと下町祭りでは、係りを分けて、それぞれが責任をもって行動したことが成功に繋がったのかなと思います。また、普段あまり関わる機会がない地域の方々に応援の声をもらったり、お話する機会になったことも良い経験となりました。ゼミ合宿では、普段は見れなかったり経験できなかったことがいろんな視点から感じることで、自分のプラスになることばかりでした。登山やアイヌの方々のお話を聞いたり、いろんな考え方があると実感しました。

前島 菜々子

私は、東海林ゼミでの数々の活動を通じて、外部との関わりはもちろんのこと内部との関わり、すなわちゼミ内部での関係が深まっていくのを、身をもって実感しました。ゼミ活動が始まった4月には、顔と名前の一致すら難しかったことが今ではいい思い出です。これまでゼミ生全員で物事を進めていくことで、衝突したことが何度もありました。しかしそのような中で一人一人の性質を見極め、互いの意思を尊重しつつ意見を言い合うことで、最終的にはより良い結果につながったと感じています。各グループでの活動、ゼミ全体での活動、そして2年生から4年生までの3学年が共に行う活動を通して、とても貴重な経験ができて嬉しく思います。ゼミの活動以外でも、いい刺激になる関係性を築けるようになるとは思ってもいませんでした。

(2) 2年生

中嶋果歩

この半年のゼミ活動を通して普段なかなかできない活動ができたことが自分にとって大きな経験になったと思います。ゼミ合宿では自分では絶対に登らないであろう高尾山にゼ

ミ生の皆さんと登ることが出来ました。本格的にゼミ活動が始まり下町祭りでは、アンケート調査や出店の手伝いをして、お祭りを運営する側に回って大変さや難しさや達成感を得ることが出来ました。まだまだ始まったばかりではありますが既にたくさんの経験があり、今度のゼミ活動につながっていくんじゃないかと思います。

太田 裕子

私たちの代から二年生の秋学期からのスタートということで、今年は「ゼミとは何か」を把握するのにいっぱいだったように思います。そんな中で、下町祭りに向けて準備をする三年生の先輩方や、アドバイスをする四年生の先輩方の姿はとてがかっこよく、私も一、二年経ったらあんな風に、周りとは協力し、よりよいもの近づけようと工夫できるようになりたいと感じました。来年からはさらに濃い一年とできるよう、先輩方の動きを観察し、アドバイスを頂きながらしっかりと自分の仕事をこなしていきたいです。

藤野 智子

ゼミ活動が9月から始まり、どんどん新しい経験をしています。まだ先輩方のやっていることを見て、ついていくのに必死ですがとても充実したゼミ活動ができていると思う日々です。下町祭りではアンケートをとったり、授業ではパノラマ写真の撮影の方法を教わったりなど、とても実践的で楽しみながら学んでいます。難しく感じることもありますが、これからさらに活動していく谷根千調査隊の方も意欲的に参加していきたいです。

川戸 優輝

ゼミの経験を通して感じたことは、PDS サイクルの重要さだ。夏休み中のゼミ活動に2回参加し、餅つきを経験した。1回目の練習においては、計画書があったことで皆が担当の仕事に迅速に取り組み、反省会では検討し直す点が多々挙げられたことで、反省点をふまえた写真付きの説明書が作成できた。そのおかげで、次の練習では初めての1年生もすぐに餅つきに参加できた。PDS サイクルの実行は今後の取り組み全般に活かせることなので、谷根千調査隊やバーチャルマップ作りでも意識的に実行し、その力を身につけたい。

内野 実紀

1年間のゼミ活動で印象に残っていることは、まず私たちの代からゼミ活動の開始期間が早まったため、始まってすぐはとても不安でした。しかし、谷根千調査や下町まつりなどの行事に参加させていただいたので、同級生や先輩方と早く打ち解けられましたし、それらの行事を通して沢山の新しい事を学ぶことが出来ました。さらに、谷根千のバーチャル観光マップに取り組みさせていただいたり、時間がある分先輩方がやらなかったことに挑戦させていただいているのはとても光栄なことなのでこれからもしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

城所 航二

秋学期からのゼミ活動を通して印象に残っていることは高尾山合宿と下町祭りです。合宿については初めての宿泊行事であり、同学年の人だけでなく先輩の方々とも交流することができました。下町祭りについては出店事業や実際に動向調査など行いとても良い経験となりました。新しく学ぶことが多く同学年や先輩方にも恵まれとても充実したゼミ活動でした。これからまたやるが増えていくと思うので楽しみながらも努力していきたいです。

齋藤 里沙

大学に入学してから、サークルに所属しなかったので先輩と関わる機会があまりありませんでした。そんな私にとってゼミの活動はとても楽しみなもので、実際に同じ目標に向かって先輩方とも活動することができ、とても貴重な経験をする事が出来ていると思います。同学年もすごく良い雰囲気なので、これからも自分の糧となることを積極的に吸収しつつ、活動に臨みたいと考えています。

高野 愛梨

ゼミ活動が始まってまだわずかししか経っていませんが、ゼミ合宿や下町祭り、谷根千調査など様々な経験を2年生からすることが出来て良かったです。特に、下町祭りでは実際に調査が出来たので、ゼミで活動しているという実感が持てました。まだ先輩たちの動きを見様見真似でやるのが精一杯ですが、来年からは自分たちで主体的に動けるようにしたいです。東海林ゼミは先輩と接する機会がたくさんあるので、もっと積極的に色々なことを学び、吸収していきたいと思います。

赤石 梨菜

2年生の秋学期からゼミが始まるということで不安と期待の気持ちでいっぱいでした。実際にゼミ活動をして印象に残っているのは、下町まつりと高尾山に登ったことです。来年のゼミ合宿で高尾山よりも大変な山を登ると考えると頑張らないと、と思いました。下町まつりでは、アンケートを取ったり、サブ会場の調査をしたり、地域の人と交流できて楽しかったです。来年からはおまつりや谷根千の調査など頑張りたいと思います。

太田 萌花

まだゼミに入ってから約2ヶ月ほどですが、ゼミ合宿や谷根千調査隊、下町祭りなどの多くの経験をする事ができました。下町祭りでは、アンケート調査や利用者数調査などのゼミ活動をしつつ、お祭り自体も楽しめたので特に印象に残っています。これからは今の2年生主体の活動が多くなるので、楽しむだけではなく、自分たちでしっかりと考えながらゼミ活動を頑張っていきたいと思います。

小杉 千紗

ゼミに入ってからまだ半年ほどですが、東海林ゼミでは学ぶことが多く、三年生になったらより多くのことを経験したいなと先輩方の姿をみて感じました。印象に残った活動としては、お祭りの屋台出店やサブ会場調査です。ここで初めてゼミ生として地域の方の意見を聞くことができたり、お祭りを楽しみながら地域との関わりや貢献について考える事ができました。また、先輩方の姿を見て、来年自分も成功させるために、頑張りたいと思いました。

鈴木 南帆

今年度からゼミ活動が2年次の秋学期から始まることになり、まだまだ分からないことばかりですが、ゼミが決まり始めて研究室に行ってから半年が経ってしまいました。

2年次は調査や調査結果のまとめなどを含め先輩方がフォローしてくださることが多いですが来年からは自分たちが中心になって活動していくと思うと不安でいっぱいです。今のうちから先輩方の動きをよく見て来年からてきぱき動けるようにしておきたいです。

土橋 豊

ゼミが始まってからまだ半年ですが、お祭り、谷根千調査、バーチャル観光マップなど様々な課題をやる事ができ非常に充実していました。出店事業では与えられた仕事しかできませんでした。しかし次年度からは運営・販売すべてに関わるので、自分で考え行動する事を意識します。そして、下町祭りで直接地域の方の声を聞いた経験を生かしたいです。4つの班に分かれる事でよりテーマが細分化され課題も増えると思いますが、仲間と協力しながら全力で取り組んでいきます。

成富 健

9月からゼミが始まり、多くのことを経験し学ぶことができたと思います。特に東海林ゼミではパソコンを使った授業が多く、これからの大学生活の様々な場面で活用出来るものがたくさんありました。またゼミ生と関わる時間が多くなり自分には欠けている部分を持っている人がたくさんいて刺激を受けることが多かったです。3年生からより本格的に様々なゼミのプロジェクトに参加することができるようになるので今学期に経験したことを生かしていきたいです。

城下 里奈

9月から3か月ほどゼミに参加し、まだ3か月とは思えないほど色々な活動をしました。最初の合宿では高尾山に登り、お祭りにも参加しました。お祭りは来年、私たちが主体になるので雰囲気を感じることができて良かったです。またお祭りの調査の際に地域の人と話すことができたのがとても有意義でした。谷根千調査隊は企業とコラボして行っているため、社会人と同じように責任をもってこれからも頑張りたいです。

末永 哲也

約3か月間のゼミ活動を通して今まで経験したことのない様々な活動をすることができた。下町祭りでのアンケート調査、サブ会場調査や、それぞれの班に分かれての谷根千調査などを行った。活動の中で、同学年と行うだけでなく、先輩方と一緒に活動することでゼミに対する熱意や仕事の行い方など、とても参考になるものを間近に見ることができて良かった。まだゼミ活動を始めて日が浅いが、これからのゼミ活動を真剣に取り組んでいこうと思う。

森 麻祐子

八王子ゼミ合宿から始まり、下町祭りの調査で先輩方の手伝いをさせていただいてまだ大きな活動は二回しかしていませんが、たくさんのことを得られました。八王子ゼミ合宿では全学年と先生も交えて高尾山に登ったり夜は朝まで起きて親睦を深めたりなど忘れられない二日間となりました。下町祭りの調査ではゼミ生みんなで協力して無事に終えることができ、とてもいい経験になりました。今後の活動も先生やゼミ生から刺激を受けながら行っていきたいです。

成田 大幸

ゼミの活動が始まったことで、人との関わりが増えたというのが自分の中では大きな出来事だったと感じます。同期も今まで話したことがない人が多いし、先輩とのつながりは今まで無かったので新鮮でした。八王子の合宿や下町祭りなど校外での活動が多く、楽しみながら普段出来ないことを経験できました。今のところ班の仕事などは任されていませんが、来年以降も楽しみながら責任感を持って活動していきたいです。

宮越 千尋

二年生になってから少しして、入りたいゼミに希望を出すときに東海林ゼミに決めた理由が、やることが明白で、自分たちのやり方次第ではかなり有益な経験になりそうだったからでした。入ってからまだ半年足らずですが、これらのことを身をもって感じてきています。これから要領よく行動し自分の意志をしっかりと持ちつつ他のメンバーと助け合い成長していこうという目標が出来ました。

居川 陽菜子

今年から2年生の秋からゼミ活動が始まり、最初は分からないことが多くありましたが、下町祭りでの調査や出店、谷根千調査など先輩方の姿を見て学びながら活動することができました。今までの授業と違い、ゼミで行う活動はどれも実践的で自ら動いて活動するものが多く、またバーチャルマップなど他ではなかなか学べないことも学べて、一つ一つの

活動がとても新鮮に感じました。この半年でゼミの基礎を学び、来年は先輩方のように主体となって活動できるように頑張りたいです。

小林 優奈

東海林ゼミでは、普段の学校生活や授業では経験できないことを体験しています。谷根千調査隊や、ツアーマップの作成など活動するたびに新しい発見でいっぱいです。ゼミに入ってからここまでの活動は、与えられた作業をこなすので精一杯で、あっという間でした。これからの活動でもゼミでしか学べないことを、たくさん学んでいきたいと思います。

塚本 雅美

今学期からゼミが始まり、入って間もなくゼミ合宿を経験し、同期や先輩方との絆を深めることが出来ました。先輩方はとても優しく、谷根千調査隊では事細かに活動内容を教えてくださいました。また初めて参加した下町祭りでは、出店の手伝いだけでなく来訪者の調査やサブ会場の調査を行い、客観的な目線からお祭りを知ることができました。下町祭りのような広い範囲で行われているお祭りに参加するのは初めてでとても新鮮でした。

松村 勇希

10月から本格的にゼミ活動がスタートして、ゼミ合宿、下町祭りなどを経験してきました。すべてが初めての事ばかりで、今日までは手探り状態が続いてきました。しかし、授業や活動を通して自分でもチャレンジしたい事を少しずつ見つけるようになりました。まだまだ始まったばかりですが、2年生のみんなをはじめ先輩方、東海林先生、多くのみなさんと共にこれからのゼミ活動にチャレンジ精神をもって取り組みたいです。

村山 実優

この短い期間でも沢山のことを経験し、その全てが新鮮でした。下町祭りではアンケート・カウント・サブ会場調査を通して、自分の目で見てお祭りの雰囲気を感じ取ったり、来訪者の傾向を掴んだりすることができました。また、先輩方の作業を間近で見ることが出来て良かったです。谷根千調査では、資料・現地調査ともに先輩方が丁寧に教えてください、さらに実際に足を運んでお手軽グルメを堪能し、楽しく調査ができました。この2つの活動が特に印象に残りました。これからの活動も頑張っていきたいです。

ゼミ活動会計報告

第Ⅸ章. ゼミ活動会計報告

(1) 収入

平成 27 年 5 月～7 月、9 月～11 月まで、毎月 1000 円をゼミ生 18 人と教授から徴収し、計 114,000 円となった。ゼミ合宿の残金と出店事業の収入は以下の通りである。

ゼミ費	114,000
合宿費残金	0
白山上出店会	58,250
下町まつり1日目	71,000
下町まつり2日目	85,500
合計	328,750

(2) 支出

平成 26 年 5 月から 11 月までに二つのお祭りにかかった費用は以下の通りである。また今年は増税の影響もあり、合宿費にゼミ費の一部をあてたためお祭りの練習費と合わせて円の支出となった。

白山上出店会	33,375
下町まつり	79,133
その他	166,507
合計	279,015

(3) 収支

収支は全体で 49,735 円の黒字となった。

編集後記

第X章. 編集後記

この一年間のゼミ活動は、私達9期生に多くの事を考えさせ、成長するための良いきっかけとなった。

白山・下町祭り、谷根千調査隊、阿寒湖畔調査などの活動を行い、座学だけでは経験できないことを、本ゼミでは経験する事ができました。頭で考えるだけではなく実際に現場に出て活動をする事で、その難しさや困難さを身をもって実感する事ができたと思います。

また、今までは3年生から始まるゼミ活動が、今年は後期から2年生も加わり、ゼミ生が約60人という人数での活動でした。やはり大人数での活動において、コミュニケーションを図ったり情報伝達を行う困難さもありますが、私達9期生は先輩方を見本にして取り組むだけでなく、先輩として10期生を引っ張っていくという機会を与えられ、それを全うできた事は誇りに思います。

来年は最上級生になるので、後輩の見本となるように一人一人の責任感をより一層高めていくとともに、新たなチャレンジもしていきたいと考えています。

このような多くの事を学ぶ機会を与えてくださった東海林先生、本当にありがとうございました。



